

茨木市次世代育成支援に関するニーズ調査
結果報告書（案）
（未就学児童・小学生の保護者）

令和6（2024）年3月
茨 木 市

目 次

I 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査概要	1
3. 配布・回収結果	1
4. 報告書の見方	2
II 調査結果	3
1. 家族構成や保護者の就労状況について	3
2. 平日に定期的に利用している幼稚園や保育所、認定こども園などについて	19
3. 学童保育の利用について	27
4. こどもの病気等の際の対応について	34
5. 土曜等や長期休暇中の幼稚園や保育所、認定こども園などの定期的な 利用希望について	38
6. 育児休業など、仕事と子育ての両立について	41
7. 未就学児童（5歳以上）の就学後の放課後等の過ごし方や入学に関する ことについて	50
8. 子どもを預かるサービスの不定期な利用について	53
9. 地域の子育て支援サービスの利用状況について	58
10. 市役所などへの要望について	63
11. こどもの生活習慣について	67
12. こどものふだんの過ごし方について	70
13. 地域での自然体験などへの参加について	71
14. 子育てを支援する生活環境の整備やこどもの安全の確保について	75
15. 子育てに関する意識について	77
III 調査結果からみえてきた今後の課題	86
1. 仕事と子育ての両立支援	86
2. 理想とする子どもの数が持てるための対策の充実	87
3. 地域での子育て支援サービスの充実	87
4. 相談・情報提供体制の充実	88
5. 子育て家庭の孤立を防ぐ支援策の充実	88

I 調査の概要

1. 調査の目的

現行の「茨木市次世代育成支援行動計画（第4期）」が令和6（2024）年度末で終了することから、子ども・子育て支援法に基づく「子ども・子育て支援事業計画」を含めた、本市の次世代育成支援に関する施策を総合的・計画的に推進するための新たな計画となる「茨木市次世代育成支援行動計画（第5期）」（2025～2029年度）を策定することとしている。

本調査は、新たな計画策定にあたって、市民の子ども・子育て支援施策の利用状況と今後の利用希望、また子育て世帯の生活実態、意見・要望などを把握することを目的に実施した。

2. 調査概要

- （1）調査地域 茨木市全域
- （2）調査対象 市内在住の未就学児童の保護者
市内在住の小学生の保護者
- （3）対象者数 住民基本台帳から、未就学児童の保護者 2,500 人、
小学生の保護者 2,500 人の合計 5,000 人を無作為抽出
- （4）調査方法 郵送配布－郵送・WEB（併用）回収
- （5）調査期間 令和5（2023）年12月4日（月）～令和5（2023）年12月25日（月）
（調査期間内にお礼状兼督促状を1回送付）

3. 配布・回収結果

単位：件

	配布数	不達数	有効配布数	有効回収数			有効回収率
					郵送回答	WEB回答	
未就学児童保護者	2,500	2	2,498	1,258	702	556	50.4%
小学生児童保護者	2,500	0	2,500	1,334	721	613	53.4%

4. 報告書の見方

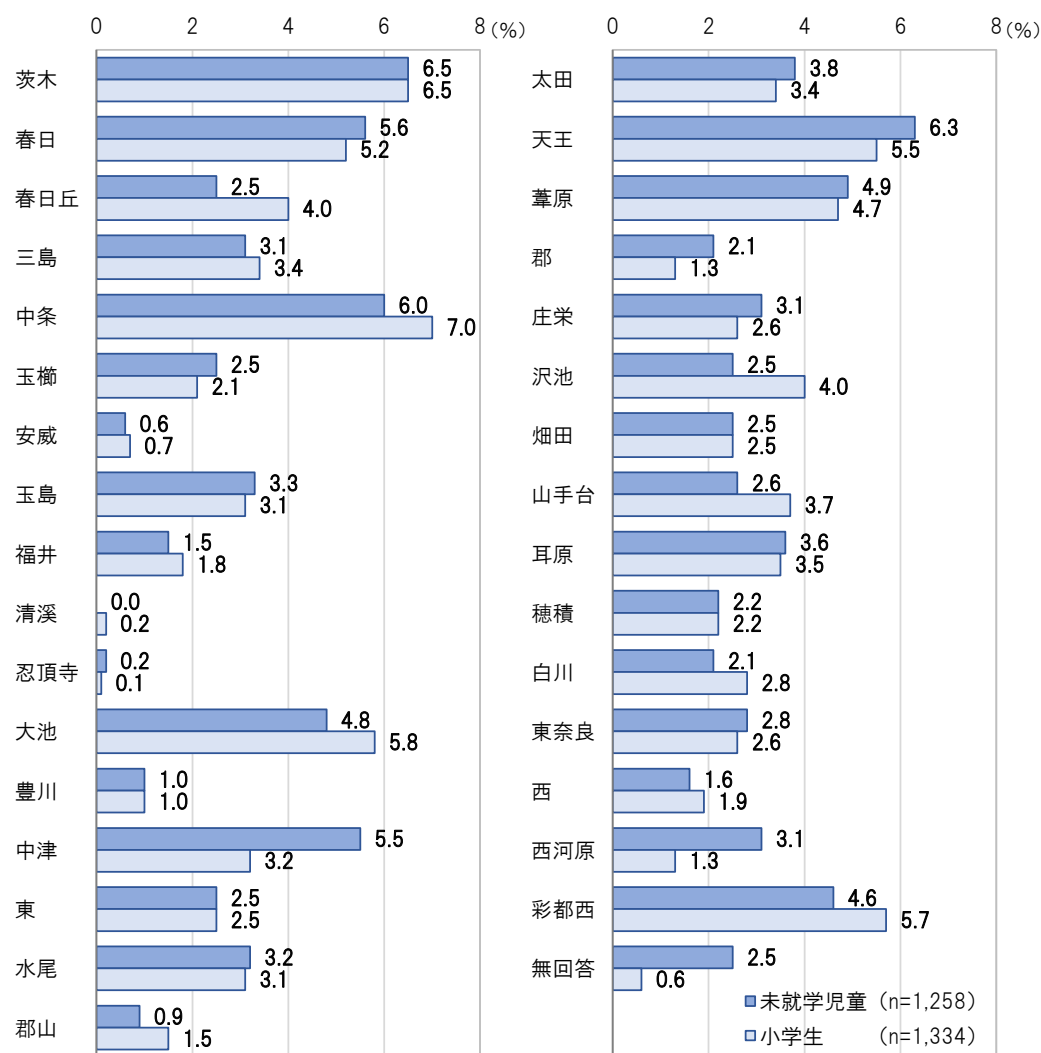
- グラフおよび表のn数 (number of case)、「回答者数」は、有効標本数（集計対象者総数）を表す。
- 回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示してある。
- 百分率は小数点以下第2位を四捨五入して算出している。このため、百分率の合計が100%にならないことがある。
- 1つの質問に2つ以上答えられる“複数回答可能”の場合は、回答比率の合計が100%を超える場合がある。
- グラフ等の記載にあたっては、調査票の選択肢の文言を一部省略している場合がある。
- 年齢別、学年別、家庭類型別等のクロス集計表については、無回答やその他を除いて、1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。なお、割合が同じ回答が複数ある場合は、3項目以上に網掛けをしている場合がある。

Ⅱ 調査結果

1. 家族構成や保護者の就労状況について

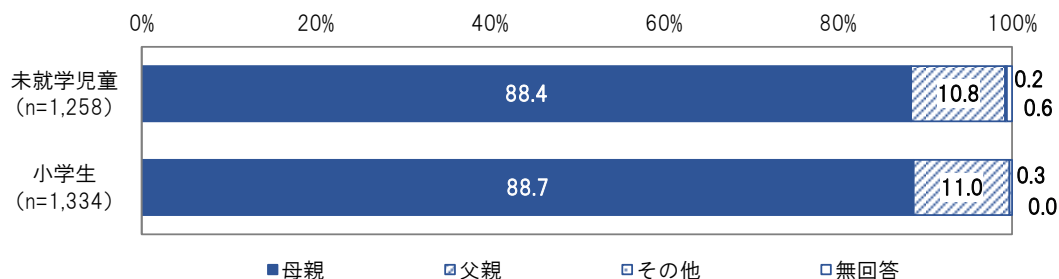
(1) 居住学区（小学校区）【未就学・小学生／問1 記述回答】

○居住学区についてみると、「茨木」が未就学児童で6.5%、「中条」が小学生で7.0%と最も高くなっている。



(2) 回答者の続柄【未就学・小学生／問2 単数回答】

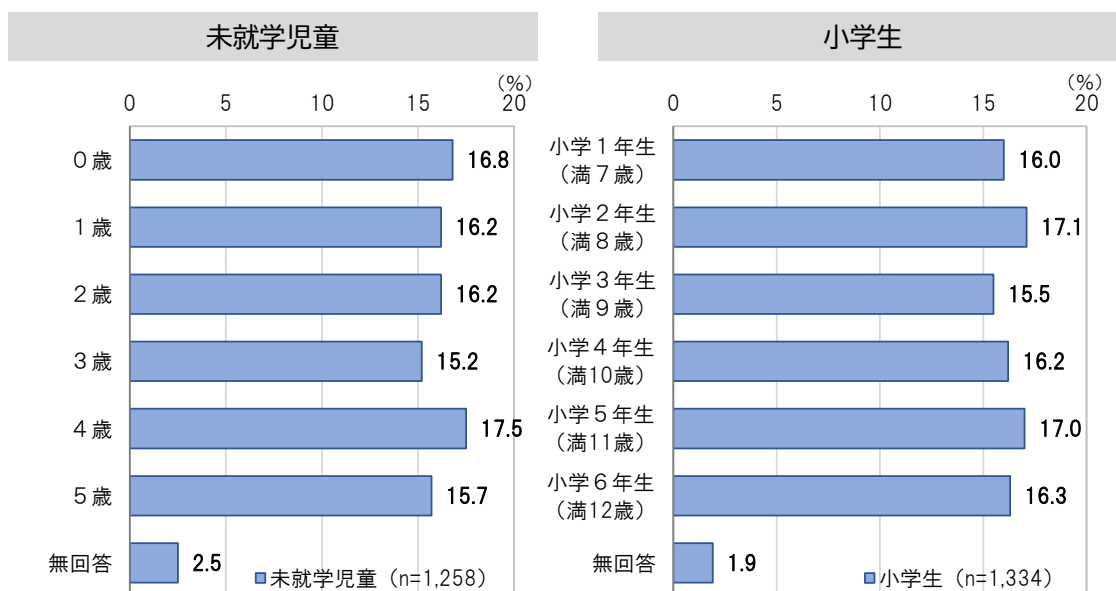
○回答者の続柄は、「母親」が未就学児童で88.4%、小学生で88.7%と最も高くなっている。



(3) 対象のこどもの年齢と学年（令和5年12月1日現在）【未就学・小学生／問3 数量回答】

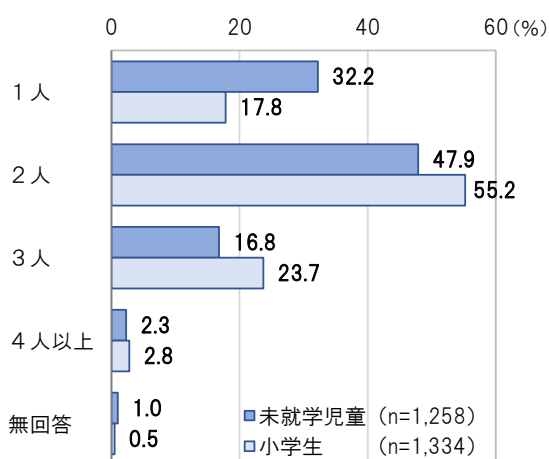
○未就学児童の年齢は、「4歳」が17.5%、「0歳」が16.8%、「1歳」および「2歳」が16.2%となっている。

○小学生の学年は、「小学2年生（満8歳）」が17.1%、「小学5年生（満11歳）」が17.0%、「小学6年生（満12歳）」が16.3%となっている。



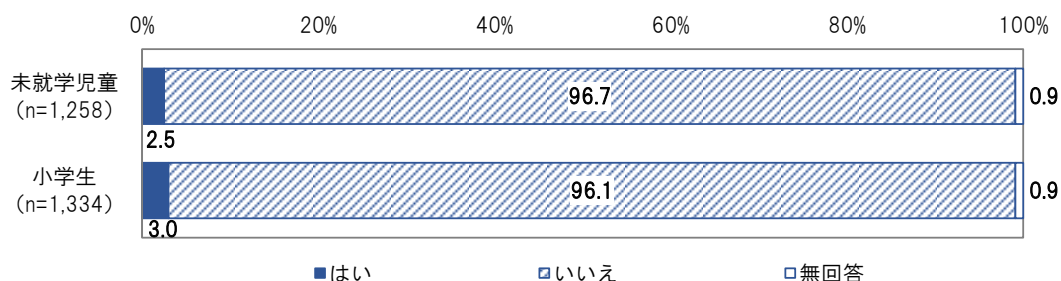
(4) きょうだいの人数【未就学・小学生／問4 数量回答】

○きょうだいの人数は、「2人」が未就学児童で47.9%、小学生で55.2%と最も高く、次いで、未就学児童で「1人」が32.2%、小学生で「3人」が23.7%となっている。



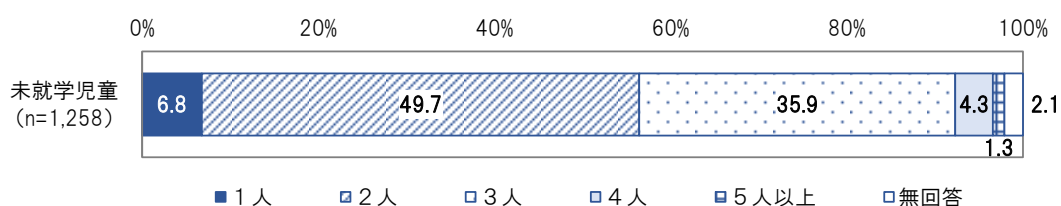
（４－１）多胎のこどもの有無【未就学・小学生／問４－１ 単数回答】

○多胎のこどもの有無は、未就学児童・小学生ともに「いいえ」が最も高く、「はい」は未就学児童で2.5%、小学生で3.0%となっている。



（５）希望するこどもの人数【未就学／問５ 数量回答】

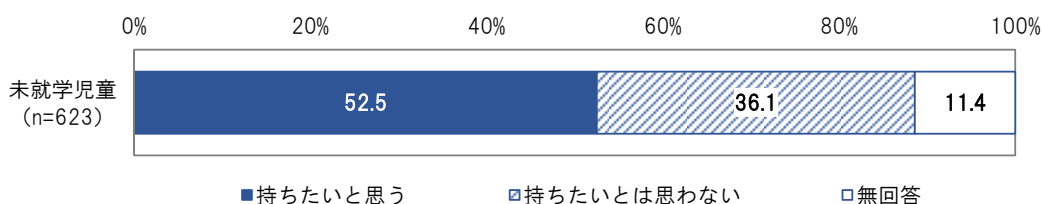
○希望するこどもの人数は、「２人」が49.7%と最も高く、次いで「３人」が35.9%、「１人」が6.8%となっている。



（６）現在の家庭・教育環境等でもう１人以上のこどもを持ちたいと思うか【未就学／問６ 単数回答】

※（５）の人数を（４）の人数より多く回答した人のみ

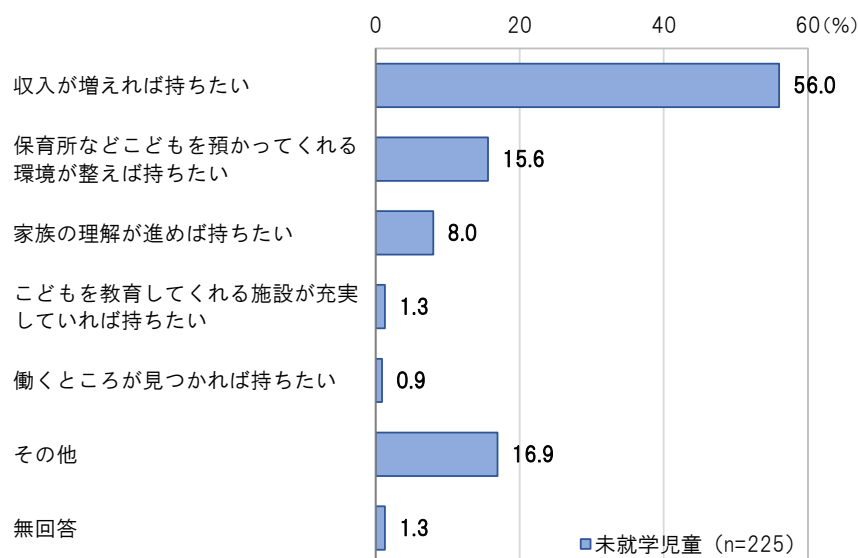
○現在の家庭・教育環境等でもう１人以上のこどもを持ちたいと思うかでは、「持ちたいと思う」が52.5%と高く、「持ちたいとは思わない」が36.1%となっている。



(6-1) もう1人以上のこどもを持ちたいと思うために必要な環境【未就学／問6-1 単数回答】

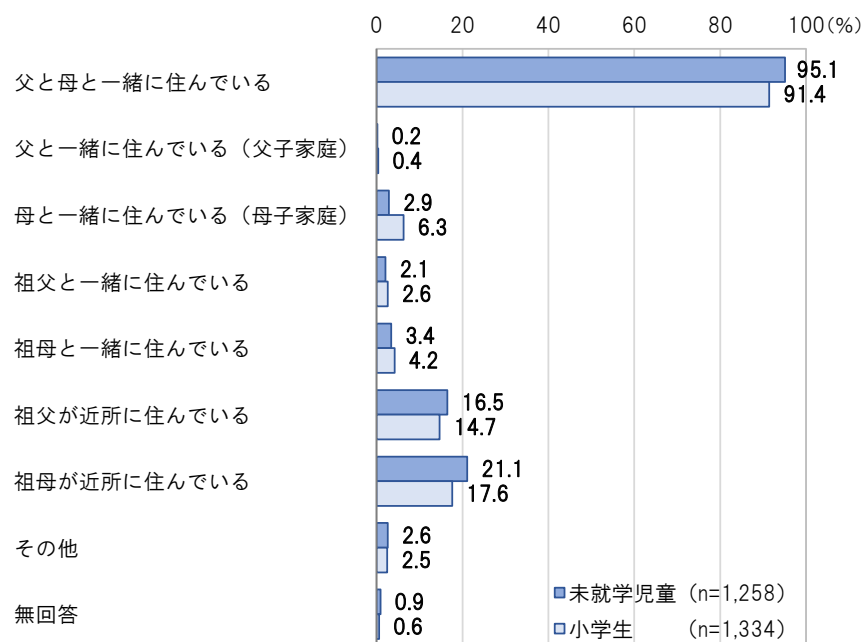
※(6)で「持ちたいとは思わない」と回答した人のみ

○もう1人以上のこどもを持ちたいと思うために必要な環境は、「収入が増えれば持ちたい」が56.0%と最も高く、次いで「保育所などこどもを預かってくれる環境が整えば持ちたい」が15.6%となっている。



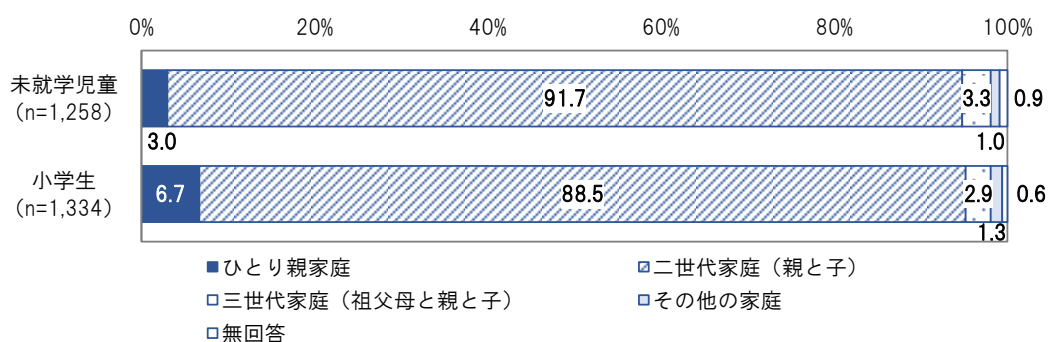
(7) 同居・近居の状況【未就学／問7 複数回答、小学生／問5 複数回答】

○同居・近居の状況は、「父と母と一緒に住んでいる」が未就学児童で95.1%、小学生で91.4%と最も高くなっている。



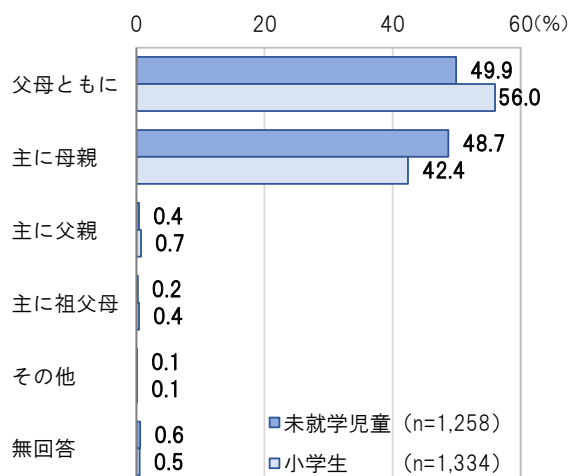
《家族形態集計》

- （７）同居・近居の状況より、家族形態を区分すると、「二世世代家庭（親と子）」が未就学児童で 91.7%、小学生で 88.5%と最も高く、次いで、未就学児童では「三世世代家庭（祖父母と親と子）」が 3.3%、小学生では「ひとり親家庭」が 6.7%となっている。



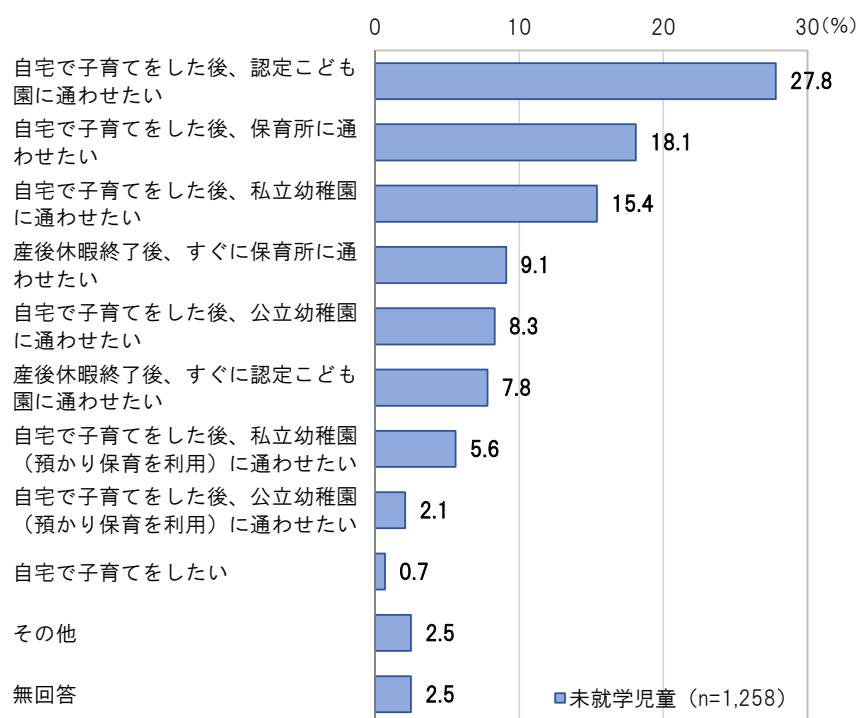
（８）子育てを主に行っている人【未就学／問8 単数回答、小学生／問6 単数回答】

- 子育てを主に行っている人は、「父母ともに」が未就学児童で 49.9%、小学生で 56.0%と最も高く、次いで、「主に母親」（未就学児童：48.7%、小学生：42.4%）となっている。
- 「父母ともに」では小学生が未就学児童に比べて高く、「主に母親」では未就学児童が小学生に比べて高くなっており、こどもが小さいうちは母親が主に子育てを担っているケースが多いことがわかる。



(9) 就学前の子育てについての希望【未就学／問9 単数回答】

○就学前の子育てについての希望は、「自宅で子育てをした後、認定こども園に通わせたい」が27.8%と最も高く、次いで「自宅で子育てをした後、保育所に通わせたい」(18.1%)、「自宅で子育てをした後、私立幼稚園に通わせたい」(15.4%)となっている。



《自宅で子育てをしたい期間》

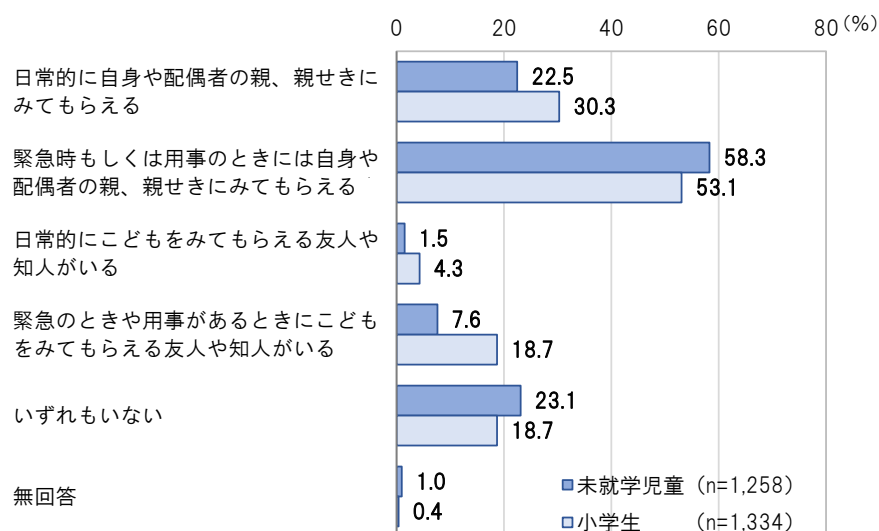
○自宅で子育てをしたい期間では、[認定こども園][保育所]を利用したい人では「2歳まで」が最も高く、それ以外の事業では「3歳まで」が最も高くなっている。

										(%)
		回答者数 (人)	0歳まで	1歳まで	2歳まで	3歳まで	4歳まで	5歳まで	6歳まで	無回答
利用 したい 事業別	認定こども園	350	1.4	27.1	31.7	27.1	11.1	0.3	0.6	0.6
	保育所	228	0.9	33.3	38.6	15.4	9.2	0.4	0.9	1.3
	私立幼稚園	194	0.5	－	7.7	47.9	36.6	4.1	3.1	－
	公立幼稚園	105	－	1.9	7.6	47.6	32.4	4.8	2.9	2.9
	私立幼稚園（預かり保育利用）	70	－	－	18.6	62.9	17.1	－	1.4	－
	公立幼稚園（預かり保育利用）	27	－	7.4	14.8	48.1	25.9	3.7	－	－

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(10) 日頃、こどもをみてくれる人の有無【未就学／問 10 複数回答、小学生／問 7 複数回答】

○日頃、こどもをみてくれる人の有無は、「緊急時もしくは用事ときには自身や配偶者の親、親せきにみてもらえる」が未就学児童で 58.3%、小学生で 53.1%と最も高く、次いで、未就学児童では「いずれもない」が 23.1%、小学生では「日常的に自身や配偶者の親、親せきにみてもらえる」が 30.3%となっている。

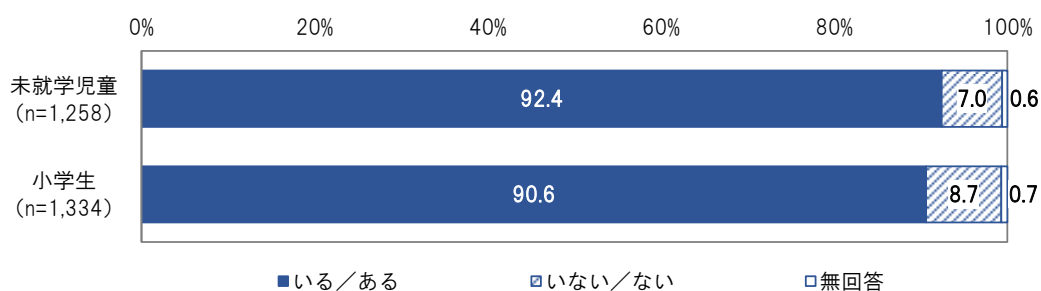


(11) 子育てや教育について気軽に相談できる人・場所の有無

【未就学／問 11 単数回答、小学生／問 8 単数回答】

○子育てや教育について気軽に相談できる人・場所の有無は、「いる／ある」が未就学児童で 92.4%、小学生で 90.6%と最も高くなっている。

○また、「いない／ない」は、未就学児童で 7.0%、小学生で 8.7%と、ともに 1 割近くとなっている。

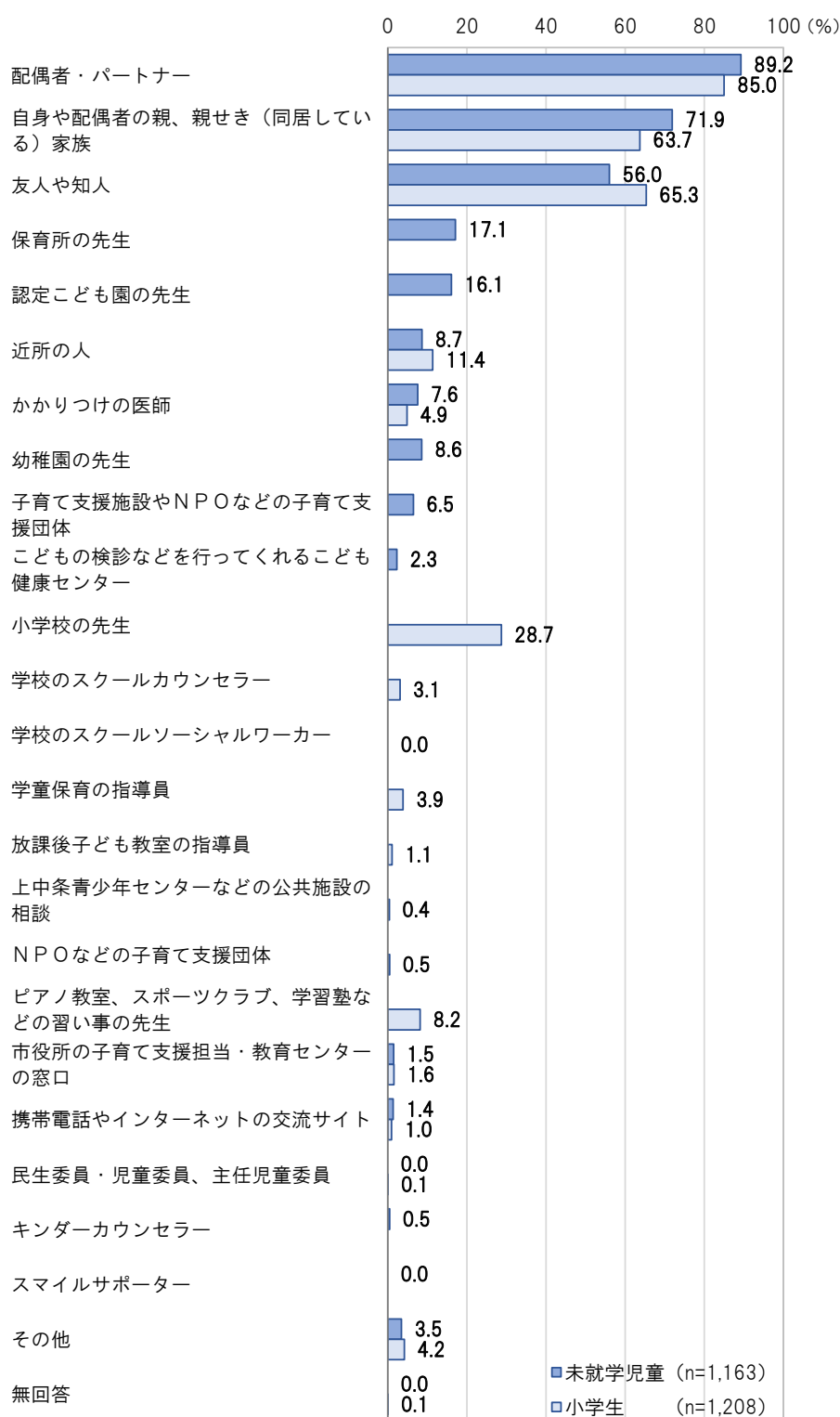


(11-1) 子育てや教育について気軽に相談できる人・場所

【未就学／問 11-1 複数回答、小学生／問 8-1 複数回答】

※ (11) で「いる／ある」と回答した人のみ

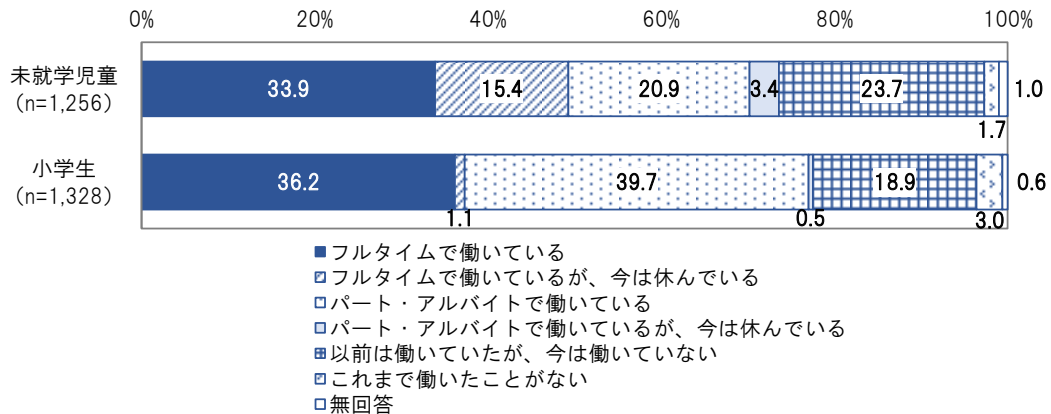
○子育てや教育について気軽に相談できる人・場所は、「配偶者・パートナー」が未就学児童で 89.2%、小学生で 85.0%と最も高く、次いで、未就学児童では「自身や配偶者の親、親せき（同居している）家族」が 71.9%、小学生では「友人や知人」が 65.3%となっており、家族や友人に相談する人が多い傾向となっている。



(12) 保護者の就労状況

① 母親【未就学／問12 単数回答・問12-1・2 数量回答、小学生／問9 単数回答・問9-1・2 数量回答】

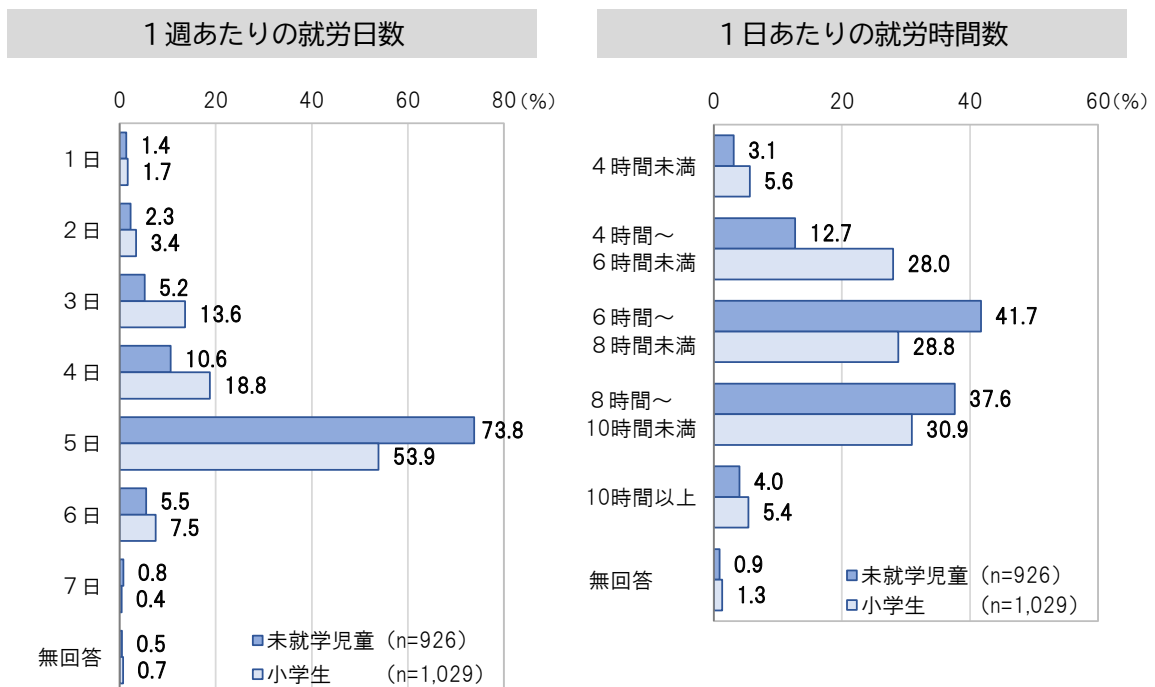
○母親の就労状況は、未就学児童では「フルタイムで働いている」が33.9%、小学生では「パート・アルバイトで働いている」が39.7%と最も高く、産休・育休・介護休業中で休んでいる人を合わせた、『働いている』人が、未就学児童では7割以上、小学生では8割近くを占めている。



《1週あたりの就労日数・1日あたりの就労時間数》

○1週あたりの就労日数は、「5日」が未就学児童で73.8%、小学生で53.9%と最も高くなっている。1日あたりの就労時間数は、未就学児童では「6時間～8時間未満」が41.7%、小学生では「8時間～10時間未満」が30.9%と最も高くなっている。

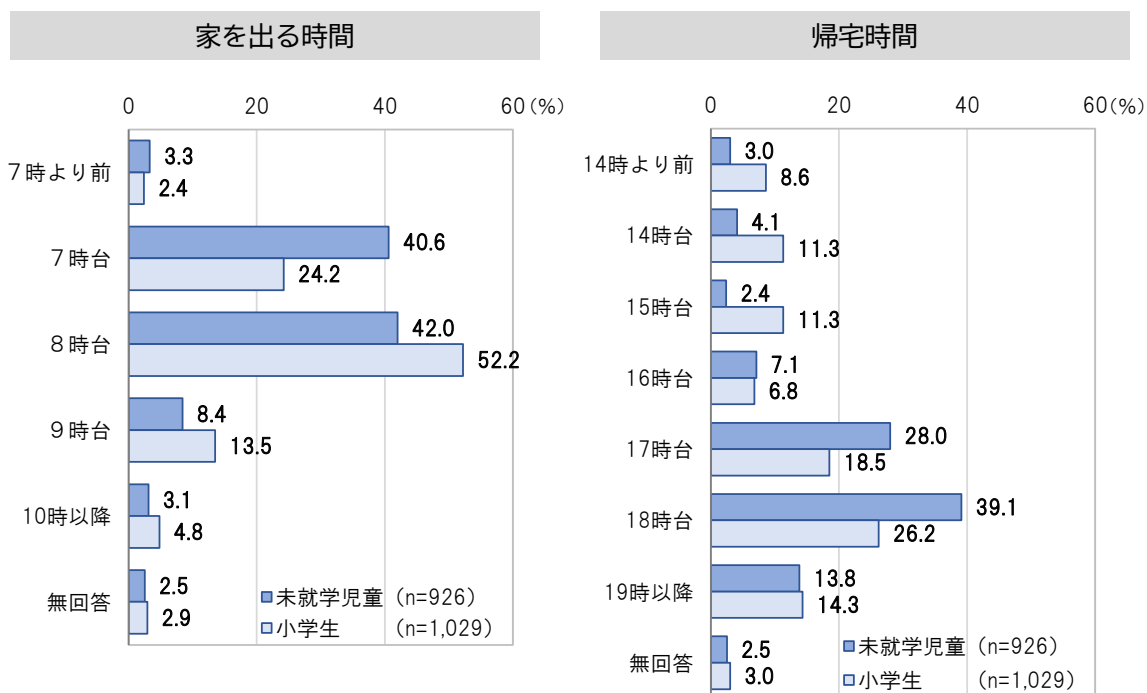
○就労形態として、「パート・アルバイトで働いている」が小学生で多いこともあり、就労日数・就労時間数ともに、小学生に比べて未就学児童で長い結果となっている。



《家を出る時間・帰宅時間》

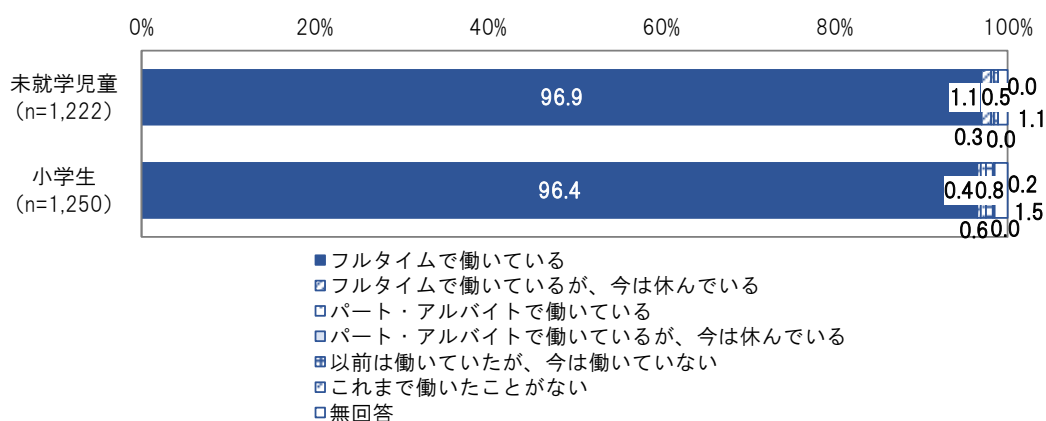
○家を出る時間は、「8 時台」が未就学児童で 42.0%、小学生で 52.2%と最も高くなっている。帰宅時間は、「18 時台」が未就学児童で 39.1%、小学生で 26.2%と最も高くなっている。

○就労形態として、「パート・アルバイトで働いている」が小学生で多いこともあり、未就学児童に比べて小学生では、家を出る時間は遅く、帰宅時間は早い傾向がみられる。



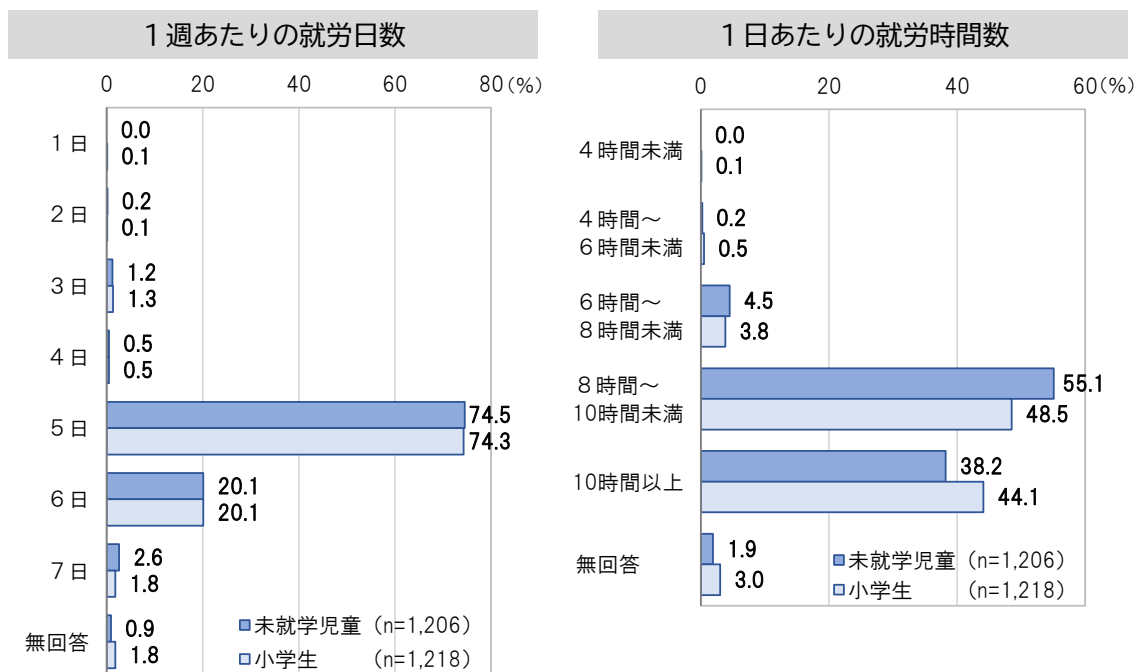
② 父親【未就学／問 13 単数回答・問 13-1・2 数量回答、小学生／問 10 単数回答・問 10-1・2 数量回答】

○父親の就労状況は、「フルタイムで働いている」が未就学児童で 96.9%、小学生で 96.4%と最も高くなっている。



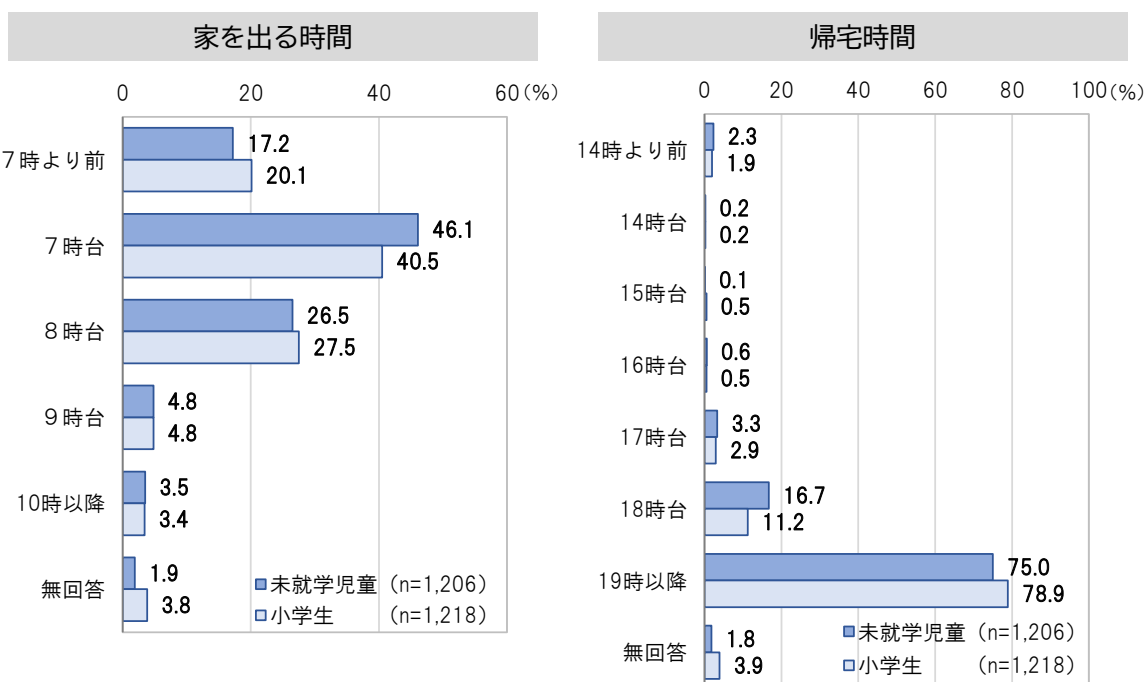
《1週あたりの就労日数・1日あたりの就労時間数》

○1週あたりの就労日数は、「5日」が未就学児童で74.5%、小学生で74.3%と最も高くなっている。1日あたりの就労時間数は、「8時間～10時間未満」が未就学児童で55.1%、小学生で48.5%と最も高くなっている。



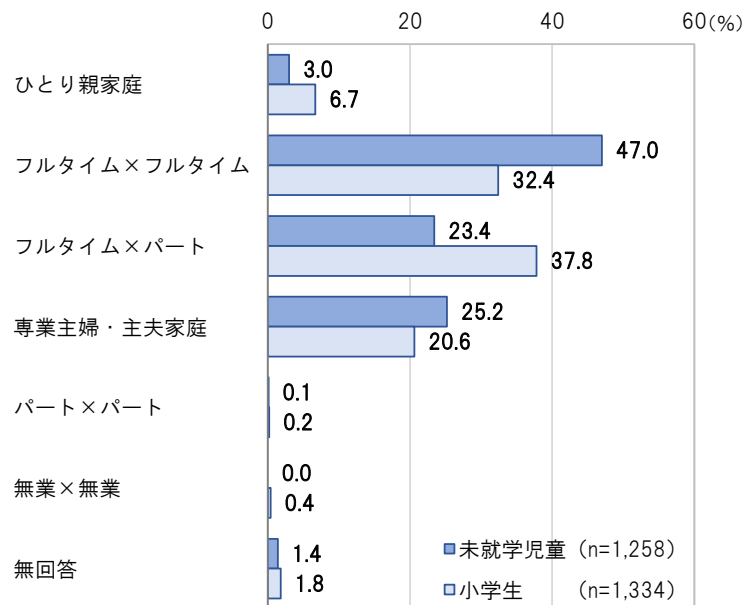
《家を出る時間・帰宅時間》

○家を出る時間は、「7時台」が未就学児童で46.1%、小学生で40.5%と最も高くなっている。帰宅時間は、「19時以降」が未就学児童で75.0%、小学生で78.9%と最も高くなっている。



《家庭類型》

- （７）同居・近居の状況、および（１２）保護者の就労状況より、家庭類型を区分すると、未就学児童では「フルタイム×フルタイム」が47.0%と最も高く、小学生では「フルタイム×パート」が37.8%と最も高くなっている。



【参考】家庭類型区分の考え方

		母親		12		7
		フルタイム (今は休んでいるを含む)	パート・アルバイト (今は休んでいるを含む)	今は働いていない・これまで働いたことがない	母と一緒に住んでいる (母子家庭)	
父親	フルタイム (今は休んでいるを含む)	フルタイム×フルタイム	フルタイム×パート	専業主婦・主夫家庭		
	パート・アルバイト (今は休んでいるを含む)	フルタイム×パート	パート×パート			
	今は働いていない・これまで働いたことがない					
7	父と一緒に住んでいる（父子家庭）	ひとり親家庭				

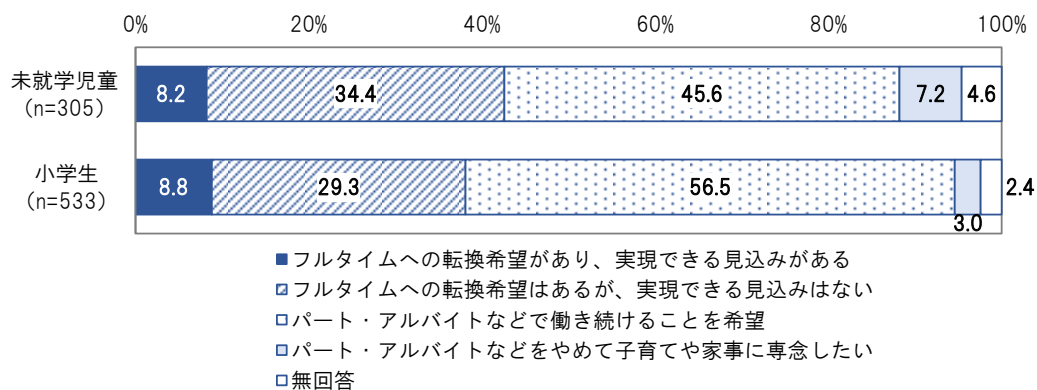
(12-1) フルタイムへの転換希望【未就学／問 14 単数回答、小学生／問 11 単数回答】

※ (12) で「パート・アルバイトで働いている」「パート・アルバイトで働いているが、今は休んでいる」と回答した人のみ

① 母親

○母親のフルタイムへの転換希望は、「パート・アルバイトなどで働き続けることを希望」が未就学児童で 45.6%、小学生で 56.5%と最も高く、次いで「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」（未就学児童：34.4%、小学生：29.3%）となっている。

○小学生に比べて未就学児童でフルタイムへの転換希望が高くなっている。



② 父親（母数が少ないため、グラフを省略）

○父親のパート・アルバイト就労（未就学児童：4人、小学生：8人）のフルタイムへの転換希望は、「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」が未就学児童で2人、それ以外は「パート・アルバイトなどで働き続けることを希望」の回答となっている。

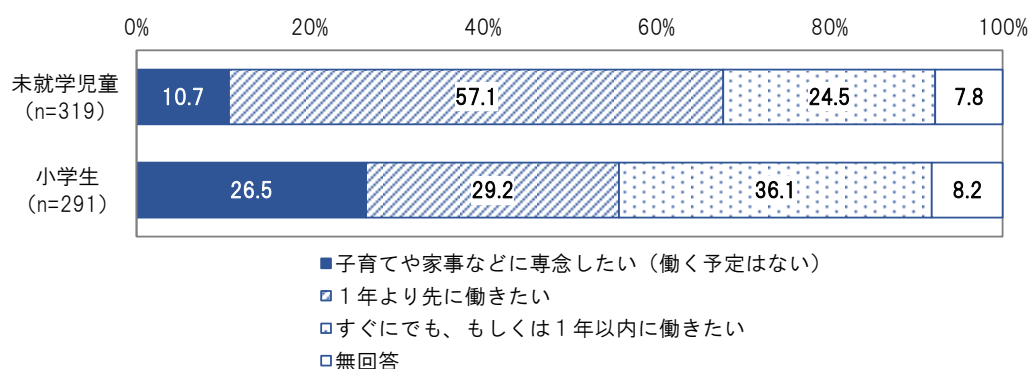
(12-2) 就労に対する希望【未就学／問 15 単数回答・数量回答、小学生／問 12 単数回答・数量回答】

※ (12) で「以前は働いていたが、今は働いていない」「これまで働いたことがない」と回答した人のみ

① 母親

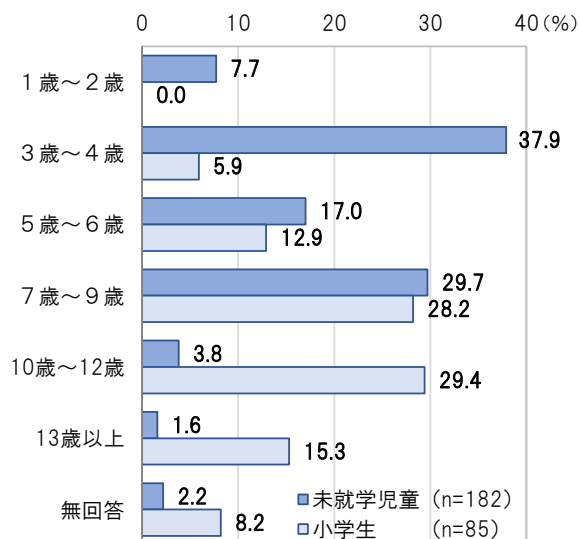
○働いていない母親の就労に対する希望は、未就学児童では「1年より先に働きたい」が57.1%、小学生では「すぐにでも、もしくは1年以内に働きたい」が36.1%と最も高くなっている。

○「1年より先に働きたい」と「すぐにでも、もしくは1年以内に働きたい」を合わせた『働きたい』の割合をみると、未就学児童では8割以上、小学生では6割以上と、未就学児童の方が高くなっている。



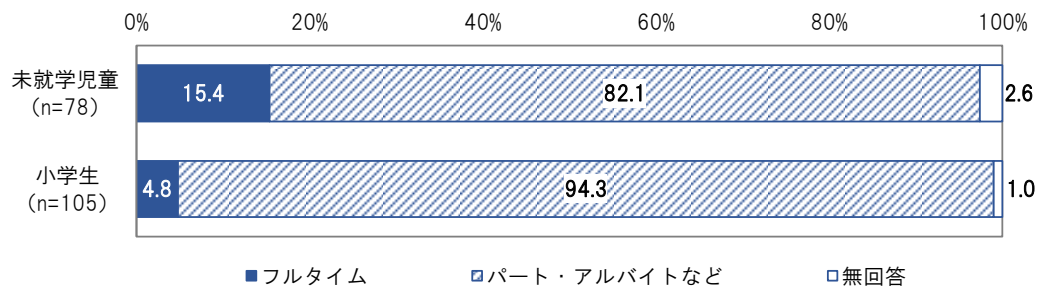
《1年より先で働きたいときの末子の年齢》

○1年より先で働きたいときの末子の年齢は、未就学児童では「3歳～4歳」が37.9%、小学生では「10歳～12歳」が29.4%と最も高くなっている。



《希望する働き方》

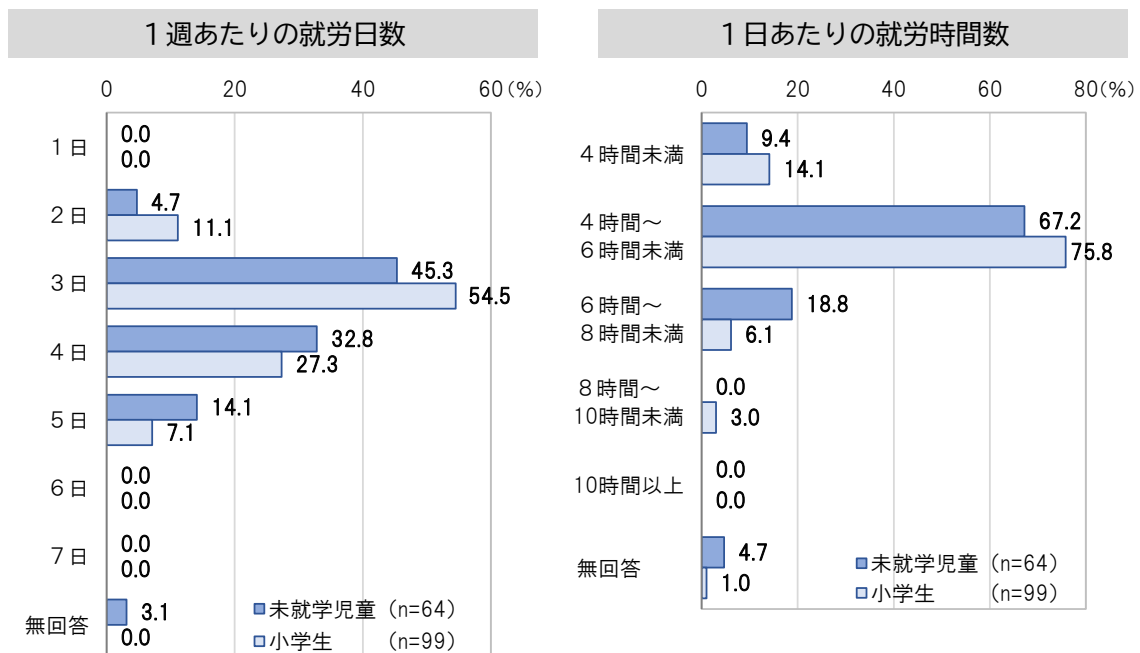
○希望する働き方は、「パート・アルバイトなど」が未就学児童で 82.1%、小学生で 94.3%と最も高くなっている。



《希望する1週あたりの就労日数・1日あたりの就労時間数》

○希望する1週あたりの就労日数は、「3日」が未就学児童で 45.3%、小学生で 54.5%と最も高くなっている。1日あたりの就労時間数は、「4時間～6時間未満」が未就学児童で 67.2%、小学生で 75.8%と最も高くなっている。

○現在の就労状況と同様に、就労日数・就労時間数ともに、小学生に比べて未就学児童で長い結果となっている。



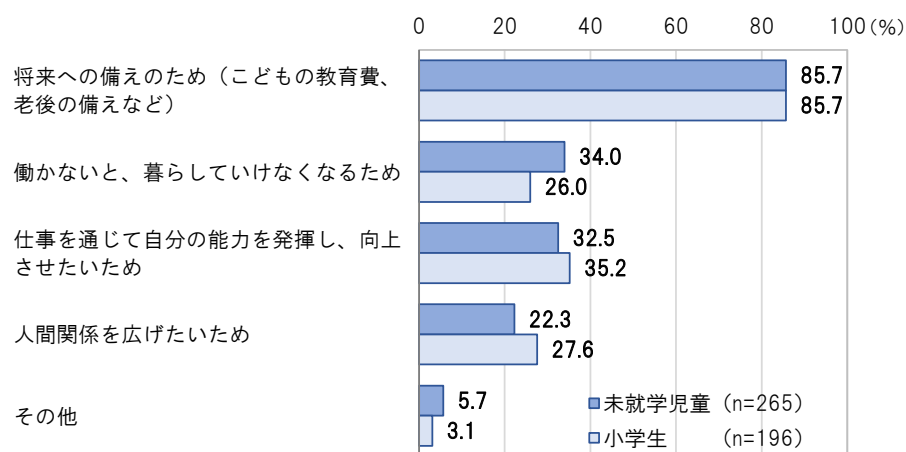
② 父親 (母数が少ないため、グラフを省略)

○父親の働いていない人 (未就学児童：6人、小学生：13人) の就労に対する希望は、未就学児童・小学生ともに「すぐにでも、もしくは1年以内に働きたい」が最も高くなっており、希望する働き方は未就学児童では「フルタイム」、小学生では「パート・アルバイトなど」が最も高くなっている。

(12-3) 就労を希望する理由【未就学／問 15-1 複数回答、小学生／問 12-1 複数回答】

※ (12-2) で「1 年より先に働きたい」「すぐにでも、もしくは1 年以内に働きたい」と回答した人のみ

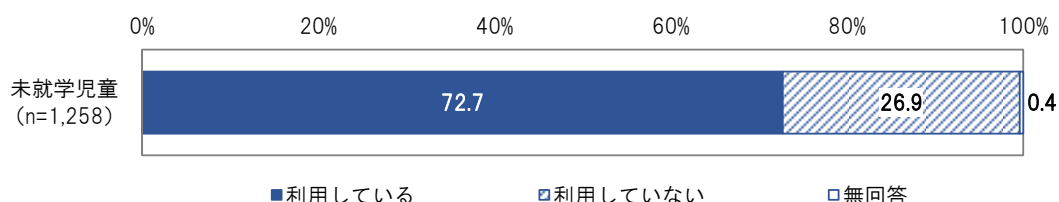
○就労を希望する理由は、「将来への備えのため（こどもの教育費、老後の備えなど）」が未就学児童・小学生ともに 85.7%と最も高く、次いで、未就学児童では「働かないと、暮らしていけなくなるため」が 34.0%、小学生では「仕事を通じて自分の能力を発揮し、向上させたいため」が 35.2%となっている。



2. 平日に定期的に利用している幼稚園や保育所、認定こども園などについて

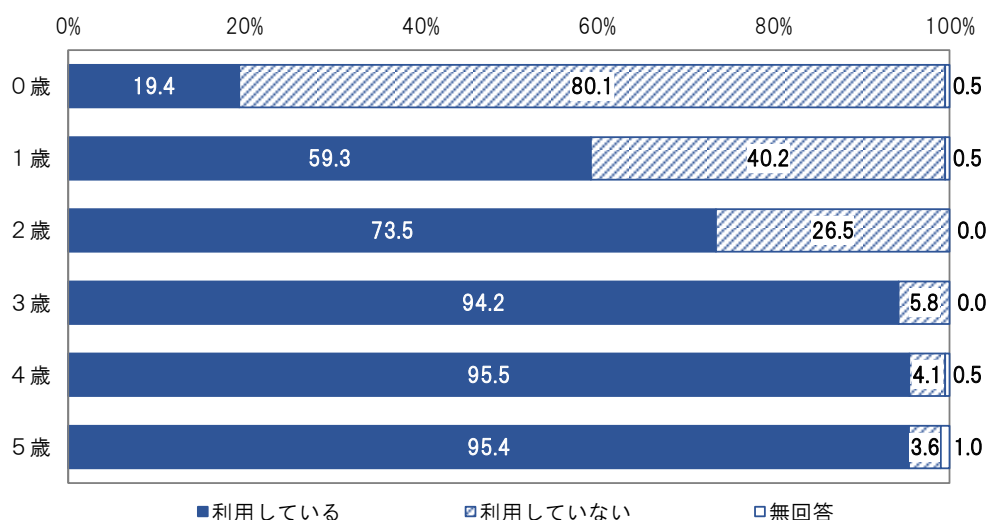
(1) 平日にこどもを預かる施設・サービスの利用の有無【未就学／問 16 単数回答】

○平日にこどもを預かる施設・サービスの利用の有無は、「利用している」が72.7%、「利用していない」が26.9%となっている。



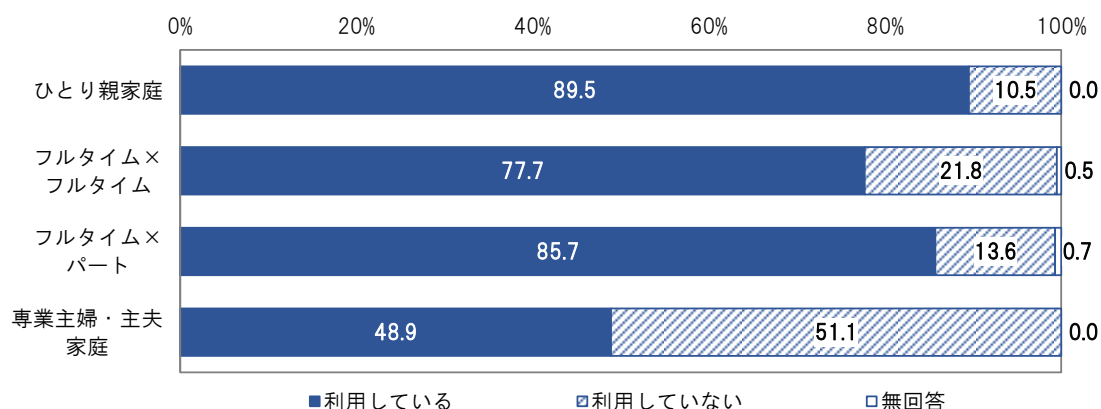
《年齢別比較》

○年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「利用している」が高くなっており、[3歳]以上ではほぼ全員が「利用している」と回答している。



《家庭類型別比較》

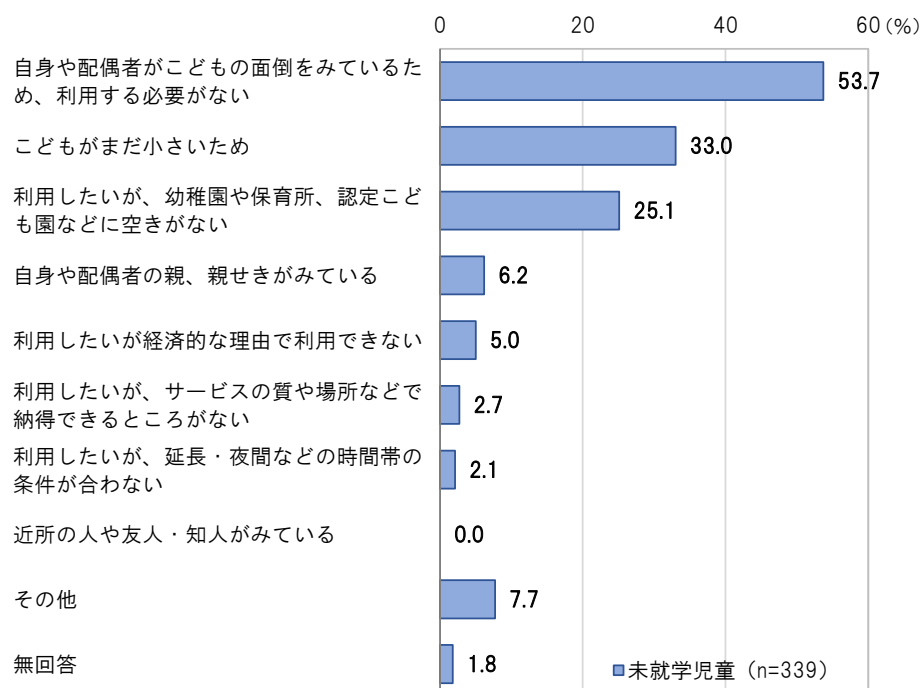
○家庭類型別にみると、「利用している」の割合は、[ひとり親家庭]で89.5%と最も高く、次いで[フルタイム×パート]で85.7%、[フルタイム×フルタイム]で77.7%となっている。



(1-1) 平日に子どもを預かる施設・サービスを利用していない理由【未就学／問 16-1 複数回答】

※(1)で「利用していない」と回答した人のみ

○平日に子どもを預かる施設・サービスを利用していない理由は、「自身や配偶者が子どもの面倒をみているため、利用する必要がない」が53.7%と最も高く、次いで「子どもがまだ小さいため」(33.0%)、「利用したいが、幼稚園や保育所、認定子ども園などに空きがない」(25.1%)となっている。



《家庭類型別比較》

○家庭類型別にみると、[フルタイム×フルタイム]では「利用したいが、幼稚園や保育所、認定子ども園などに空きがない」がその他の家庭類型に比べて高くなっている。

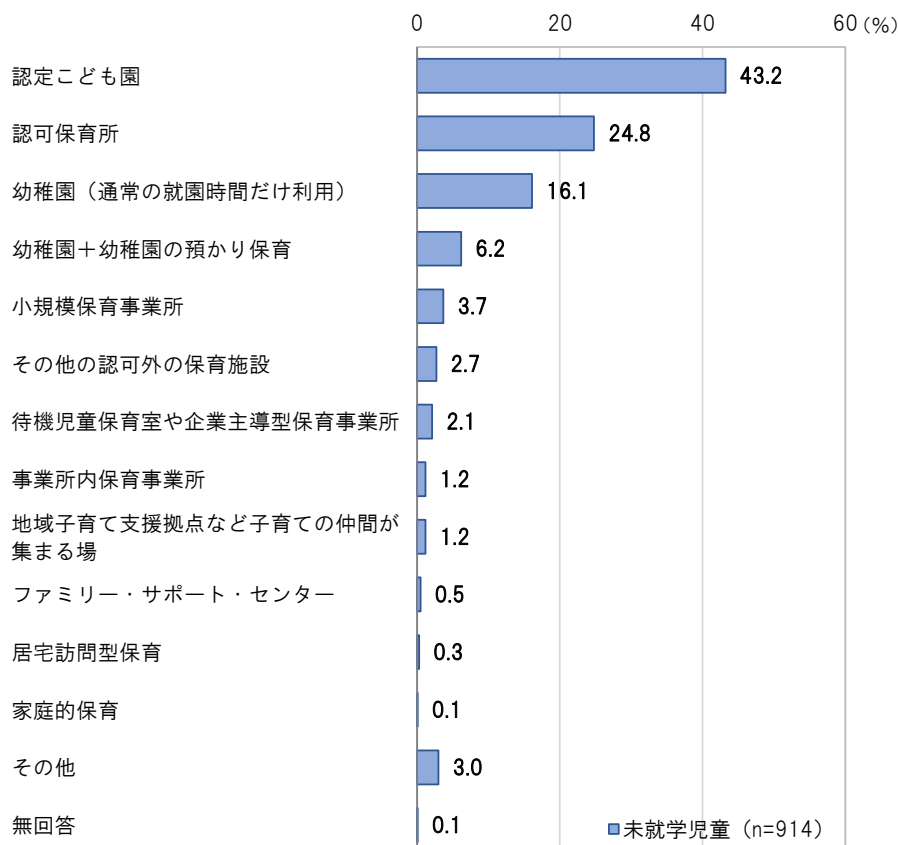
		(%)										
		回答者数(人)	自身や配偶者が子どもの面倒をみているため、利用する必要がない	子どもがまだ小さいため	利用したいが、幼稚園や保育所、認定子ども園などに空きがない	自身や配偶者の親、親せきがみている	利用したいが経済的な理由で利用できない	利用したいが、サービスの質や場所などで納得できるところがない	利用したいが、延長・夜間などの時間帯の条件が合わない	近所の人や友人・知人がみている	その他	無回答
家庭類型別	ひとり親家庭	4	50.0	25.0	25.0	-	-	-	-	-	-	-
	フルタイム×フルタイム	129	38.0	35.7	36.4	6.2	1.6	0.8	0.8	-	9.3	1.6
	フルタイム×パート	40	45.0	32.5	22.5	5.0	15.0	5.0	5.0	-	12.5	2.5
	専業主婦・主夫家庭	162	69.1	31.5	16.0	6.8	5.6	3.7	2.5	-	5.6	1.2

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(1-2) 平日に定期的に利用している施設・サービス【未就学／問 16-2 複数回答】

※(1)で「利用している」と回答した人のみ

○平日に定期的に利用している施設・サービスは、「認定こども園」が43.2%と最も高く、次いで「認可保育園」(24.8%)、「幼稚園(通常の就園時間だけ利用)」(16.1%)となっている。



《年齢別比較》

○年齢別にみると、すべての年齢で「認定こども園」が最も高く、次いで、[3歳]では「幼稚園(通常の就園時間だけ利用)」、その他の年齢では「認可保育園」となっている。

(%)

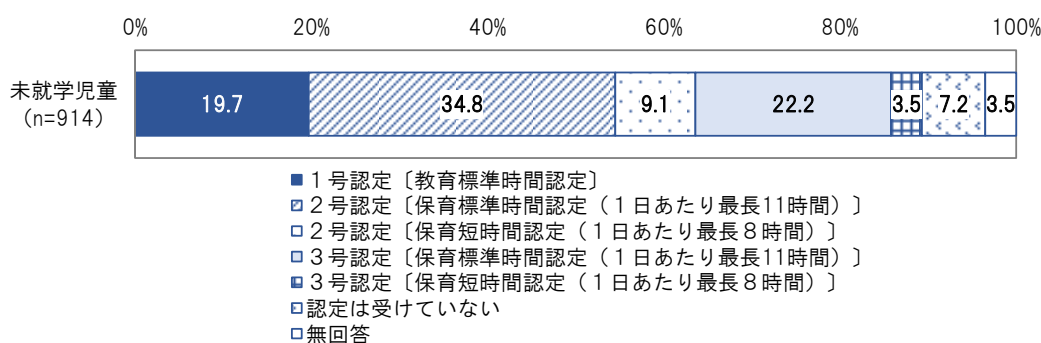
		回答者数(人)	認定こども園	認可保育園	幼稚園(通常の就園時間だけ利用)	幼稚園+幼稚園の預かり保育	小規模保育事業所	その他の認可外の保育施設	待機児童保育室や企業主導型保育事業所	事業所内保育事業所	地域子育て支援拠点など子育ての仲間が集まる場	ファミリー・サポート・センター	居宅訪問型保育	家庭的保育	その他	無回答
年齢別	0歳	41	48.8	26.8	2.4	-	7.3	4.9	4.9	2.4	4.9	-	-	-	-	-
	1歳	121	40.5	25.6	-	0.8	10.7	9.9	7.4	3.3	2.5	-	0.8	-	1.7	-
	2歳	150	38.7	32.7	4.7	0.7	10.7	4.0	2.0	2.0	0.7	0.7	-	0.7	6.0	-
	3歳	180	44.4	20.0	27.8	4.4	0.6	1.7	1.7	-	1.7	0.6	-	-	2.2	0.6
	4歳	210	44.3	23.8	21.0	11.4	-	0.5	-	0.5	1.0	0.5	0.5	-	4.8	-
	5歳	188	45.2	22.9	21.8	11.7	-	0.5	0.5	1.1	-	1.1	-	-	1.1	-

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(1-3) 教育・保育給付の認定状況【未就学／問 16-3 単数回答】

※(1)で「利用している」と回答した人のみ

○教育・保育給付の認定状況は、「2号認定〔保育標準時間認定（1日あたり最長11時間）〕」が34.8%と最も高く、次いで「3号認定〔保育標準時間認定（1日あたり最長11時間）〕」が22.2%、「1号認定〔教育標準時間認定〕」が19.7%となっている。

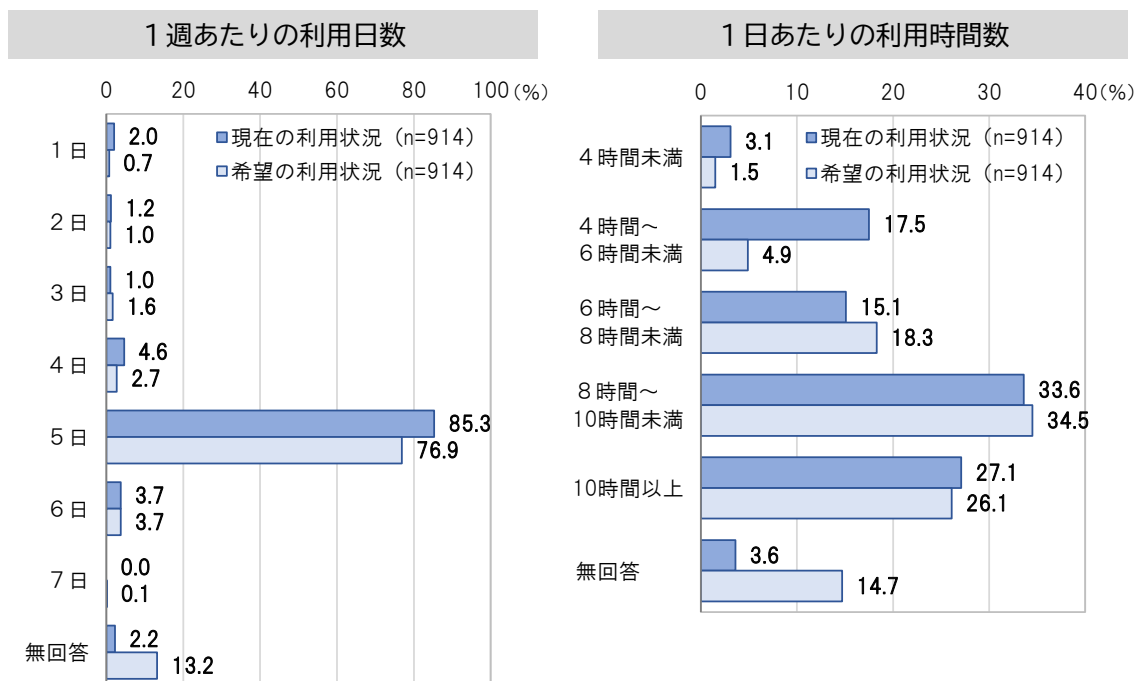


(1-4) 平日に定期的に利用している施設・サービスの利用状況と希望【未就学／問 16-4 数量回答】

※(1)で「利用している」と回答した人のみ

《1週あたりの利用日数・1日あたりの利用時間数》

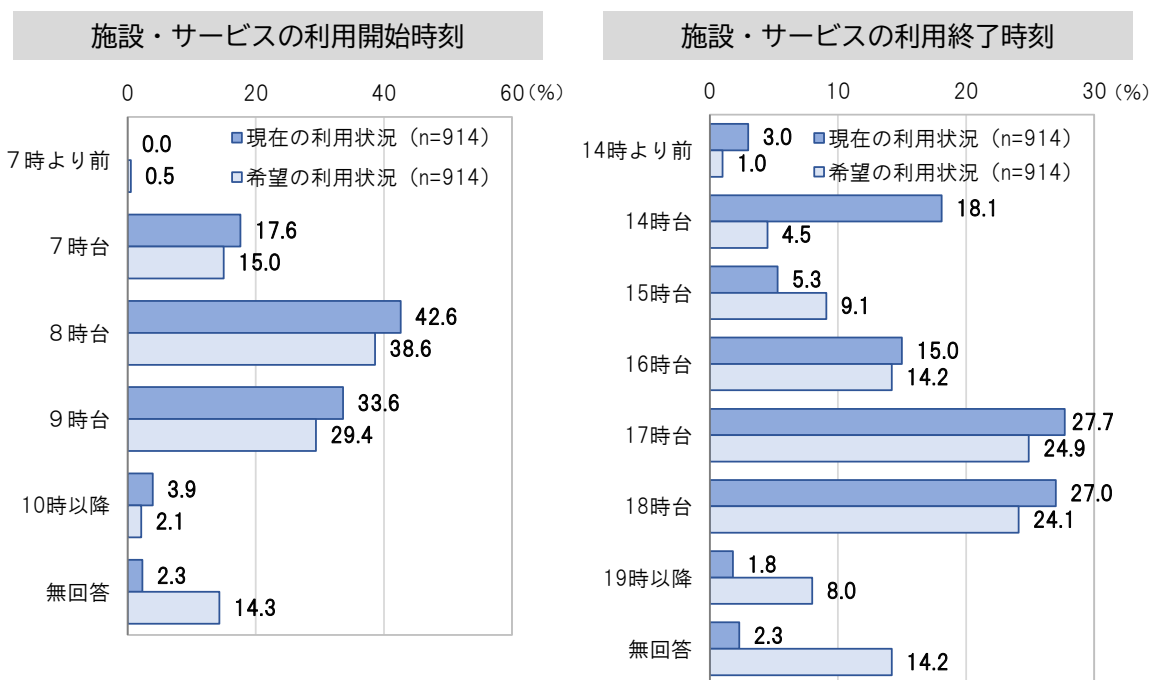
○現在の利用状況・希望の利用状況ともに、1週あたりの利用日数は「5日」、1日あたりの利用時間数は「8時間～10時間未満」が最も高くなっている。



《施設・サービスの利用開始・終了時刻》

○現在の利用状況・希望の利用状況ともに、施設・サービスの利用開始時刻は「8時台」、利用終了時刻は「17時台」が最も高くなっている。

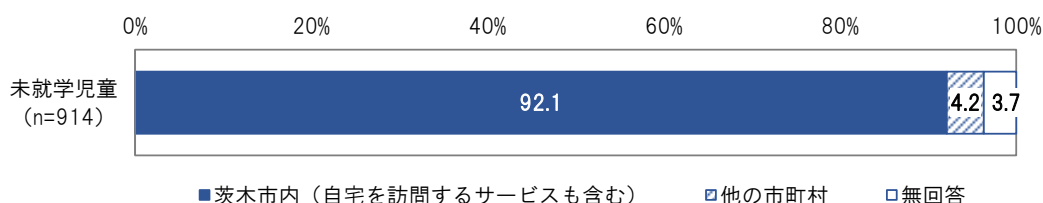
○利用終了時刻では、「19時以降」で、現在の利用状況に比べて希望の利用状況が高い割合となっており、遅い時刻までの利用を望む人が多くなっている。



(1-5) 利用している施設・サービスの所在地【未就学／問16-5 単数回答】

※(1)で「利用している」と回答した人のみ

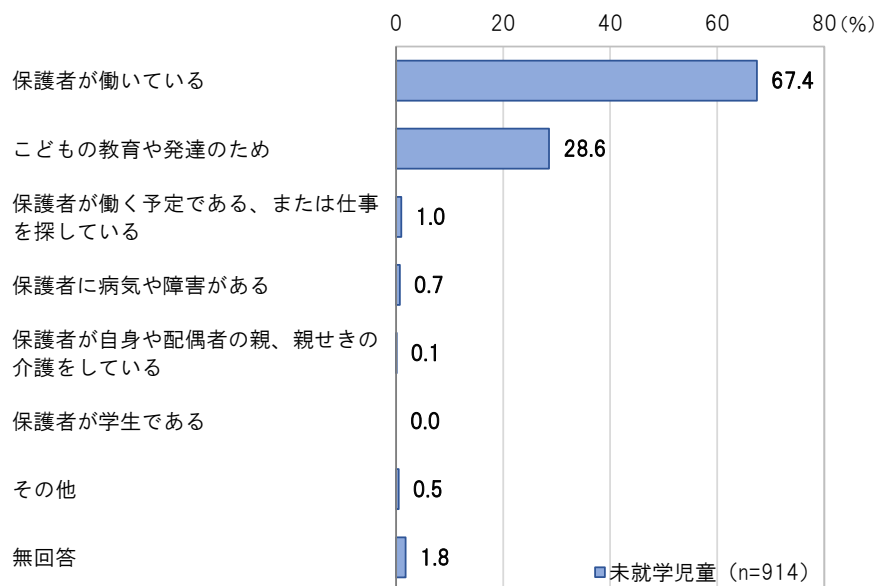
○利用している施設・サービスの所在地は、「茨木市内(自宅を訪問するサービスも含む)」が92.1%と最も高くなっている。



(1-6) 平日にこどもを預かる施設・サービスを利用している理由【未就学／問16-6 単数回答】

※(1)で「利用している」と回答した人のみ

○平日にこどもを預かる施設・サービスを利用している理由は、「保護者が働いている」が67.4%と最も高く、次いで「こどもの教育や発達のため」(28.6%)となっている。



《家庭類型別比較》

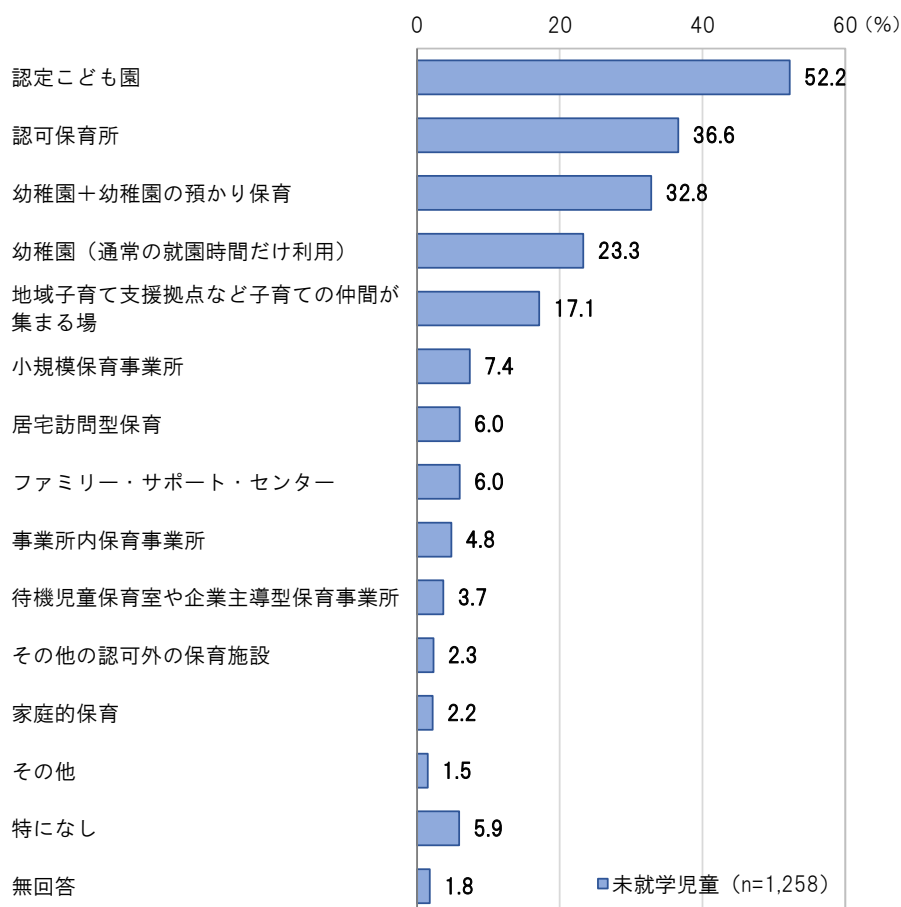
○家庭類型別にみると、[ひとり親家庭][フルタイム×フルタイム][フルタイム×パート]では「保護者が働いている」、[専業主婦・主夫家庭]では「こどもの教育や発達のため」が最も高くなっている。

			(%)							
		回答者数(人)	保護者が働いている	こどもの教育や発達のため	保護者が働く予定である、または、仕事を探している	保護者に病気や障害がある	保護者が自身や配偶者の親、親せきの介護をしている	保護者が学生である	その他	無回答
家庭類型別	ひとり親家庭	34	79.4	11.8	-	5.9	-	-	-	2.9
	フルタイム×フルタイム	459	91.1	6.5	1.1	-	-	-	0.2	1.1
	フルタイム×パート	252	63.9	33.3	0.4	-	-	-	-	2.4
	専業主婦・主夫家庭	155	3.2	87.1	1.9	1.9	0.6	-	2.6	2.6

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(2) 平日に定期的な利用を希望する預かる施設・サービス【未就学／問 18 複数回答】

○平日に定期的な利用を希望する預かる施設・サービスは、「認定こども園」が52.2%と最も高く、次いで「認可保育所」(36.6%)、「幼稚園＋幼稚園の預かり保育」(32.8%)となっている。



《年齢別比較》

○年齢別にみると、すべての年齢で「認定こども園」が最も高く、次いで、[0歳] から [2歳] では「認可保育所」、[3歳] から [5歳] では「幼稚園＋幼稚園の預かり保育」となっている。

(%)

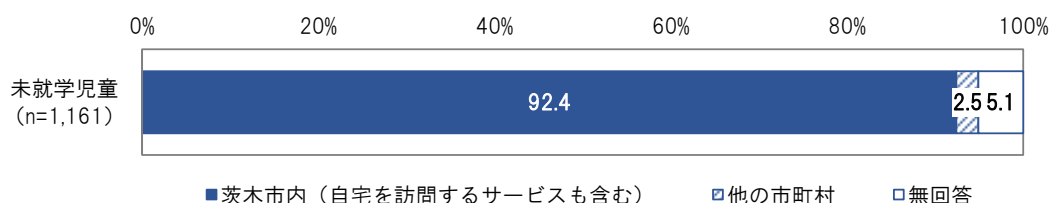
		回答者数 (人)	認定こども園	認可保育所	幼稚園＋幼稚園の預かり保育	幼稚園（通常の就園時間だけ利用）	地域子育て支援拠点など子育ての仲間が集まる場	小規模保育事業所	居宅訪問型保育	ファミリー・サポート・センター	事業所内保育事業所	待機児童保育室や企業主導型保育事業所	その他の認可外の保育施設	家庭的保育	その他	特になし
年齢別	0歳	211	60.2	49.3	24.6	19.0	33.6	17.5	5.7	8.1	5.2	7.1	4.7	1.9	1.4	5.2
	1歳	204	62.7	44.6	31.4	22.1	26.5	14.2	11.3	9.3	5.4	6.9	3.4	3.4	1.0	5.9
	2歳	204	54.9	37.7	35.3	25.0	14.7	5.4	3.9	4.4	4.4	2.5	2.0	0.5	1.0	5.9
	3歳	191	47.1	25.7	34.6	24.6	12.6	3.7	6.3	5.2	6.3	2.1	2.1	3.1	2.1	4.7
	4歳	220	45.5	33.2	35.9	25.0	9.1	1.8	5.9	6.4	3.2	2.3	0.9	2.3	1.8	6.4
	5歳	197	43.1	27.4	36.0	23.9	6.6	1.0	2.5	3.0	5.1	1.0	0.5	2.5	1.5	7.6

※1番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。（無回答は省略）

（２－１）利用を希望する施設・サービスの所在地【未就学／問 18-1 単数回答】

※（２）でいずれかの施設・サービスを回答した人のみ

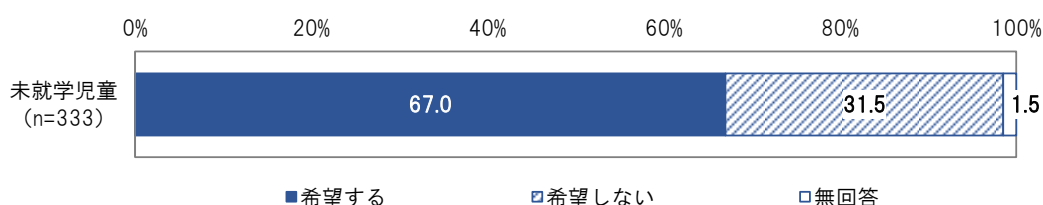
○利用を希望する施設・サービスの所在地は、「茨木市内（自宅を訪問するサービスも含む）」が 92.4%と最も高くなっている。



（２－２）幼稚園の利用意向【未就学／問 18-2 単数回答】

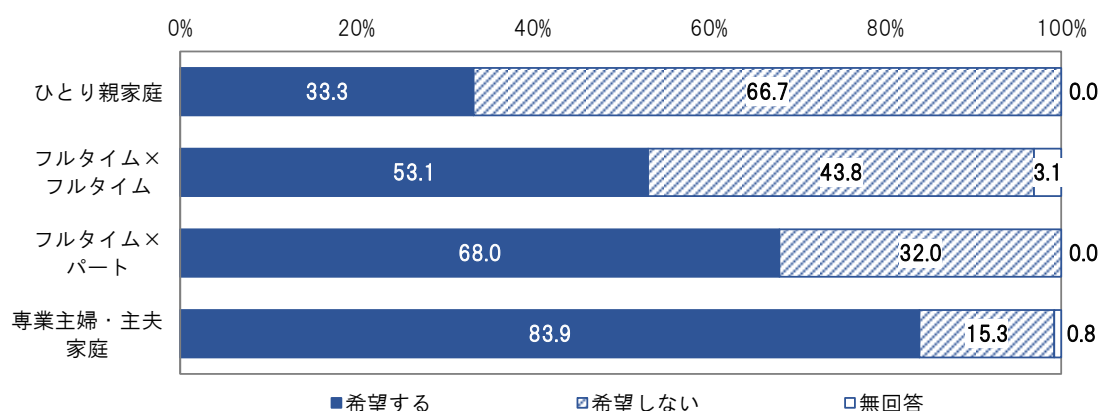
※（２）で「幼稚園」「幼稚園＋幼稚園の預かり保育」と、その他の施設・サービスを回答した人のみ

○幼稚園の利用意向は、「希望する」が 67.0%、「希望しない」が 31.5%となっている。



《家庭類型別比較》

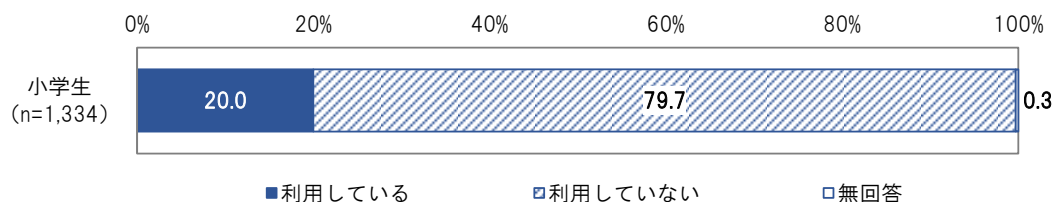
○家庭類型別にみると、「希望する」の割合は、[専業主婦・主夫家庭]で 83.9%と最も高く、次いで [フルタイム×パート]で 68.0%、[フルタイム×フルタイム]で 53.1%となっている。



3. 学童保育の利用について

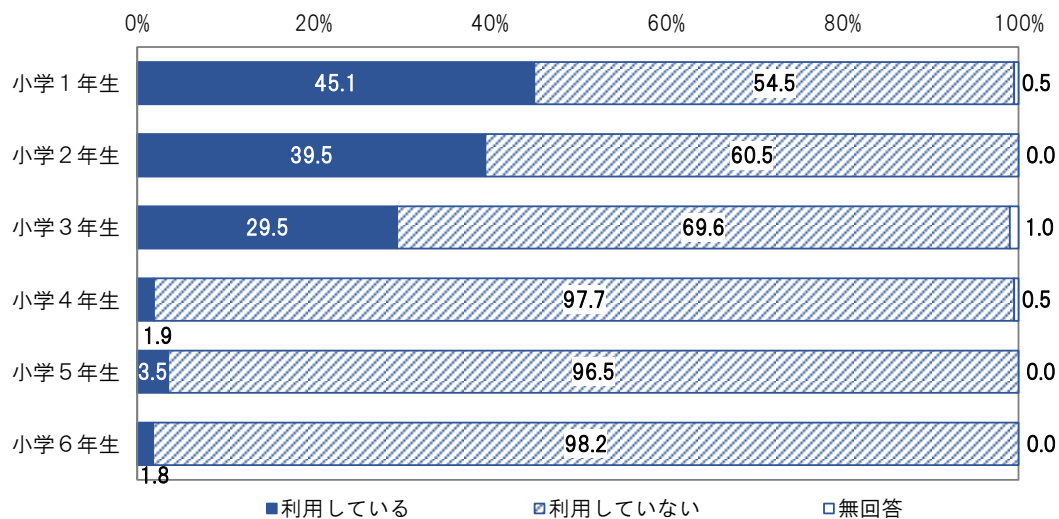
(1) 平日の学童保育の利用有無【小学生／問 13 単数回答】

○平日の学童保育の利用有無は、「利用している」が20.0%、「利用していない」が79.7%となっている。



《学年別比較》

○学年別にみると、学年が下がるにつれて「利用している」が高くなっており、[小学1年生]では「利用している」が4割以上となっている。

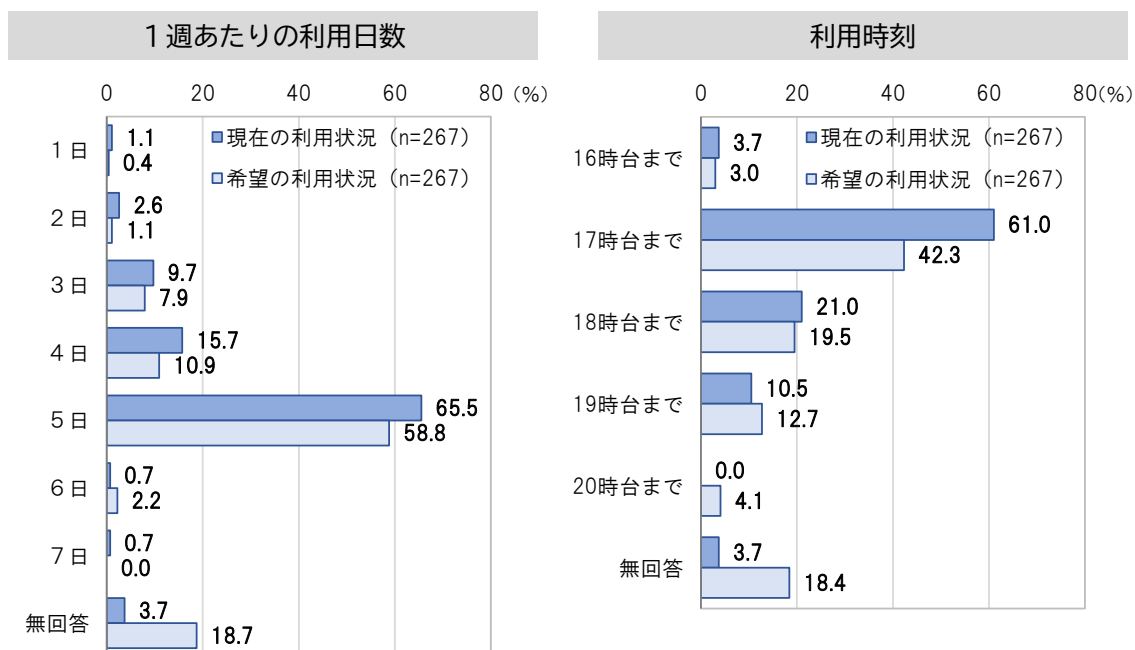


(1-1) 学童保育の利用状況と希望【小学生／問 14 数量回答】

※(1)で「利用している」と回答した人のみ

○現在の利用状況・希望の利用状況ともに、1週あたりの利用日数は「5日」、1日あたりの利用時間は「17時台まで」が最も高くなっている。

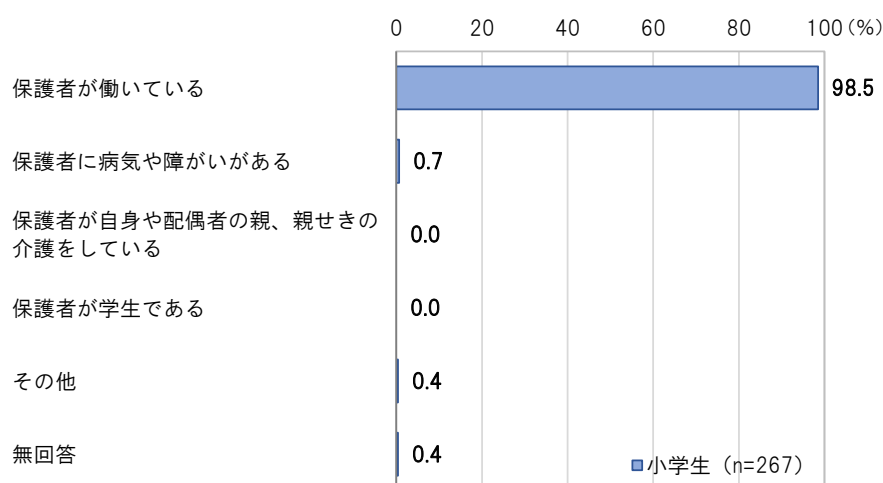
○利用時間をみると、現在の利用状況と比べて希望の利用状況では遅い時間までの利用を望む人が多くなっている。



(1-2) 学童保育を利用している理由【小学生／問 14-1 単数回答】

※(1)で「利用している」と回答した人のみ

○学童保育を利用している理由は、「保護者が働いている」が98.5%と最も高くなっている。

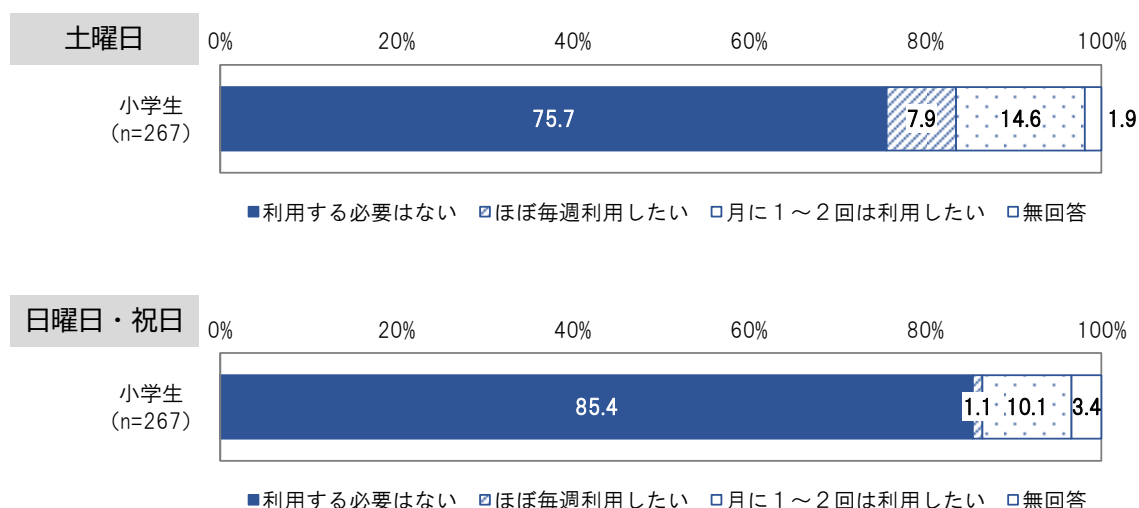


(2) 土曜日と日曜日・祝日の学童保育の利用希望【小学生／問 14-2 単数回答・数量回答】

※(1)で「利用している」と回答した人のみ

○土曜日と日曜日・祝日の学童保育の利用希望は、土曜日、日曜日・祝日ともに「利用する必要はない」がそれぞれ75.7%、85.4%と最も高くなっている。

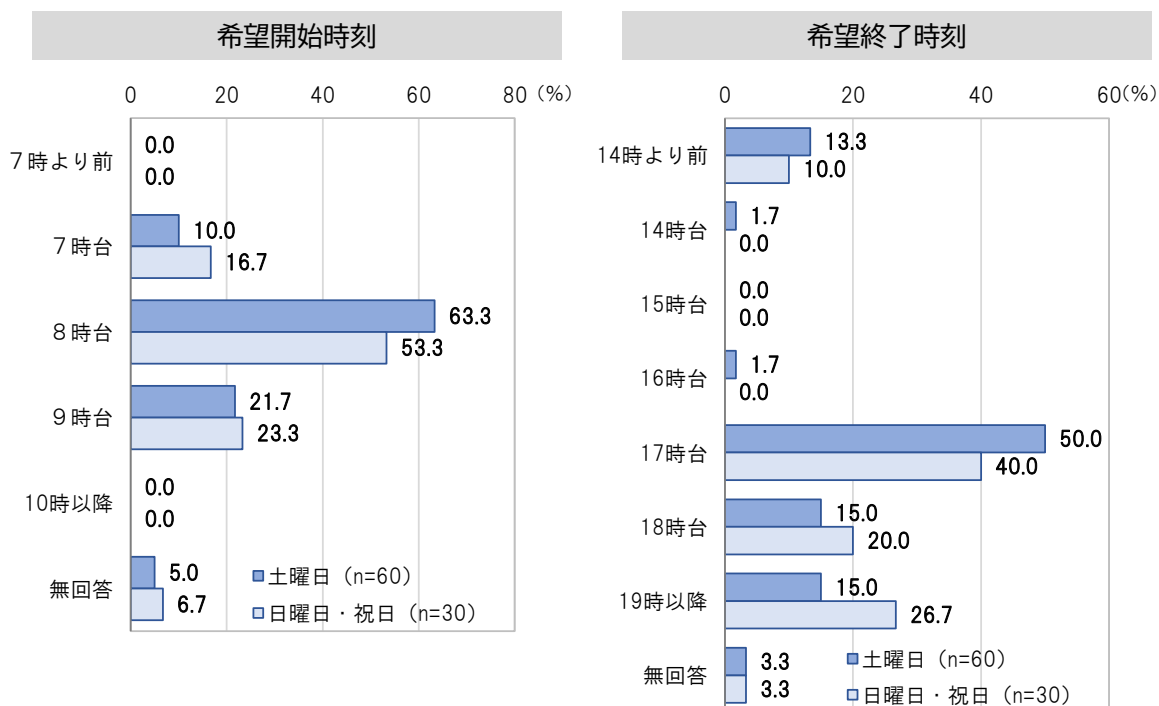
○「ほぼ毎週利用したい」と「月に1～2回は利用したい」を合わせた『利用したい』は、土曜日では2割以上、日曜日・祝日では1割程度となっている。



《利用希望時間帯》

○土曜日・日曜日・祝日ともに、希望開始時刻は「8時台」、希望終了時刻は「17時台」が最も高くなっている。

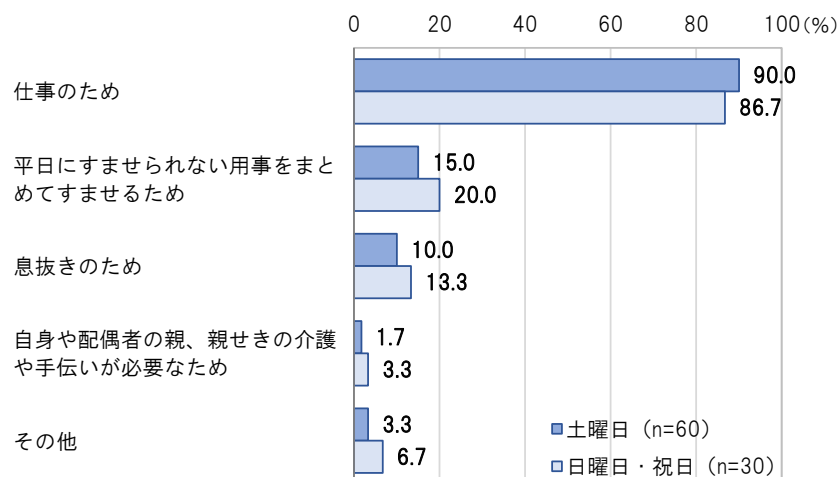
○希望終了時刻では、「18時台」「19時以降」が土曜日に比べて日曜日・祝日で高くなっており、土曜日に比べて日曜日・祝日で長い時間の利用を望む人が多くなっている。



（２－１）土曜日と日曜日・祝日に学童保育を利用したい理由【小学生／問 14-3 複数回答】

※（２）で「ほぼ毎週利用したい」「月に１～２回は利用したい」と回答した人のみ

○土曜日と日曜日・祝日に学童保育を利用したい理由は、「仕事のため」が土曜日で 90.0%、日曜日・祝日で 86.7%と最も高くなっている。

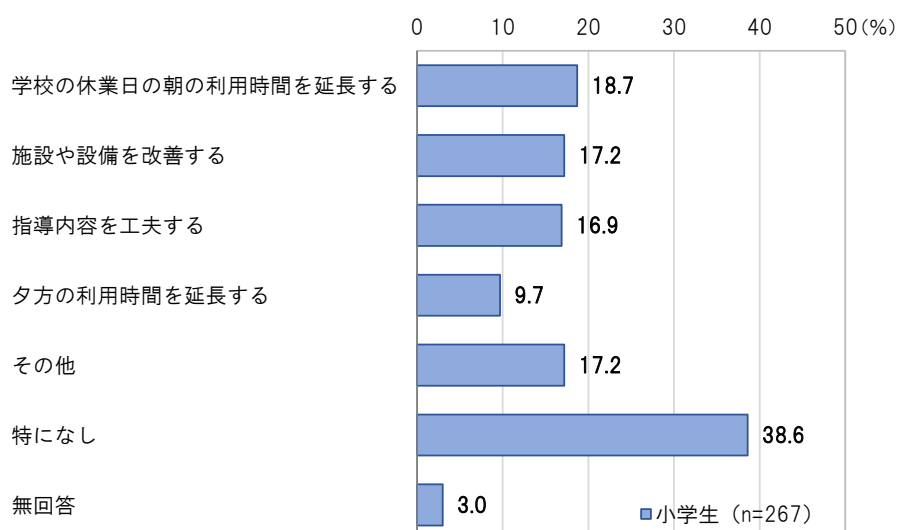


（３）現在通っている学童保育に希望すること【小学生／問 14-4 複数回答】

※（１）で「利用している」と回答した人のみ

○現在通っている学童保育に希望することは、「特になし」が 38.6%と最も高くなっている。

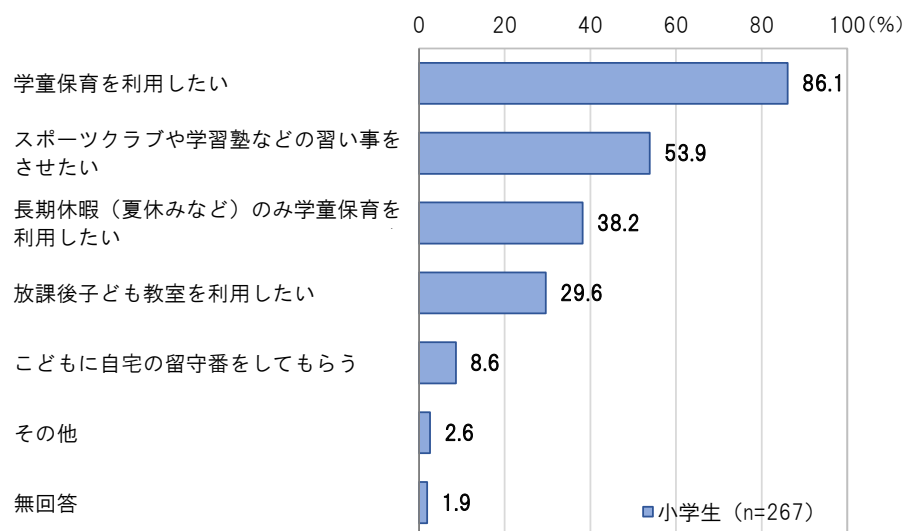
○希望することがある人では、「学校の休業日の朝の利用時間を延長する」が 18.7%と高く、次いで「施設や設備を改善する」(17.2%)、「指導内容を工夫する」(16.9%)となっている。



(4) 放課後の過ごし方として望むこと【小学生／問 14-5 複数回答】

※(1)で「利用している」と回答した人のみ

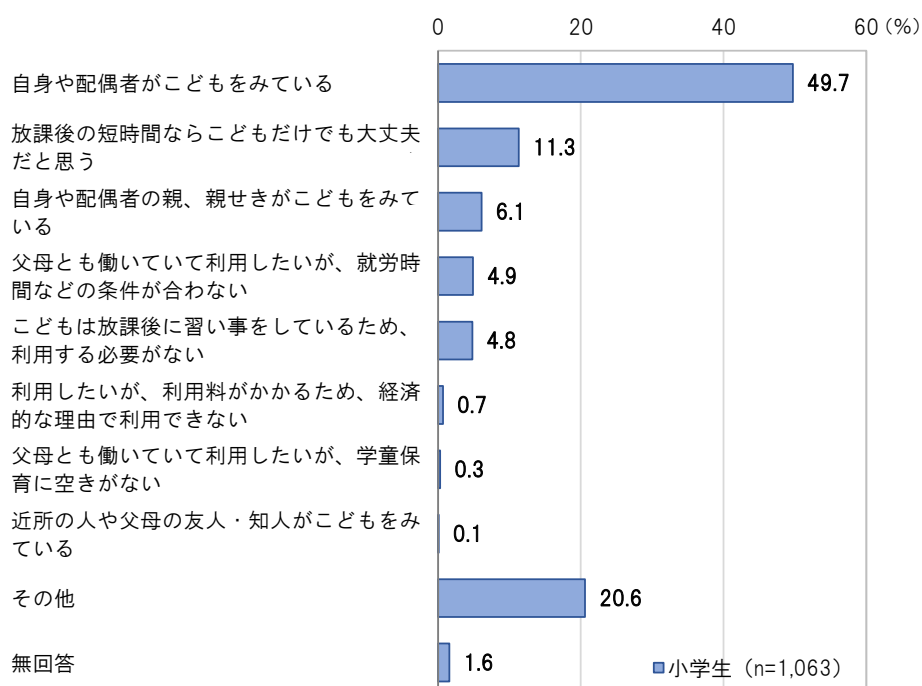
○放課後の過ごし方として望むことは、「学童保育を利用したい」が86.1%と最も高く、次いで「スポーツクラブや学習塾などの習い事をさせたい」(53.9%)、「長期休暇(夏休みなど)のみ学童保育を利用したい」(38.2%)となっている。



(5) 学童保育を利用していない理由【小学生／問 15 単数回答】

※(1)で「利用していない」と回答した人のみ

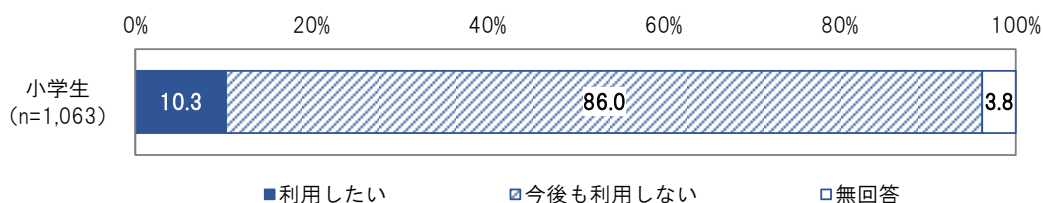
○学童保育を利用していない理由は、「自身や配偶者がこどもをみている」が49.7%と最も高く、次いで「放課後の短時間ならこどもだけでも大丈夫だと思う」(11.3%)となっている。



(6) 学童保育の利用意向【小学生／問 15-1 単数回答・数量回答】

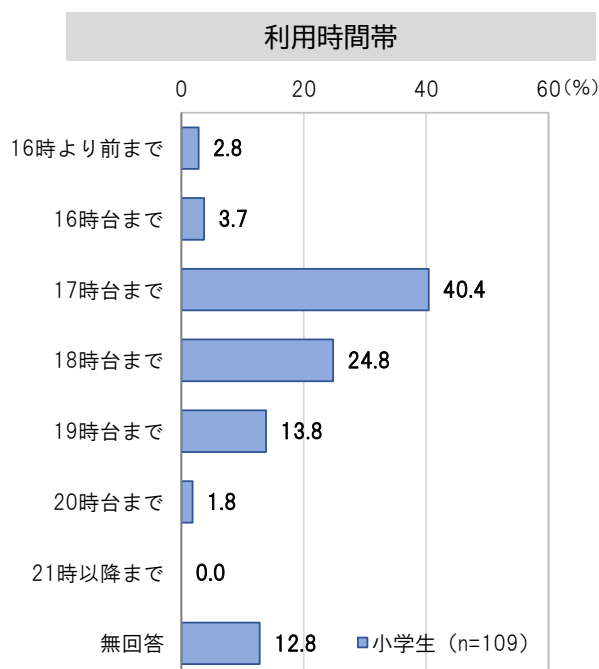
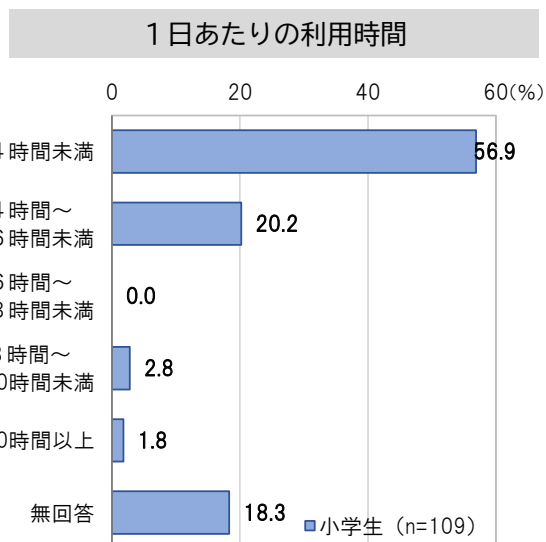
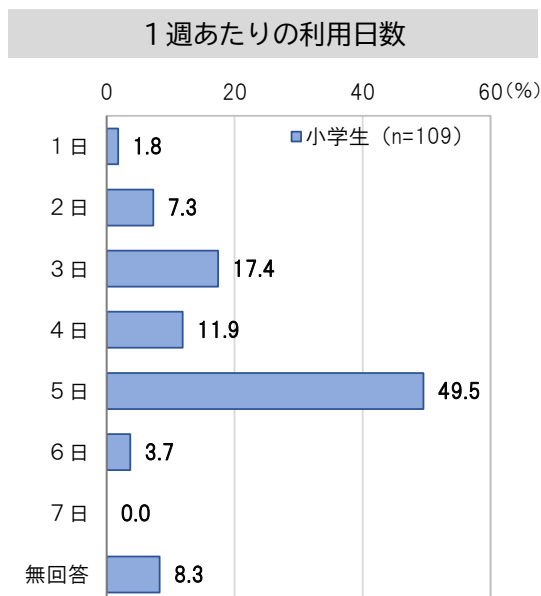
※(1)で「利用していない」と回答した人のみ

○学童保育の利用意向は、「今後も利用しない」が86.0%と大半を占め、「利用したい」は10.3%となっている。



《希望の利用頻度》

○1週あたりの利用日数は「5日」、1日あたりの利用時間は「4時間未満」、利用時間帯は「17時台まで」が最も高くなっている。

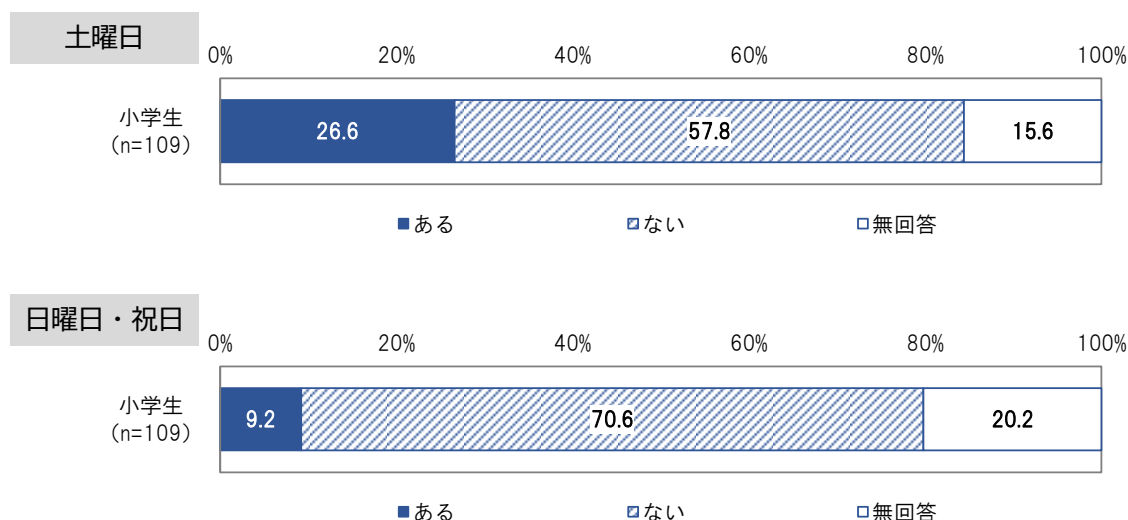


（６－１）土曜日と日曜日・祝日の学童保育の利用意向【小学生／問 15-1 単数回答・数量回答】

※（６）で「利用したい」と回答した人のみ

○土曜日と日曜日・祝日の学童保育の利用意向は、土曜日、日曜日・祝日ともに「ない」がそれぞれ 57.8%、70.6%と最も高くなっている。

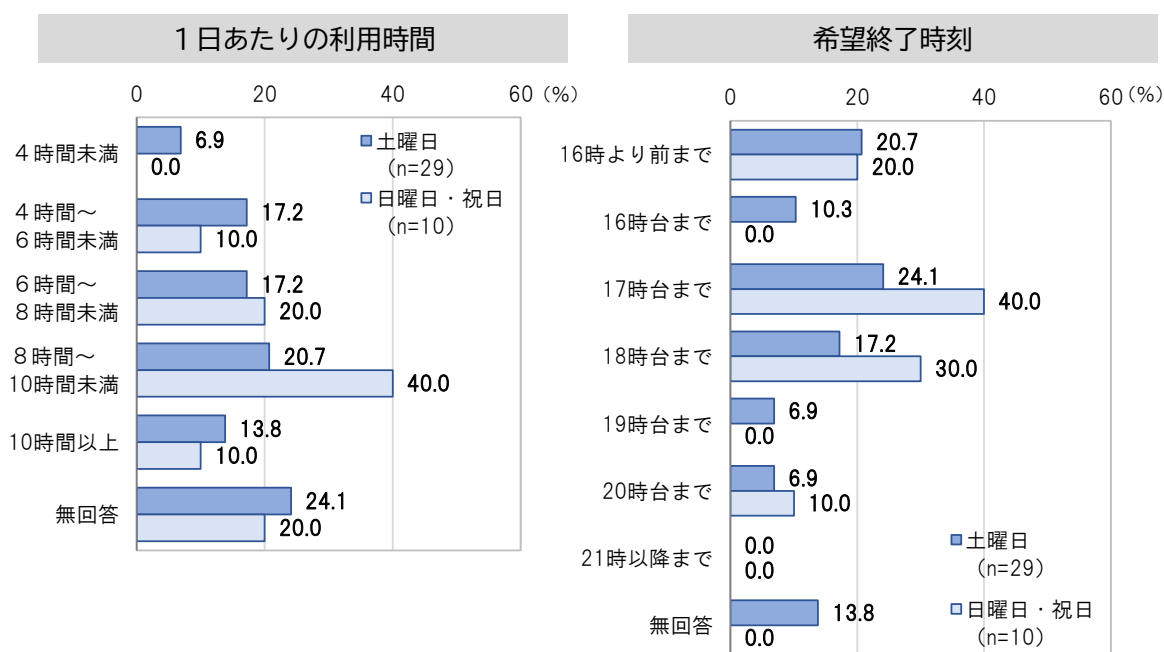
○「ある」の割合は、土曜日では２割以上、日曜日・祝日では約１割となっている。



《利用希望時間帯》

○土曜日・日曜日・祝日ともに、１日あたりの利用時間は「８時間～１０時間未満」、希望終了時刻は「１７時台まで」が最も高くなっている。

○１日あたりの利用時間では『６時間以上』、希望終了時刻では『１７時台以降』で土曜日に比べて日曜日・祝日で高くなっており、土曜日に比べて日曜日・祝日で長い時間の利用を望む人が多くなっている。

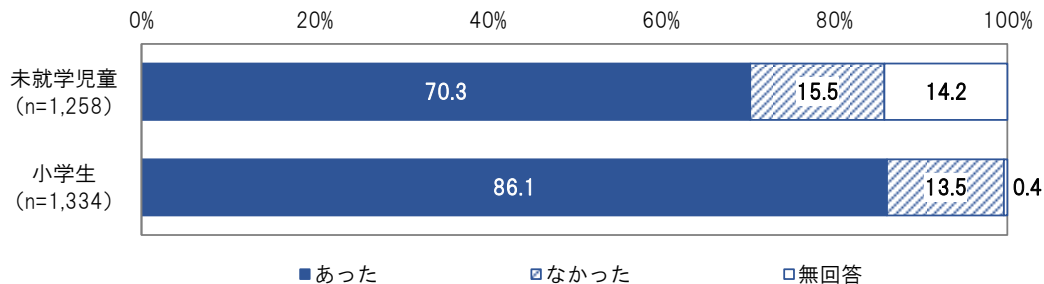


4. こどもの病気等の際の対応について

(1) この1年間に、こどもが病気やけがで通常の利用（登校）ができなかったことの有無

【未就学／問 17 単数回答、小学生／問 16 単数回答】

○病気やけがで通常の利用（登校）ができなかったことの有無は、「あった」が未就学児童で 70.3%、小学生で 86.1%となっている。



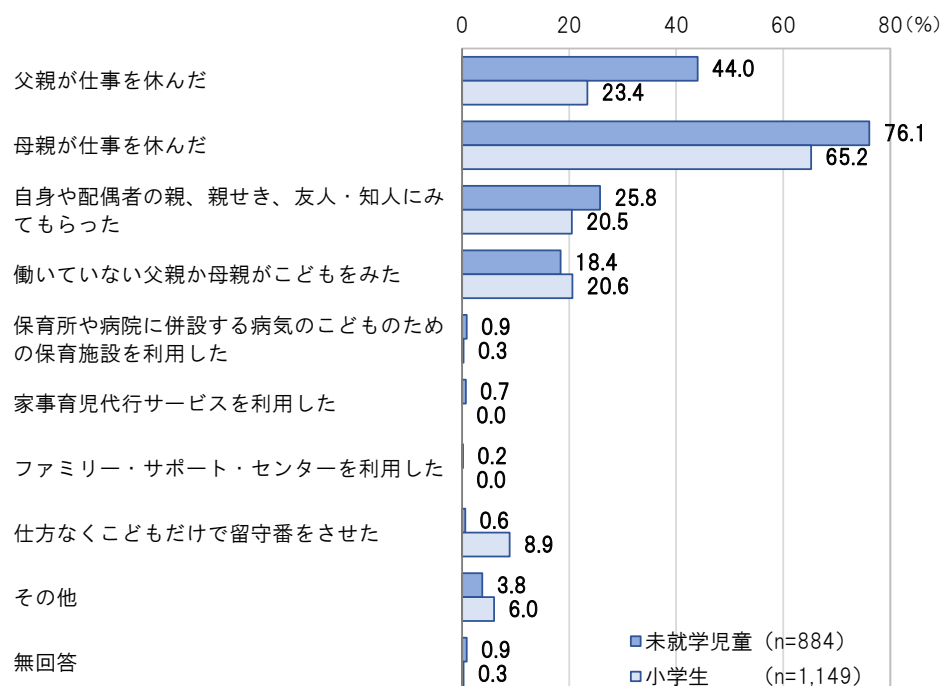
(1-1) こどもが病気やけがで通常の利用（登校）ができなかった時の対処方法・日数

【未就学／問 17-1 複数回答・数量回答、小学生／問 16-1 複数回答・数量回答】

※(1)で「あった」と回答した人のみ

○こどもが病気やけがで通常の利用（登校）ができなかった時の対処方法は、「母親が仕事を休んだ」が未就学児童で 76.1%、小学生で 65.2%と最も高く、次いで「父親が仕事を休んだ」（未就学児童：44.0%、小学生：23.4%）となっている。

○また、小学生では「仕方なく子どもだけで留守番をさせた」が 8.9%と 1 割近くを占め、未就学児童に比べて高くなっている。



《対処日数》

○未就学児童の年間対処日数については、[母親が仕事を休んだ] [働いていない父親か母親が子どもをみた] では「6日～10日」、それ以外では「3日～5日」がそれぞれ最も高くなっている。

○小学生の年間対処日数については、[働いていない父親か母親が子どもをみた] では「6日～10日」、[父親が仕事を休んだ] [自身や配偶者の親、親せき、友人・知人にみてもらった] [仕方なく子どもだけで留守番をさせた] では「1日～2日」、それ以外では「3日～5日」がそれぞれ最も高くなっている。

○未就学児童・小学生ともに、[病気のこどものための保育施設を利用した] では「3日～5日」が最も高くなっている。

(%)

		回答者数 (人)	1日 ～ 2日	3日 ～ 5日	6日 ～ 10日	11日 ～ 20日	21日 ～ 30日	31日 以上	無回答
未就学児童	父親が仕事を休んだ	389	30.6	38.3	20.1	6.4	0.3	0.5	3.9
	母親が仕事を休んだ	673	9.4	24.8	30.0	23.6	6.4	2.5	3.3
	自身や配偶者の親、親せき、友人・知人にみてもらった	228	26.3	39.9	21.1	4.8	2.6	0.9	4.4
	働いていない父親か母親が子どもをみた	163	5.5	15.3	32.5	25.8	11.0	4.9	4.9
	病気のこどものための保育施設を利用した	8	25.0	37.5	25.0	12.5	—	—	8
	家事育児代行サービスを利用した	6	33.3	50.0	16.7	—	—	—	6
	ファミリー・サポート・センターを利用した	2	—	50.0	50.0	—	—	—	2
	仕方なく子どもだけで留守番をさせた	5	60.0	—	—	—	—	—	40.0
	その他	34	5.9	38.2	23.5	8.8	2.9	—	20.6
小学生	父親が仕事を休んだ	269	47.2	33.1	8.6	1.5	0.4	—	9.3
	母親が仕事を休んだ	749	28.6	40.7	19.8	4.9	0.5	0.5	4.9
	自身や配偶者の親、親せき、友人・知人にみてもらった	235	37.9	28.5	22.1	3.0	0.9	—	7.7
	働いていない父親か母親が子どもをみた	237	13.1	27.8	31.6	13.5	3.0	2.5	8.4
	病気のこどものための保育施設を利用した	3	33.3	66.7	—	—	—	—	3
	家事育児代行サービスを利用した	—	—	—	—	—	—	—	—
	ファミリー・サポート・センターを利用した	—	—	—	—	—	—	—	—
	仕方なく子どもだけで留守番をさせた	102	46.1	27.5	10.8	—	1.0	—	14.7
	その他	69	30.4	31.9	20.3	4.3	1.4	—	11.6

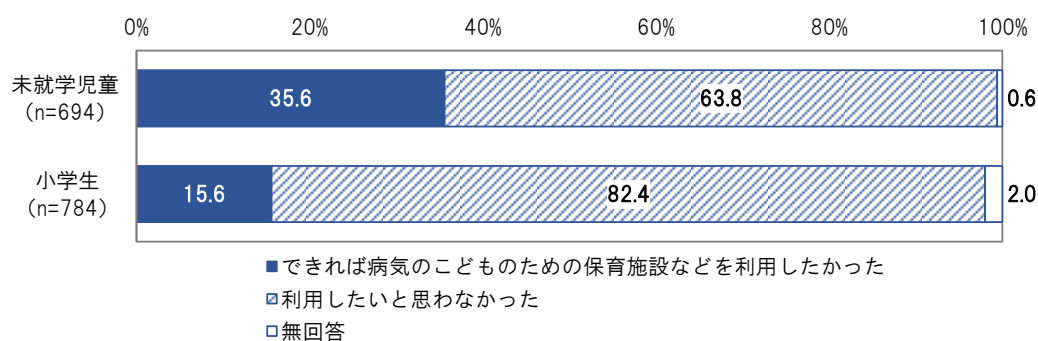
※1 番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2 番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(2) 就労している保護者が休んで対処した場合の病児保育の利用希望・日数

【未就学／問 17-2 単数回答・数量回答、小学生／問 16-2 単数回答・数量回答】

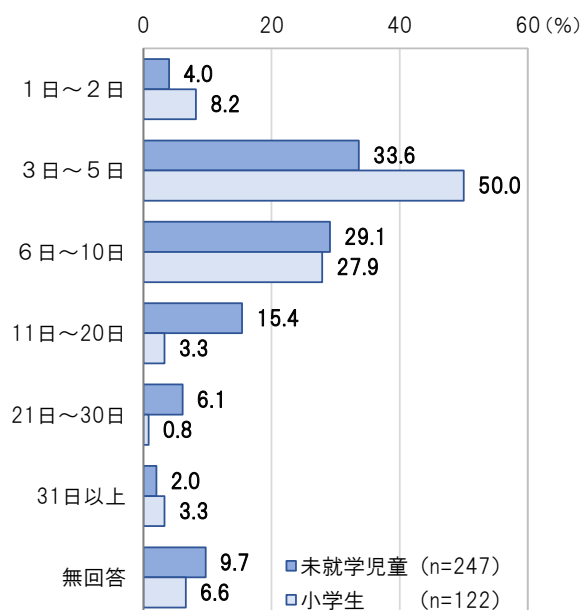
※(1-1)で「父親が仕事を休んだ」「母親が仕事を休んだ」と回答した人のみ

○就労している保護者が休んで対処した場合の病児保育の利用希望は、「できれば病気のこどものための保育施設などを利用したかった」が未就学児童で 35.6%、小学生で 15.6%となっている。



《利用希望日数》

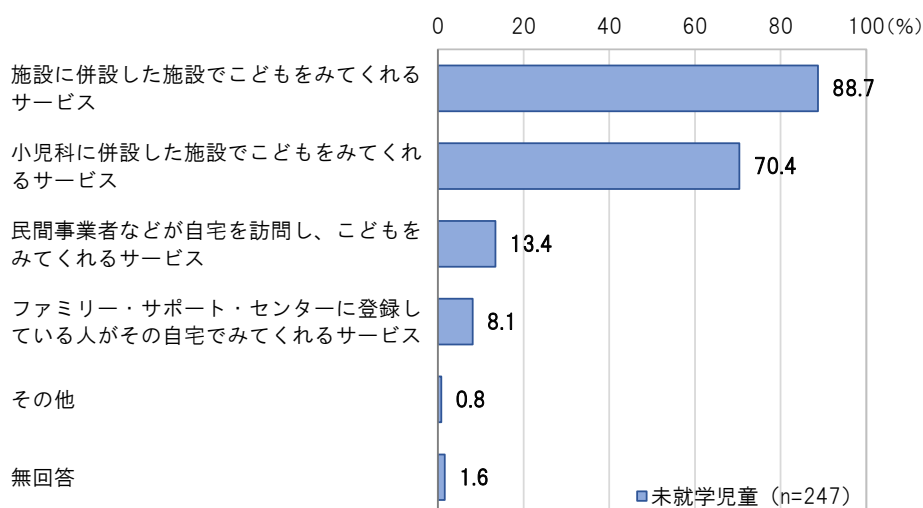
○できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したい年間利用日数については、「3日～5日」が未就学児童で 33.6%、小学生で 50.0%と最も高くなっている。



（２－１）病児保育を利用する場合に望ましいサービス【未就学／問 17-3 複数回答】

※（２）で「できれば病気のこどものための保育施設などを利用したかった」と回答した人のみ

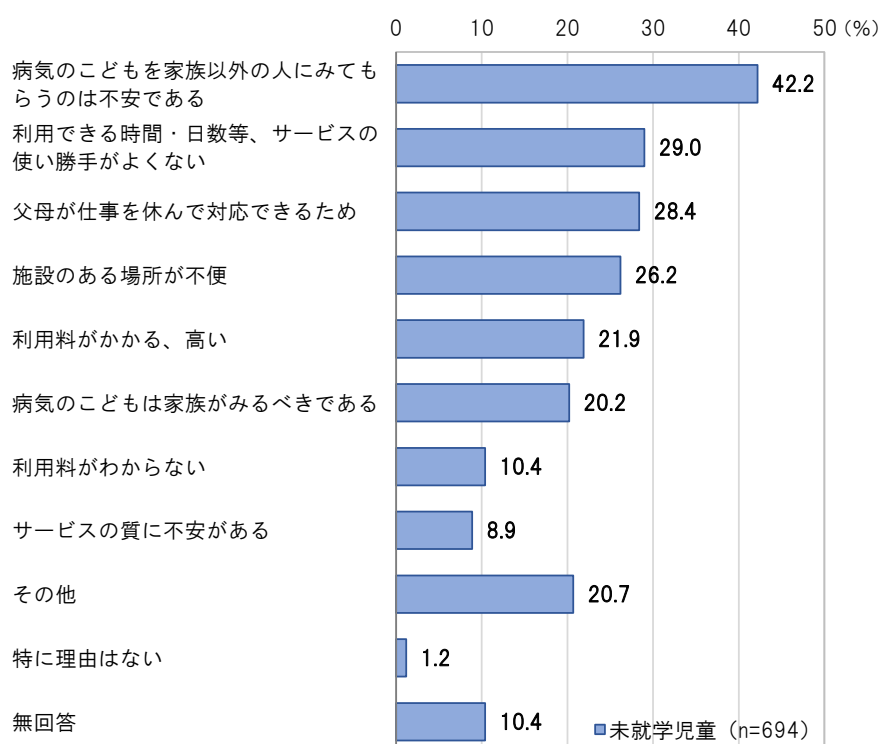
○病児保育を利用する場合に望ましいサービスは、「施設に併設した施設でこどもをみてるサービス」が 88.7%と最も高く、次いで「小児科に併設した施設でこどもをみてるサービス」が 70.4%となっている。



（２－２）病児保育を利用しなかった理由【未就学／問 17-4 複数回答】

※（２）で「利用したいと思わなかった」と回答した人のみ

○病児保育を利用しなかった理由は、「病気のこどもを家族以外の人にみてもらうのは不安である」が 42.2%と最も高く、次いで「利用できる時間・日数等、サービスの使い勝手がよくない」(29.0%)、「父母が仕事を休んで対応できるため」(28.4%)となっている。

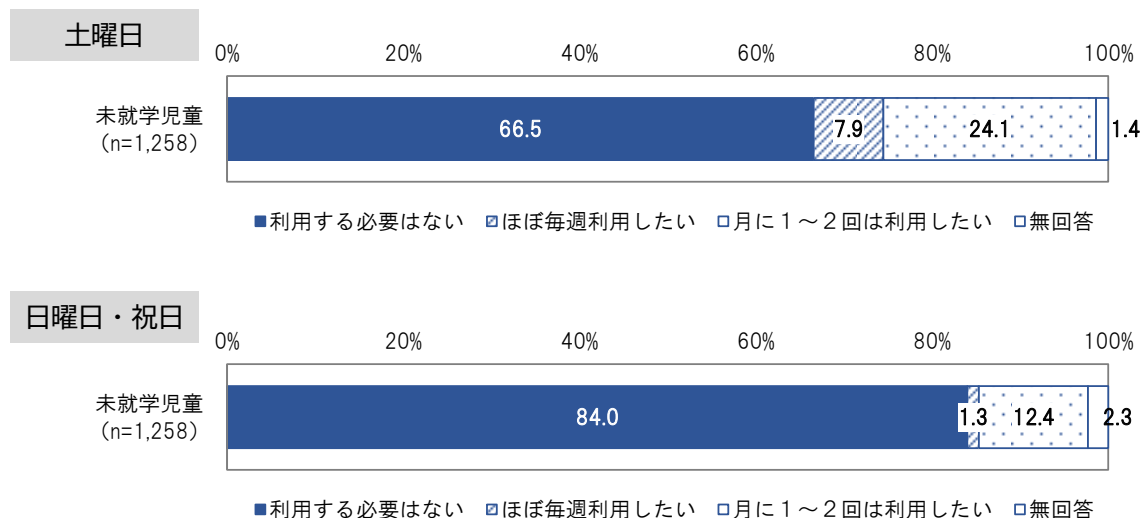


5. 土曜等や長期休暇中の幼稚園や保育所、認定こども園などの定期的な利用希望について

(1) 土曜日と日曜日・祝日の幼稚園や保育所、認定こども園などの定期的な利用希望

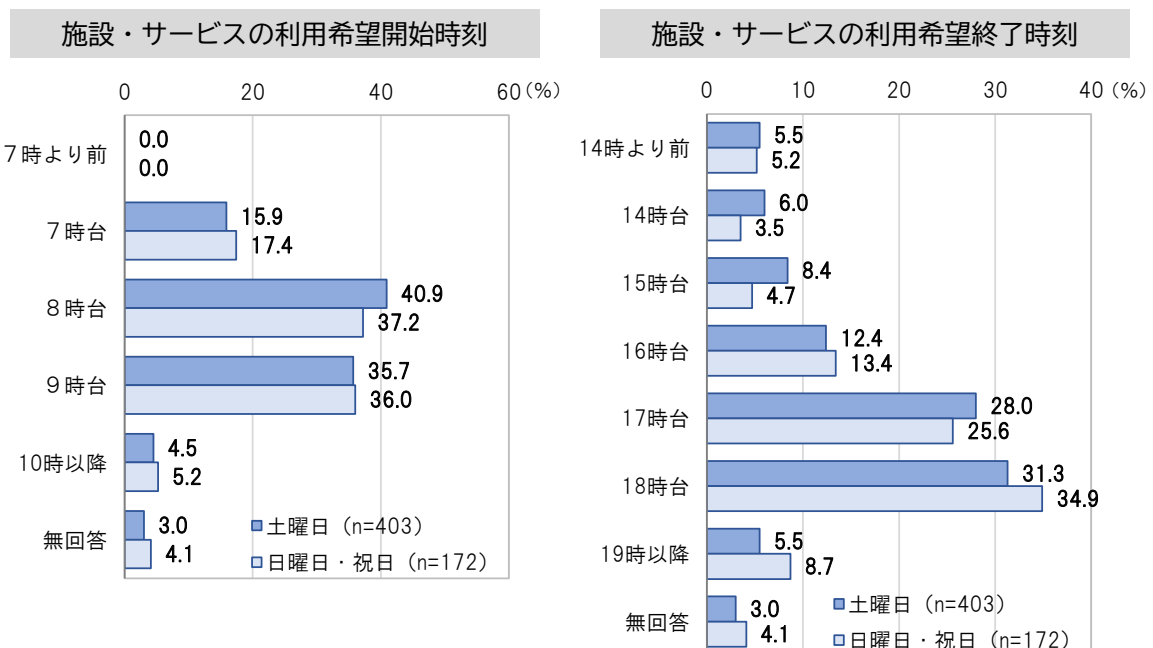
【未就学／問 19 単数回答・数量回答】

- 土曜日と日曜日・祝日の幼稚園や保育所、認定こども園などの定期的な利用希望は、土曜日、日曜日・祝日ともに「利用する必要はない」がそれぞれ 66.5%、84.0%と最も高くなっている。
- 「ほぼ毎週利用したい」と「月に 1～2 回は利用したい」を合わせた『利用したい』人の割合は、土曜日では 3 割以上、日曜日・祝日では 1 割程度となっている。



《施設・サービスの利用希望開始・終了時刻》

- 土曜日、日曜日・祝日ともに、利用希望開始時刻は「8 時台」、利用希望終了時刻は「18 時台」が最も高くなっている。
- 利用終了時刻では、「18 時台」「19 時以降」では、[土曜日] に比べて [日曜日・祝日] が高い割合となっており、遅い時刻までの利用を望む人が多くなっている。

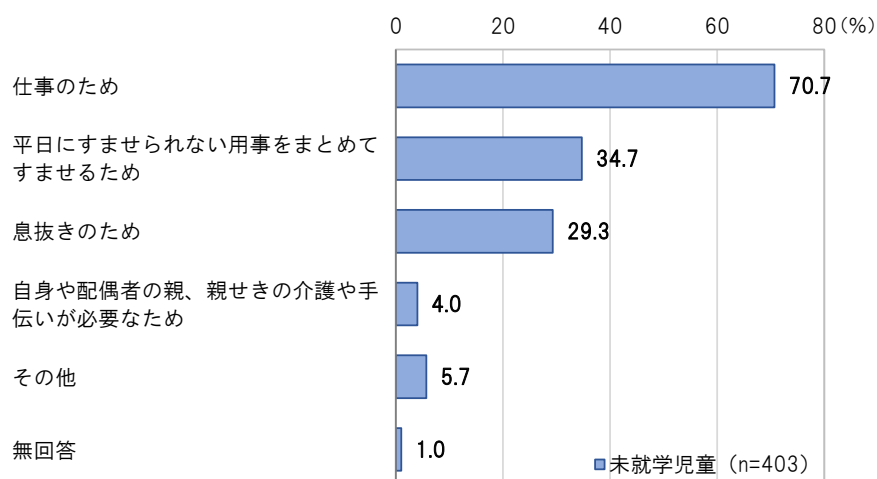


(1-2) 利用したい理由【未就学／問 19-1 複数回答】

※(1)で「ほぼ毎週利用したい」「月に1～2回は利用したい」と回答した人のみ

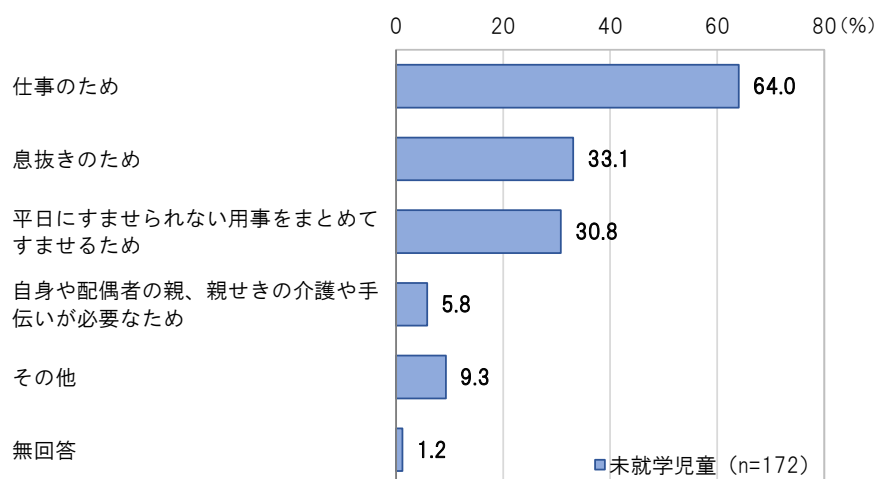
① 土曜日

○土曜日に利用したい理由は、「仕事のため」が70.7%と最も高く、次いで「平日にすませられない用事をまとめてすませるため」(34.7%)、「息抜きのため」(29.3%)となっている。



② 日曜日・祝日

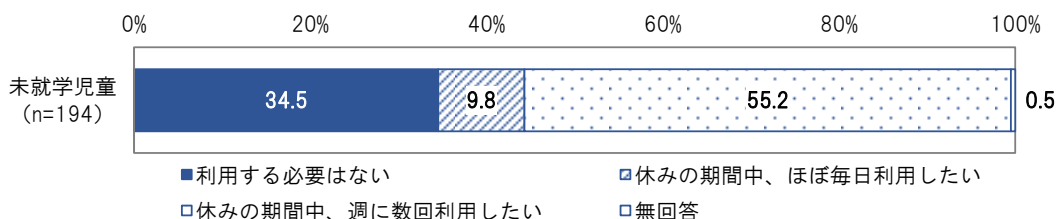
○日曜日・祝日に利用したい理由は、「仕事のため」が64.0%と最も高く、次いで「息抜きのため」(33.1%)、「平日にすませられない用事をまとめてすませるため」(30.8%)となっている。



(2) 長期休暇中の施設・事業の利用希望【未就学／問 20 単数回答・数量回答】

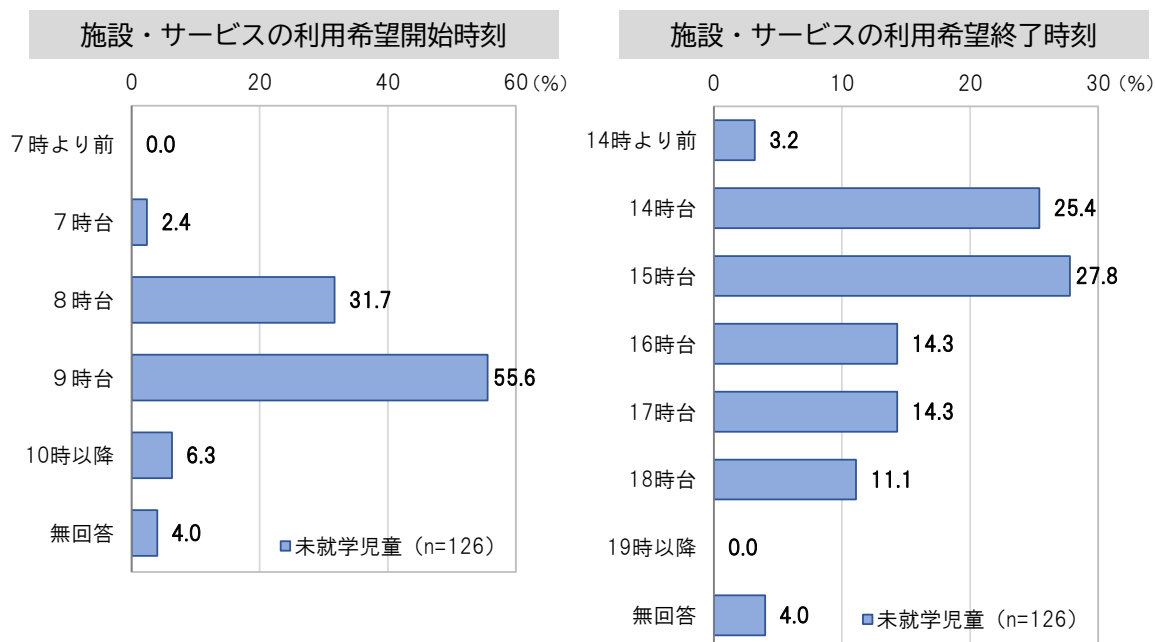
※2(1-2)で「幼稚園」と回答した人のみ

○幼稚園の利用を希望する人で長期休暇中の施設・事業の利用希望は、「休みの期間中、週に数回利用したい」が55.2%と最も高くなっている。



《施設・サービスの利用希望開始・終了時刻》

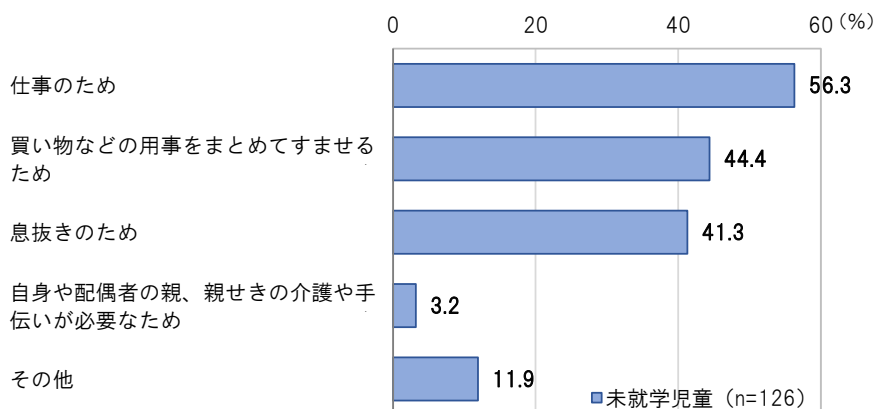
○利用希望開始時刻は「9時台」、利用希望終了時刻は「15時台」が最も高くなっており、幼稚園の利用時間帯と同程度の利用を望む人が多くなっている。



(2-1) 利用したい理由【未就学／問 20-1 複数回答】

※(2)で「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」「休みの期間中、週に数回利用したい」と回答した人のみ

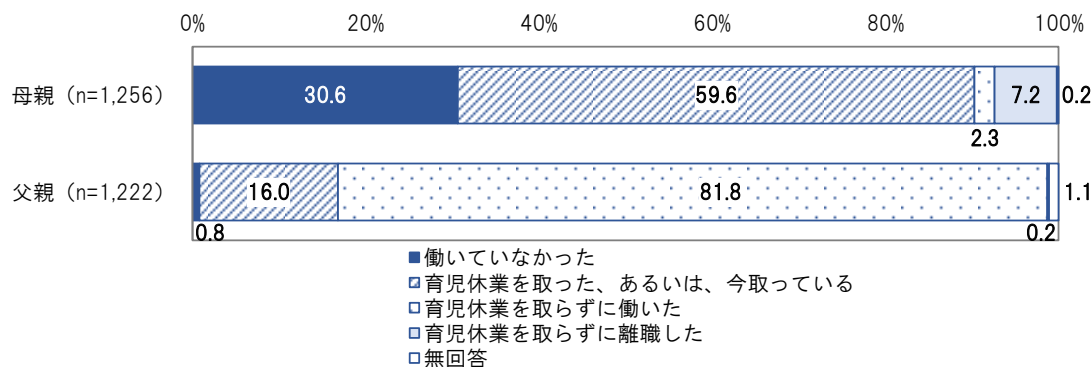
○長期休暇中に利用したい理由は、「仕事のため」が56.3%と最も高く、次いで「買い物などの用事をまとめてすませるため」(44.4%)、「息抜きのため」(41.3%)となっている。



6. 育児休業など、仕事と子育ての両立について

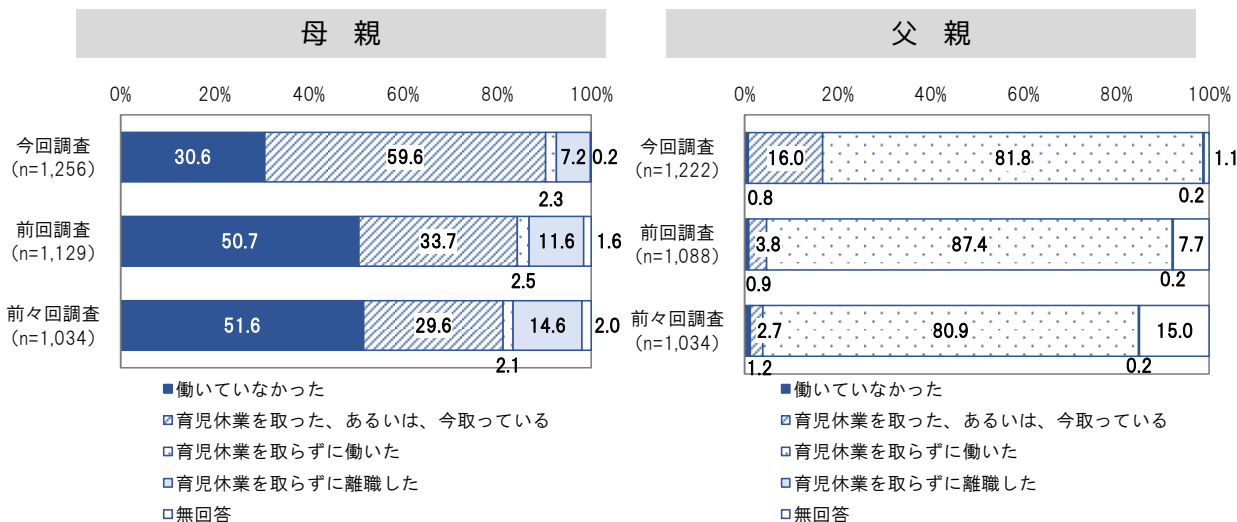
(1) 出生時の育児休業の取得状況【未就学／問 21 単数回答】

○こどもの出生時の父母のいずれかもしくは双方の育児休業の取得状況は、母親では「育児休業を取った、あるいは、今取っている」が59.6%、父親では「育児休業を取らずに働いた」が81.8%と最も高くなっている。



《経年比較》

○経年比較をみると、母親では、前々回調査・前回調査と比べて「働いていなかった」や「育児休業を取らずに離職した」が年々減少し、父親では、「育児休業を取った、あるいは、今取っている」が前々回調査・前回調査と比べて年々増加しており、共働き家庭の増加や父親の育児休業の取得が進んでいることがわかる。

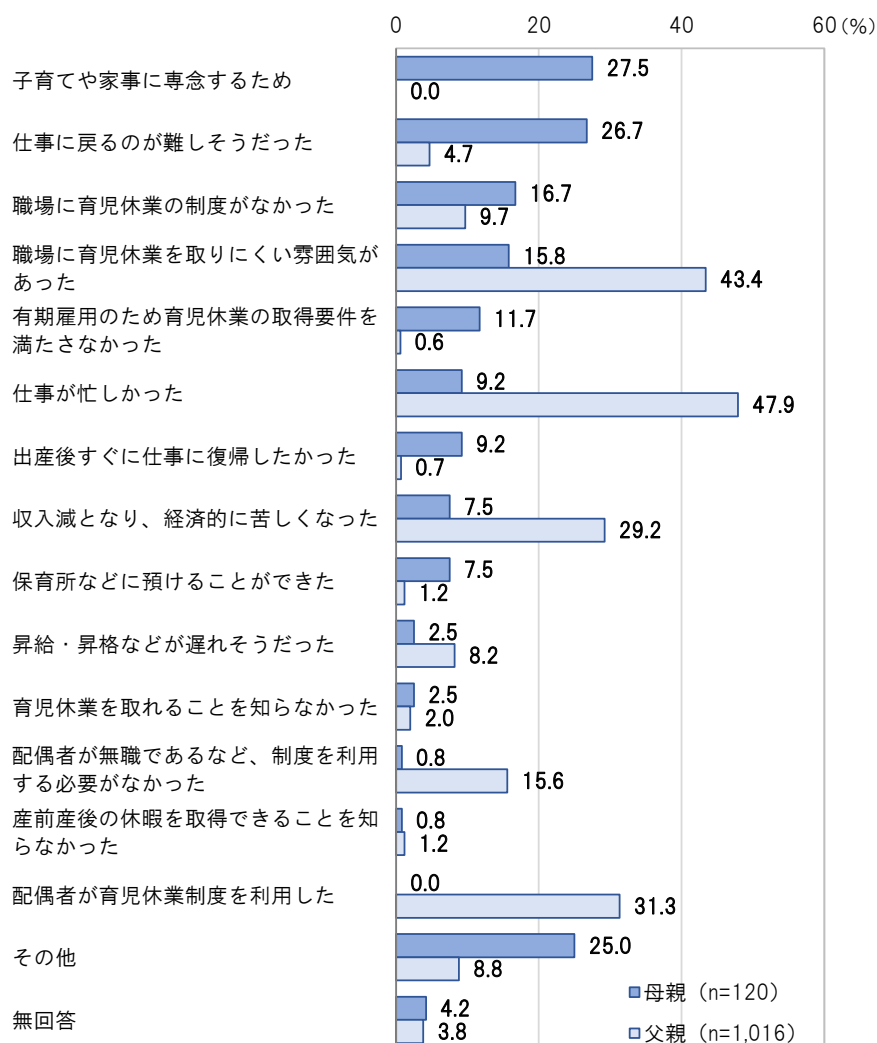


(1-1) 育児休業を取得しなかった理由【未就学／問 21-1 複数回答】

※(1)で「育児休業を取らずに働いた」「育児休業を取らずに離職した」と回答した人のみ

○育児休業を取得しなかった理由は、母親では「子育てや家事に専念するため」が27.5%と最も高く、次いで「仕事に戻るのが難しそうだった」(26.7%)、「職場に育児休業の制度がなかった」(16.7%)、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」(15.8%)となっている。

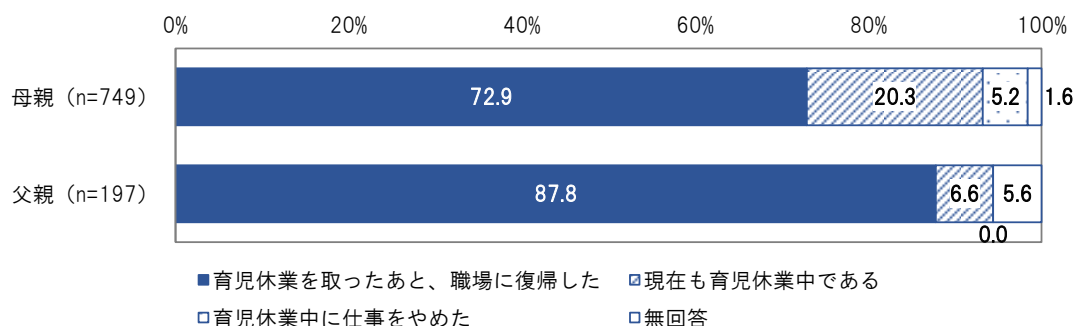
○父親では、「仕事が忙しかった」が47.9%と最も高く、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」(43.4%)、「収入減となり、経済的に苦しくなった」(29.2%)となっている。



(1-2) 育児休業の取得後の職場復帰【未就学／問 21-2 単数回答】

※(1)で「育児休業を取った、あるいは、今取っている」と回答した人のみ

○育児休業の取得後の職場復帰は、「育児休業を取ったあと、職場に復帰した」が母親で72.9%、父親で87.7%と高くなっている。



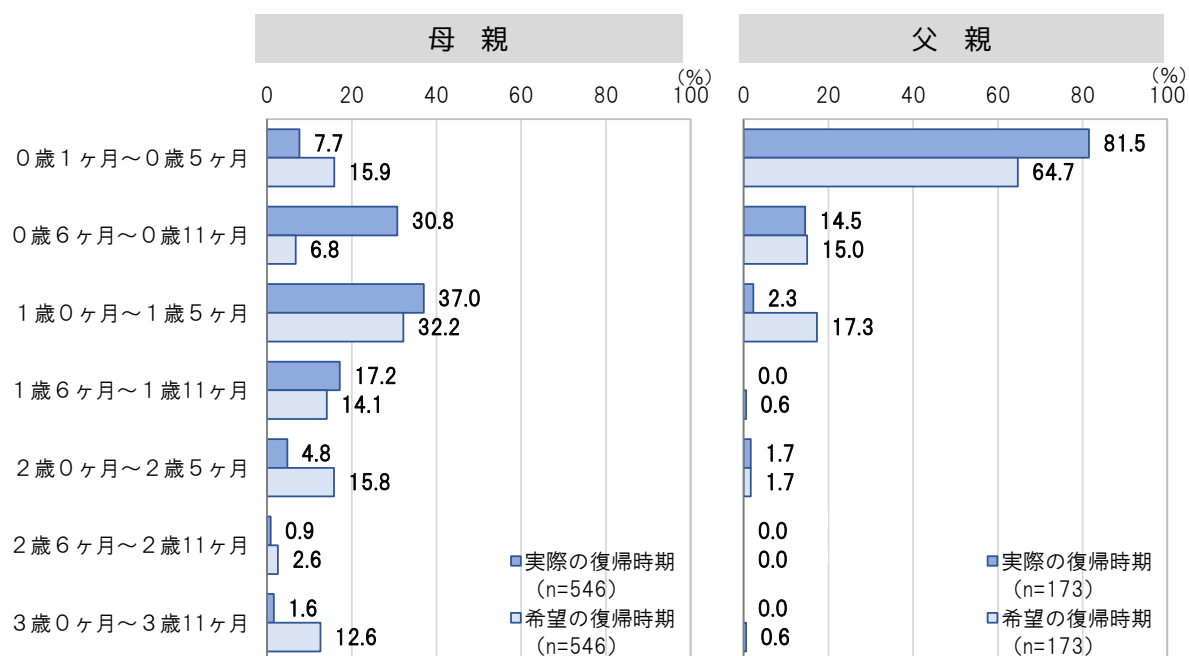
(1-3) 育児休業の実際の取得期間と希望の取得期間【未就学／問 21-3 数量回答】

※(1-2)で「育児休業を取ったあと、職場に復帰した」と回答した人のみ

○育児休業の取得期間は、母親では実際の取得期間、希望の取得期間ともに「1歳0ヶ月～1歳5ヶ月」が最も高く、それぞれ37.0%、32.2%となっている。

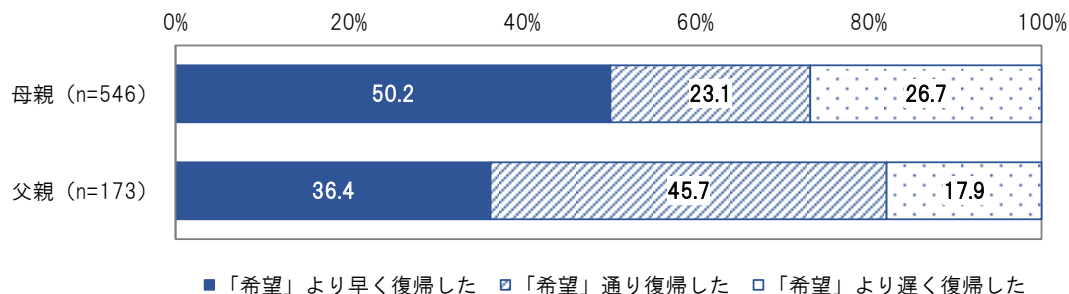
○一方で、父親では実際の取得期間、希望の取得期間ともに「0歳1ヶ月～0歳5ヶ月」が最も高く、それぞれ81.5%、64.7%となっている。

○母親・父親ともに、希望の復帰時期に比べて実際の復帰時期が早い傾向がみられる。



《育児休業の実際の取得期間と希望の取得期間の差》

○育児休業の実際の取得期間と希望の取得期間の差をみると、母親では「希望」より早く復帰した」が50.2%、父親では「希望」通り復帰した」が45.7%と最も高くなっている。また、母親では「希望」通り復帰した」が父親に比べて低くなっている。



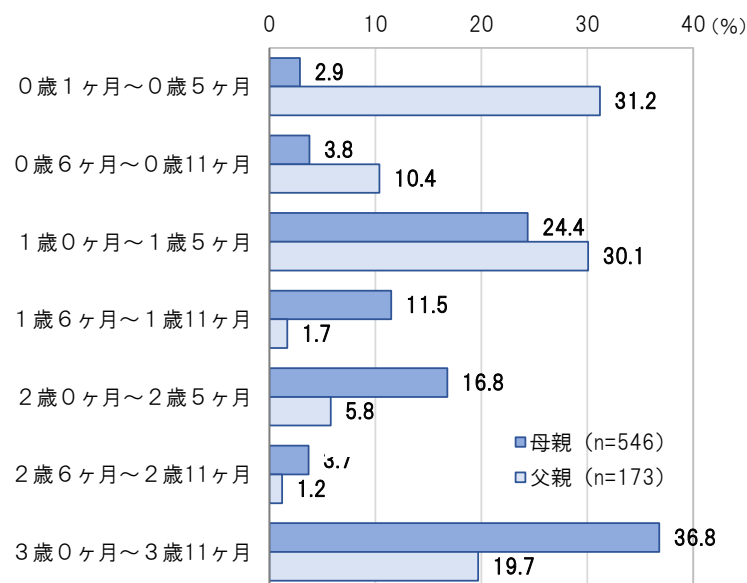
(1-4) 3歳まで休暇取得できる制度があった場合の希望【未就学／問 21-4 数量回答】

※(1-2)で「育児休業を取ったあと、職場に復帰した」と回答した人のみ

○3歳まで休暇取得できる制度があった場合の希望は、母親では「3歳0ヶ月～3歳11ヶ月」が36.8%と最も高く、次いで「1歳0ヶ月～1歳5ヶ月」(24.4%)となっている。

○一方で、父親では「0歳1ヶ月～0歳5ヶ月」が31.2%と最も高く、次いで「1歳0ヶ月～1歳5ヶ月」(30.1%)となっている。

○父親では、制度の有無に関わらず、「0歳1ヶ月～0歳5ヶ月」の期間での取得を望む人が多い結果となっており、母親に比べて取得希望期間が短くなっている。

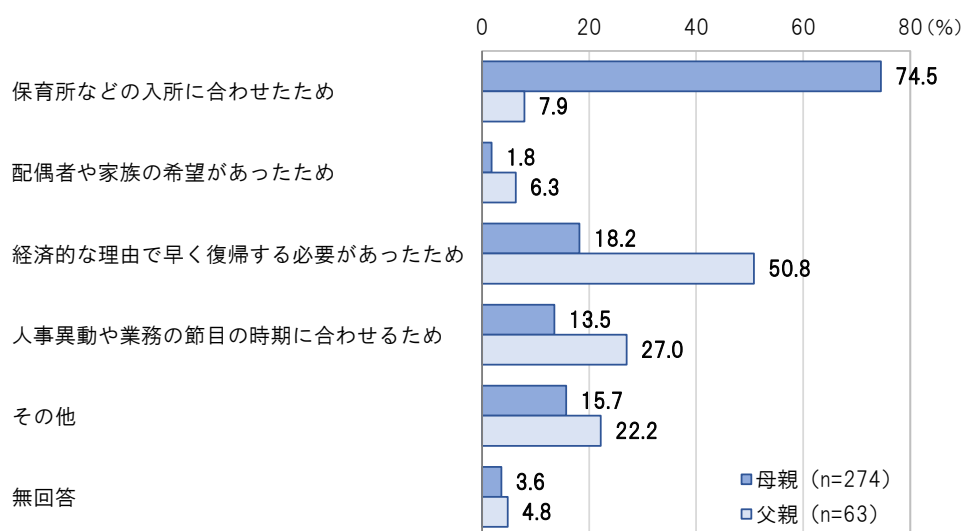


（１－５）希望より早く育児休業から復帰した理由【未就学／問 21-5（１） 複数回答】

※（１－３）で育児休業の実際の取得期間が希望の取得期間より短い人のみ

○希望より早く育児休業から復帰した理由は、母親では「保育所などの入所に合わせたため」が74.5%と最も高く、次いで「経済的な理由で早く復帰する必要があったため」（18.2%）となっている。

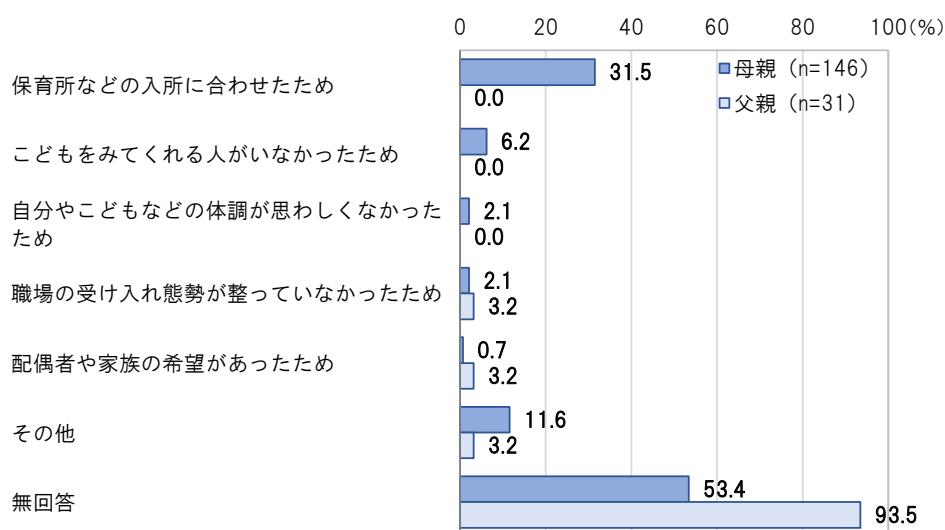
○一方、父親では「経済的な理由で早く復帰する必要があったため」が50.8%と最も高く、次いで「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」（27.0%）となっている。



（１－６）希望より遅く育児休業から復帰した理由【未就学／問 21-5（２） 複数回答】

※（１－３）で育児休業の実際の取得期間が希望の取得期間より長い人のみ

○希望より遅く育児休業から復帰した理由は、母親では「保育所などの入所に合わせたため」が31.5%と高くなっている。

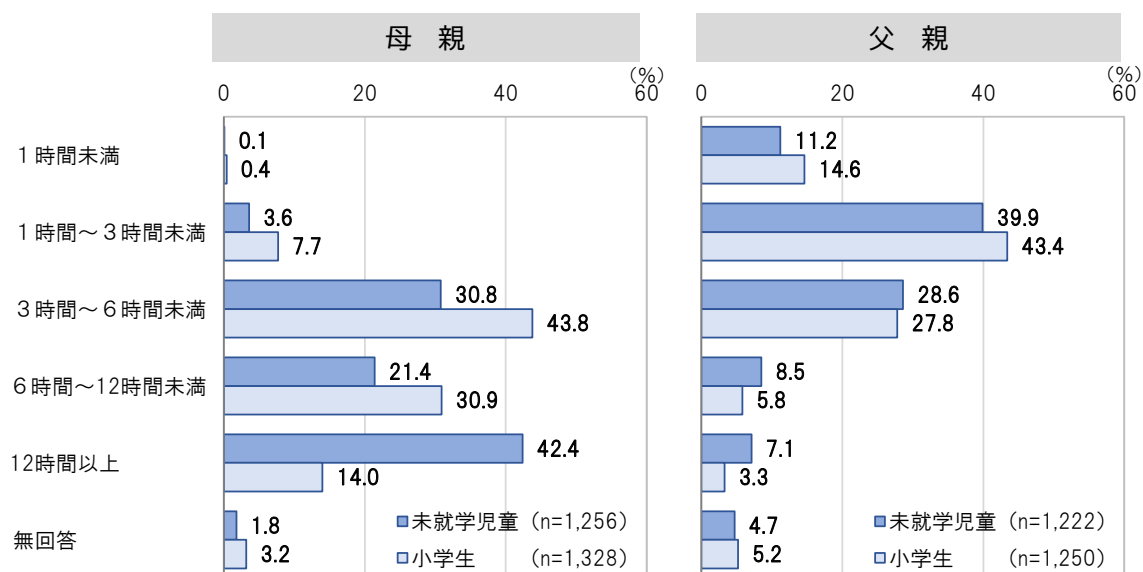


(2) こどもと一緒に過ごす時間【未就学／問 22 数量回答、小学生／問 19 数量回答】

① 平日

○平日にこどもと一緒に過ごす時間は、母親では、未就学児童は「12 時間以上」が 42.4%と最も高く、次いで「3 時間～6 時間未満」(30.8%)となっているのに対し、小学生は「3 時間～6 時間未満」が 43.8%と最も高く、次いで「6 時間～12 時間未満」(30.9%)となっている。

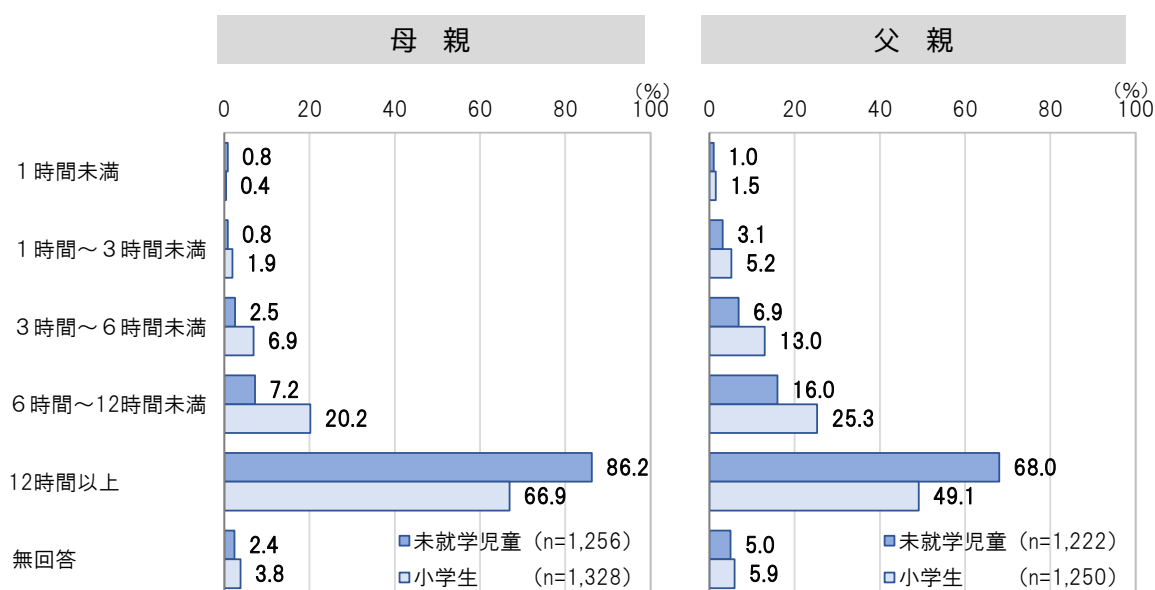
○父親では、「1 時間～3 時間未満」が未就学児童で 39.9%、小学生で 43.4%と最も高く、次いで「3 時間～6 時間未満」(未就学児童：28.6%、小学生：27.8%)となっている。



② 休日

○休日にこどもと一緒に過ごす時間は、母親では、「12 時間以上」が未就学児童で 86.2%、小学生で 66.9%と最も高く、次いで「6 時間～12 時間未満」(未就学児童：7.2%、小学生：20.2%)となっている。

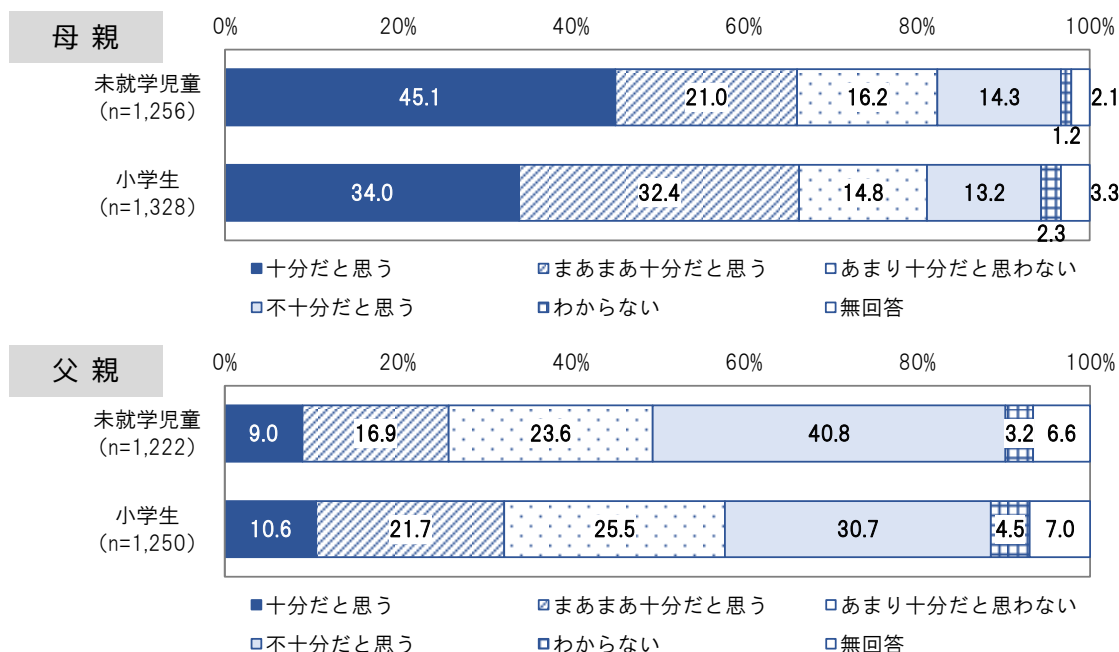
○父親では、「12 時間以上」が未就学児童で 68.0%、小学生で 49.1%と最も高く、次いで「6 時間～12 時間未満」(未就学児童：16.0%、小学生：25.3%)となっている。



(2-1) こどもと一緒に過ごす時間の充足度【未就学／問 22 単数回答、小学生／問 19 単数回答】

① 平日

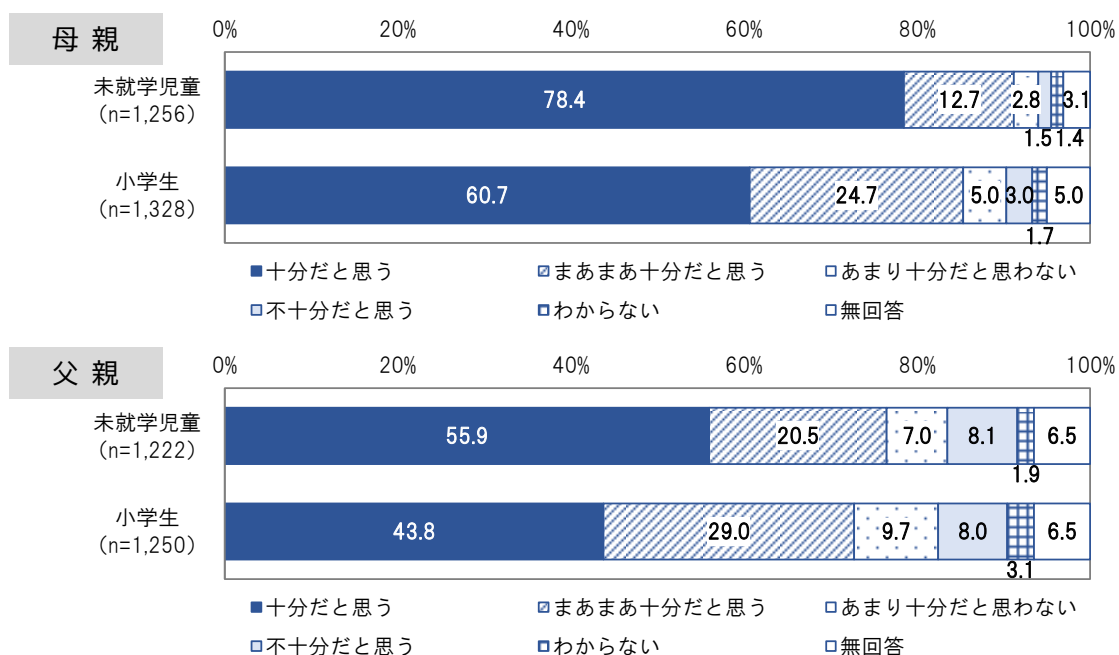
○平日のこどもと一緒に過ごす時間の充足度は、母親では「十分だと思う」が未就学児童で 45.1%、小学生で 34.0%と最も高く、「まあまあ十分だと思う」を合わせた『十分だと思う』がともに 6割を超えている。父親では「不十分だと思う」が未就学児童で 40.8%、小学校低学年で 30.7%と最も高く、「あまり十分だと思わない」と合わせた『十分だと思わない』が半数を超えている。



② 休日

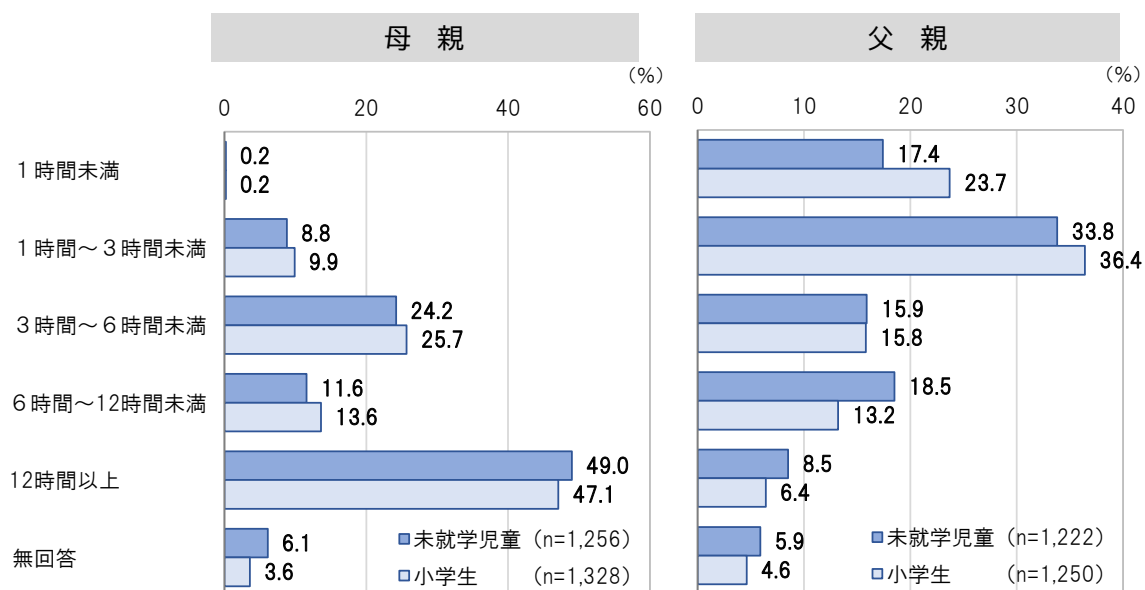
○休日のこどもと一緒に過ごす時間の充足度は、母親・父親ともに「十分だと思う」が未就学児童・小学生ともに最も高くなっている。

○また、『十分だと思う』の割合をみると、平日では小学生に比べて未就学児童でやや低いのに対し、休日では小学生に比べて未就学児童でやや高くなっている。



(3) 1日あたりの家事時間【未就学／問 23 数量回答、小学生／問 20 数量回答】

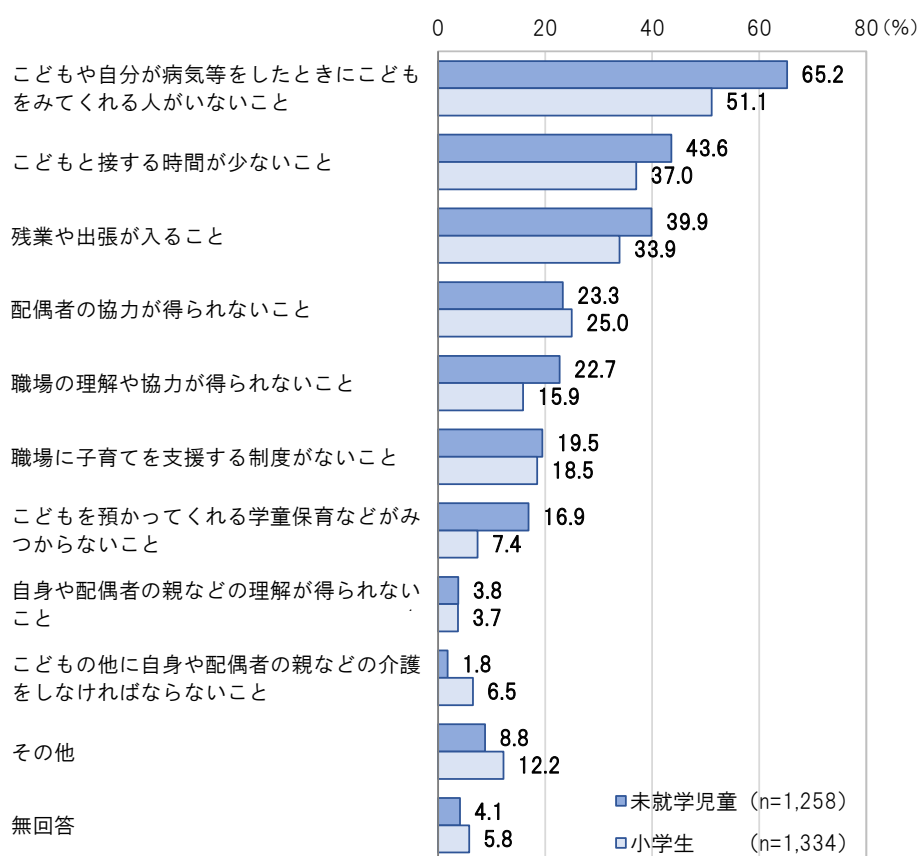
- 1日あたりの家事時間は、母親では、「12時間以上」が未就学児童で49.0%、小学生で47.1%と最も高く、次いで「3時間～6時間未満」(未就学児童:24.2%、小学生:25.7%)となっている。
- 父親では、「1時間～3時間未満」が未就学児童で33.8%、小学生で36.4%と最も高く、次いで未就学児童では「6時間～12時間未満」が18.5%、小学生では「1時間未満」が23.7%となっている。
- 母親では学年による大きな差異はみられないのに対し、父親では未就学児童に比べて小学生で家事の時間が短くなっている。



(4) 仕事と子育てを両立させる上で課題だと思うこと【未就学／問 24 複数回答、小学生／問 21 複数回答】

○仕事と子育てを両立させる上で課題だと思うことは、「子どもや自分が病気等をしたときに子どもをみてくれる人がいないこと」が未就学児童で 65.2%、小学生で 51.1%と最も高く、次いで「子どもと接する時間が少ないこと」（未就学児童：43.6%、小学生：37.0%）、「残業や出張が入ること」（未就学児童：39.9%、小学生：33.9%）となっている。

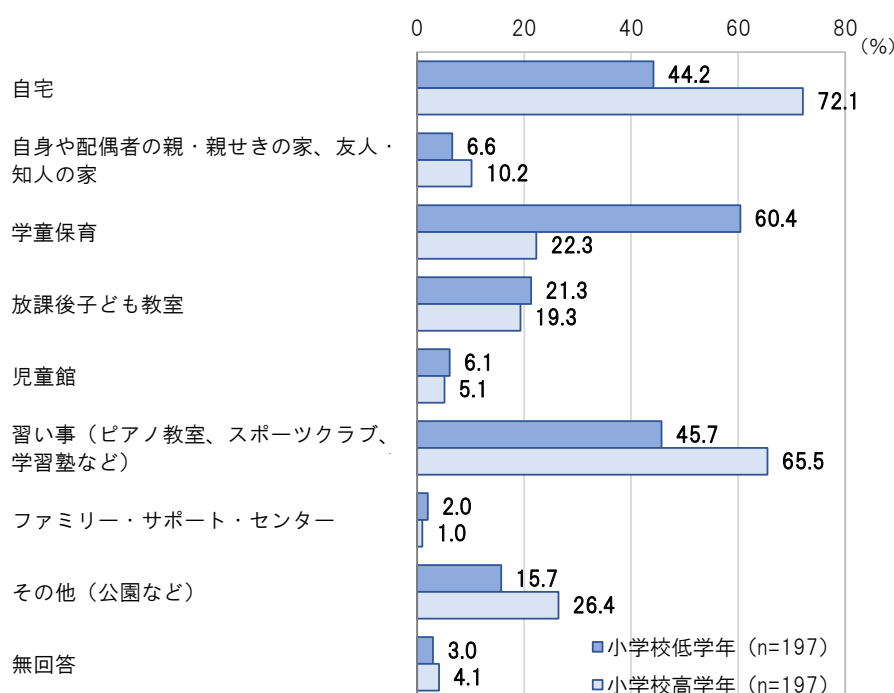
○また、未就学児童では「子どもや自分が病気等をしたときに子どもをみてくれる人がいないこと」や「子どもを預かってくれる学童保育などがみつからないこと」などの、子どもの預かり先のことでの課題が小学生に比べて 10 ポイント程度高くなっている。



7. 未就学児童（５歳以上）の就学後の放課後等の過ごし方や入学に関する ことについて

（１）就学後のこどもの放課後の過ごし方の希望【未就学（５歳以上）／問 25・26 複数回答】

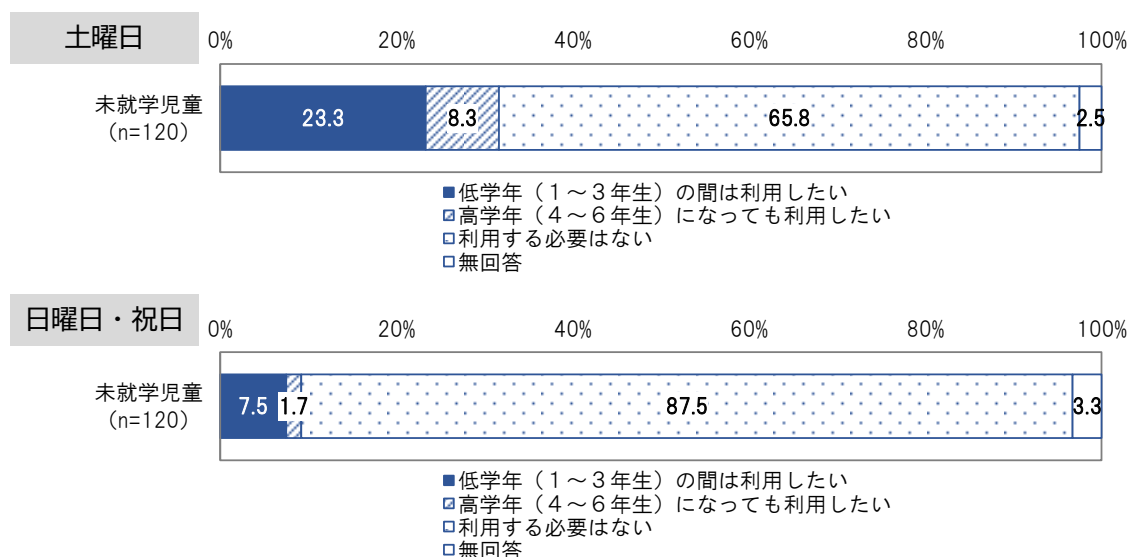
○就学後のこどもの放課後の過ごし方の希望は、低学年では「学童保育」が60.4%と最も高く、次いで「習い事（ピアノ教室、スポーツクラブ、学習塾など）」（45.7%）、「自宅」（44.2%）となっている。高学年では、「自宅」が72.1%と最も高く、次いで「習い事（ピアノ教室、スポーツクラブ、学習塾など）」（65.5%）、「その他（公園など）」（26.4%）となっている。



（２）土曜日と日曜日・祝日の学童保育の利用希望【未就学／問 27 単数回答】

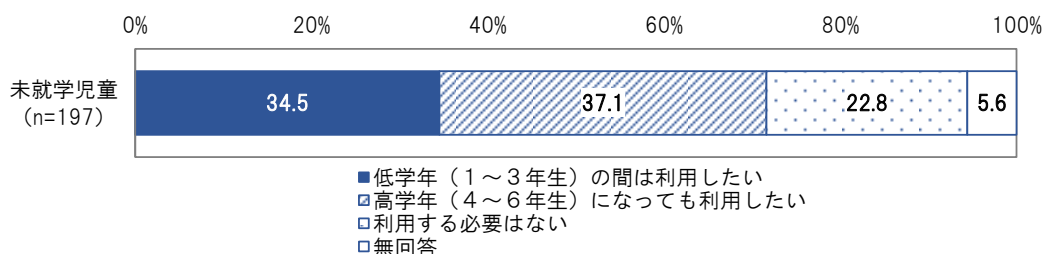
○土曜日と日曜日・祝日の学童保育の利用希望は、土曜日、日曜日・祝日ともに「利用する必要はない」がそれぞれ65.8%、87.5%と最も高くなっている。

○「低学年（１～３年生）の間は利用したい」と「高学年（４～６年生）になっても利用したい」を合わせた『利用したい』は、土曜日では３割以上、日曜日・祝日では約１割となっている。



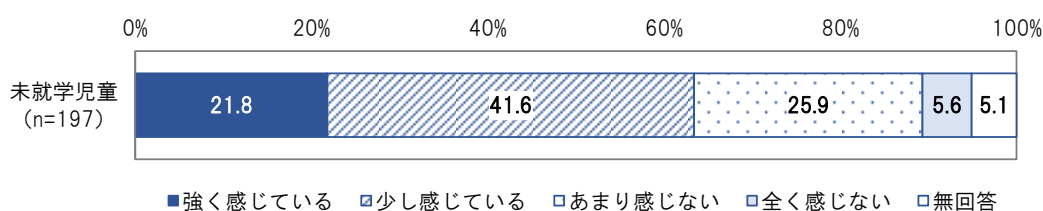
（３）長期休暇中の学童保育の利用希望【未就学／問 28 単数回答】

○長期休暇中の学童保育の利用希望は、「高学年（４～６年生）になっても利用したい」が 37.1% と最も高く、「低学年（１～３年生）の間は利用したい」(34.5%) と合わせた『利用したい』は、7 割以上を占めている。



（４）就学前から小学校入学にあたって不安なことの有無【未就学／問 29 単数回答】

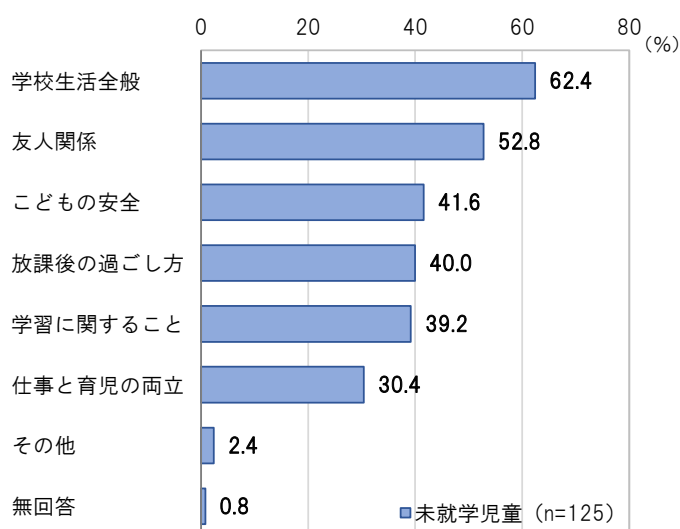
○就学前から小学校入学にあたって不安なことの有無は、「少し感じている」が 41.6% と最も高く、「強く感じている」(21.8%) と合わせた『感じている』は、6 割以上を占めている。



（４－１）就学前から小学校入学にあたって不安なことの内容【未就学／問 29-1 複数回答】

※（１）で「強く感じている」「少し感じている」と回答した人のみ

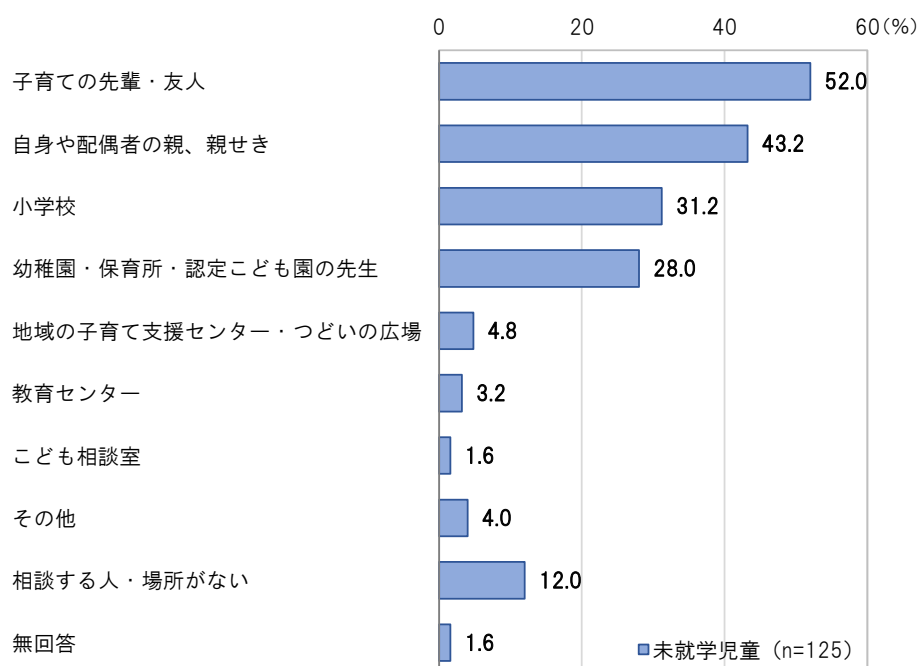
○就学前から小学校入学にあたって不安なことの内容は、「学校生活全般」が 62.4% と最も高く、次いで「友人関係」(52.8%)、「こどもの安全」(41.6%) となっている。



(4-2) 不安を感じて相談する人・場所【未就学／問 29-2 複数回答】

※(1)で「強く感じている」「少し感じている」と回答した人のみ

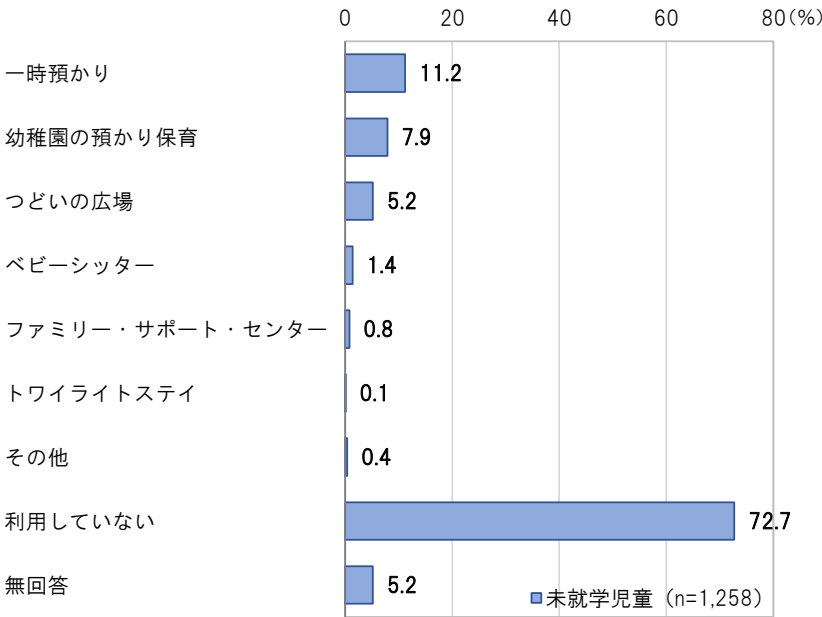
○不安を感じて相談する人・場所は、「子育ての先輩・友人」が 52.0%と最も高く、次いで「自身や配偶者の親、親せき」(43.2%)、「小学校」(31.2%)、「幼稚園・保育所・認定こども園の先生」(28.0%)となっている。



8. 子どもを預かるサービスの不規則な利用について

(1) こどもを預かるサービスの不規則な利用状況【未就学／問 30 複数回答・数量回答】

- こどもを預かるサービスの不規則な利用については、「利用していない」は 72.7%と最も高くなっている。
- 利用している人では、「一時預かり」が 11.2%と高く、次いで「幼稚園の預かり保育」(7.9%)、「つどいの広場」(5.2%)となっている。



《年間利用日数》

- 年間利用日数については、[一時預かり][幼稚園の預かり保育][ベビーシッター]では「1日～2日」、[つどいの広場]では「3日～5日」、[ファミリー・サポート・センター]では「31日以上」がそれぞれ最も高くなっている。

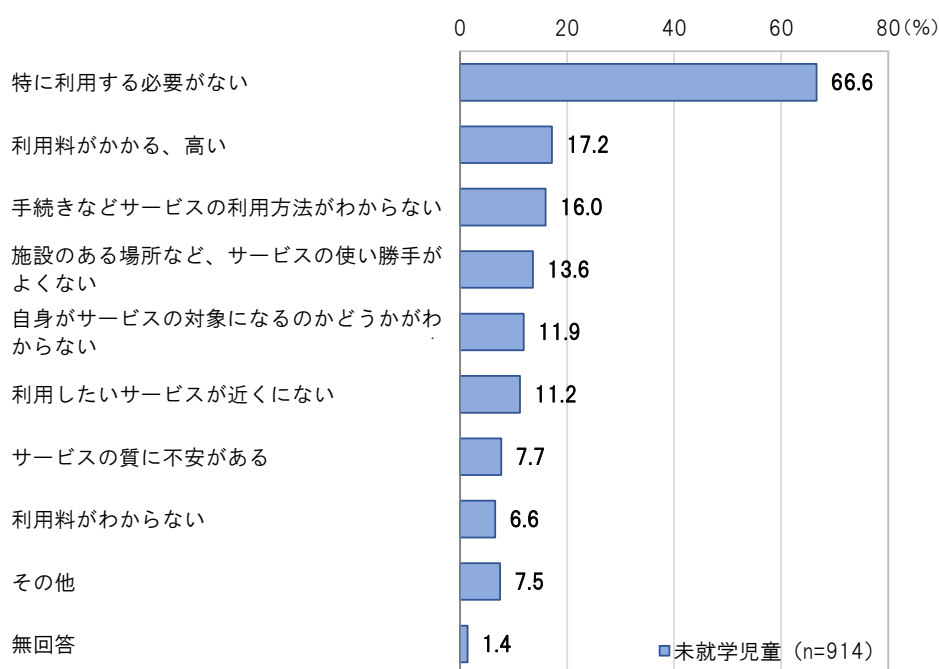
			回答者数 (人)							(%)
			1日～2日	3日～5日	6日～10日	11日～20日	21日～30日	31日以上	無回答	
未就学児童	一時預かり	141	34.0	29.1	19.1	7.8	2.1	5.7	2.1	
	幼稚園の預かり保育	99	22.2	18.2	16.2	12.1	10.1	15.2	6.1	
	つどいの広場	66	16.7	30.3	10.6	13.6	1.5	24.2	3.0	
	ベビーシッター	18	38.9	16.7	22.2	11.1	—	5.6	5.6	
	ファミリー・サポート・センター	10	20.0	20.0	10.0	—	10.0	30.0	10.0	
	トワイライトステイ	1	—	—	—	—	—	—	100.0	
	その他	5	20.0	—	—	—	—	20.0	60.0	

※1 番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2 番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(1-1) こどもを預かるサービスの不規則な利用をしていない理由【未就学／問 30-1 複数回答】

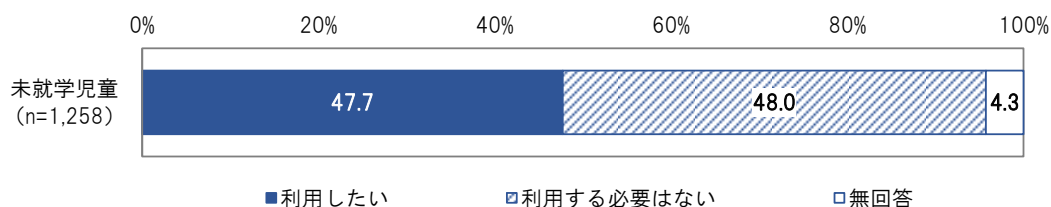
※(1)で「利用していない」と回答した人のみ

○こどもを預かるサービスの不規則な利用をしていない理由は、「特に利用する必要がない」が66.6%と最も高く、次いで「利用料がかかる、高い」(17.2%)、「手続きなどサービスの利用方法がわからない」(16.0%)、「施設のある場所など、サービスの使い勝手がよくない」(13.6%)となっている。



(2) 保育所やこども支援センターの一時預かりの利用意向【未就学／問 31 単数回答】

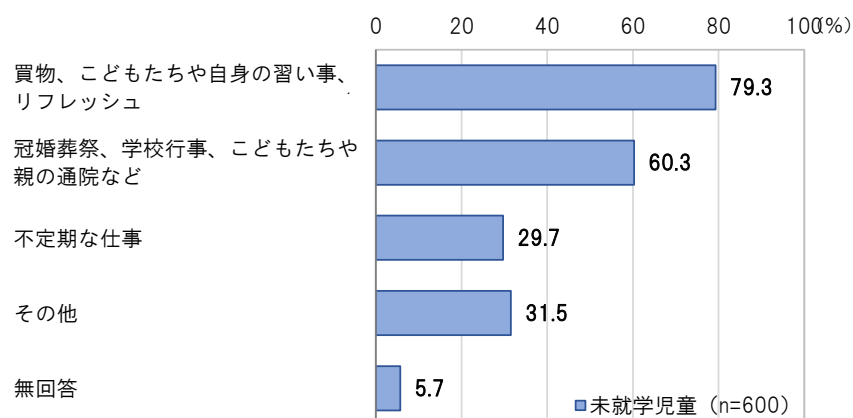
○保育所やこども支援センターの一時預かりの利用意向は、「利用したい」が47.7%、「利用する必要はない」が48.0%となっている。



(2-1) 一時預かりの利用目的【未就学／問 31 複数回答・数量回答】

※(2)で「利用したい」と回答した人のみ

○一時預かりの利用目的は、「買物、子どもたちや自身の習い事、リフレッシュ」が79.3%と最も高く、次いで「冠婚葬祭、学校行事、子どもたちや親の通院など」(60.3%)、「不規則な仕事」(29.7%)となっている。



《年間希望利用日数》

○年間希望利用日数については、合計日数では「11日～20日」が最も高くなっている。

○目的別にみると、[買物、子どもたちや自身の習い事、リフレッシュ][冠婚葬祭、学校行事、子どもたちや親の通院など][不規則な仕事]では「3日～5日」が最も高くなっている。

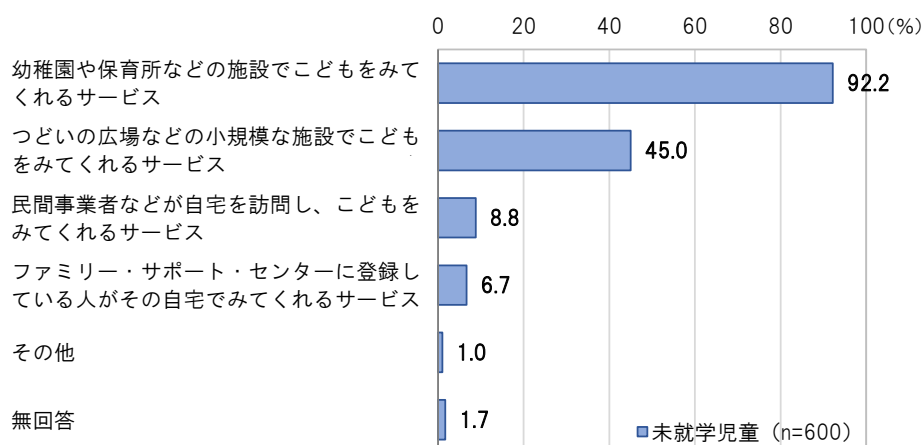
		(%)							
		回答者数 (人)	1日 ～ 2日	3日 ～ 5日	6日 ～ 10日	11日 ～ 20日	21日 ～ 30日	31日 以上	無回答
未就学児童	一時預かり（合計日数）	600	4.2	13.7	15.5	23.8	8.2	10.3	24.3
	買物、子どもたちや自身の習い事、リフレッシュ	476	8.2	31.5	17.9	21.6	7.1	6.9	6.7
	冠婚葬祭、学校行事、子どもたちや親の通院など	362	13.3	36.5	15.2	13.0	3.9	2.5	15.7
	不規則な仕事	178	9.0	24.2	14.6	10.1	5.6	3.9	32.6
	その他	189	3.2	7.4	20.6	28.6	18.5	21.2	0.5

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(2-2) 一時預かりとして望ましいサービス形態【未就学／問 31-1 複数回答】

※(2)で「利用したい」と回答した人のみ

○一時預かりとして望ましいサービス形態は、「幼稚園や保育所などの施設でこどもをみてるサービス」が92.2%と最も高く、次いで「つどいの広場などの小規模な施設でこどもをみてるサービス」(45.0%)となっている。

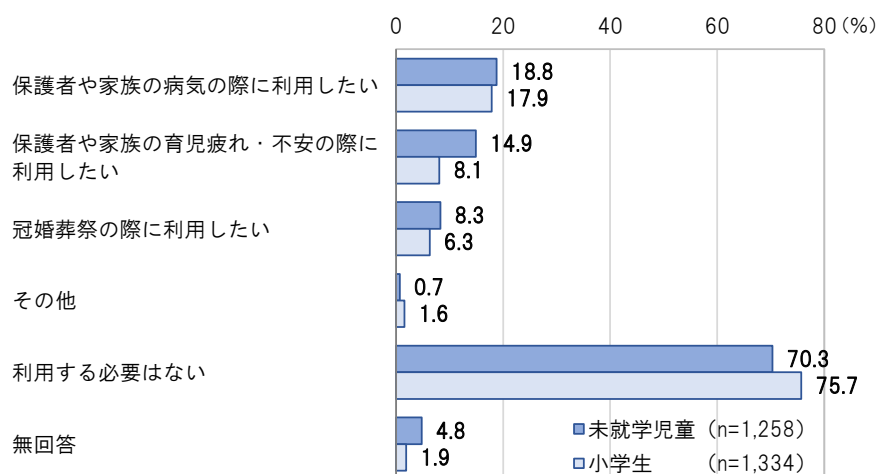


(3) 短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用希望

【未就学／問 32 複数回答・数量回答、小学生／問 18 複数回答・数量回答】

○短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用希望は、「利用する必要はない」が未就学児童で70.3%、小学生で75.7%と最も高くなっている。

○利用希望のある人では、「保護者や家族の病気の際に利用したい」未就学児童で18.8%、小学生で17.9%と高く、次いで「保護者や家族の育児疲れ・不安の際に利用したい」(未就学児童:14.9%、小学生:8.1%)となっている。



《年間希望利用日数》

○目的別にみると、未就学児童の〔保護者や家族の病気の際に利用したい〕では「3泊～5泊」が最も高く、その他の目的では「1泊～2泊」が最も高くなっている。

(%)

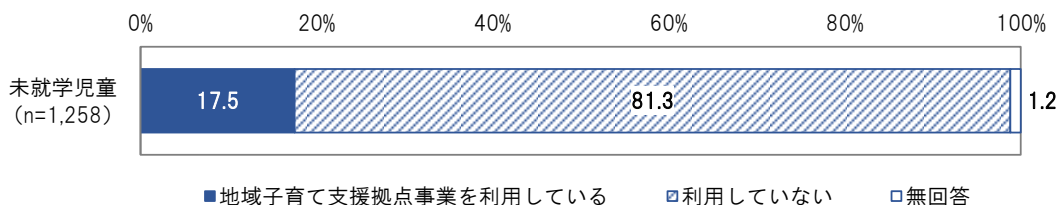
		回答者数 (人)	1泊 ～ 2泊	3泊 ～ 5泊	6泊 ～ 10泊	11泊 ～ 20泊	21泊 ～ 30泊	31泊 以上	無回答
未就学児童	保護者や家族の病気の際に利用したい	237	34.6	38.4	13.1	3.0	1.3	1.3	8.4
	保護者や家族の育児疲れ・不安の際に利用したい	188	38.3	27.1	13.8	11.7	2.1	1.6	5.3
	冠婚葬祭の際に利用したい	105	57.1	26.7	4.8	1.0	－	－	10.5
	その他	9	22.2	11.1	11.1	11.1	－	11.1	33.3
小学生	保護者や家族の病気の際に利用したい	239	36.4	34.7	15.9	3.3	0.8	0.4	8.4
	保護者や家族の育児疲れ・不安の際に利用したい	108	38.0	31.5	16.7	4.6	3.7	－	5.6
	冠婚葬祭の際に利用したい	84	71.4	19.0	4.8	1.2	－	－	3.6
	その他	21	28.6	23.8	14.3	－	－	－	33.3

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

9. 地域の子育て支援サービスの利用状況について

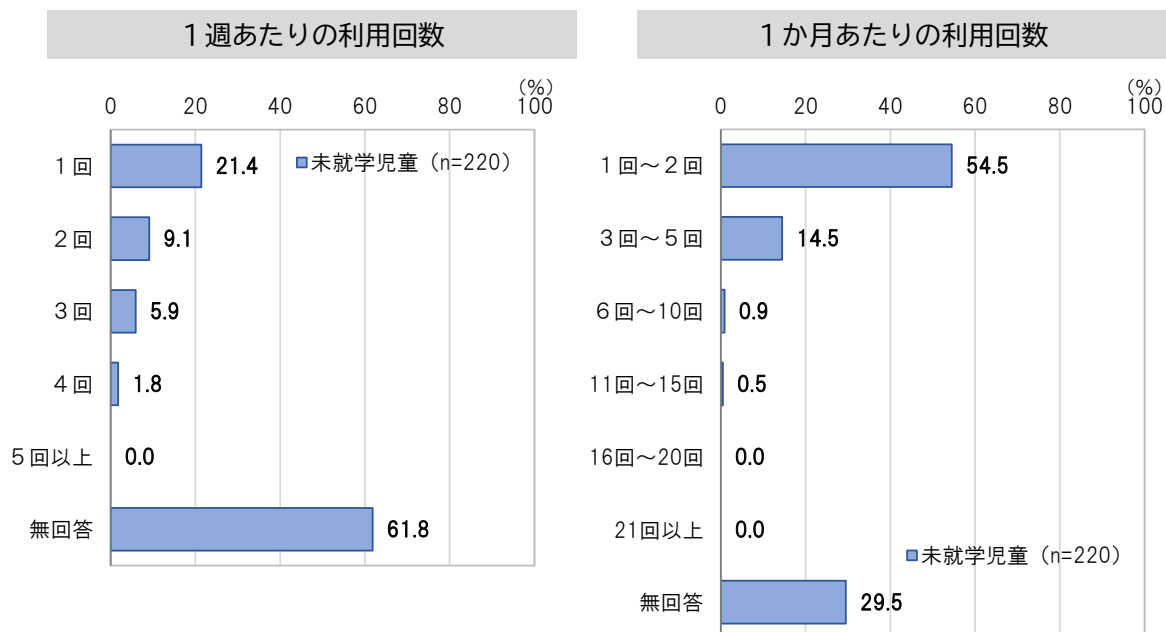
(1) 地域子育て支援拠点事業の利用状況【未就学／問 33 単数回答】

○地域子育て支援拠点事業の利用状況は、「利用していない」が81.3%と大半を占め、「地域子育て支援拠点事業を利用している」は17.5%となっている。



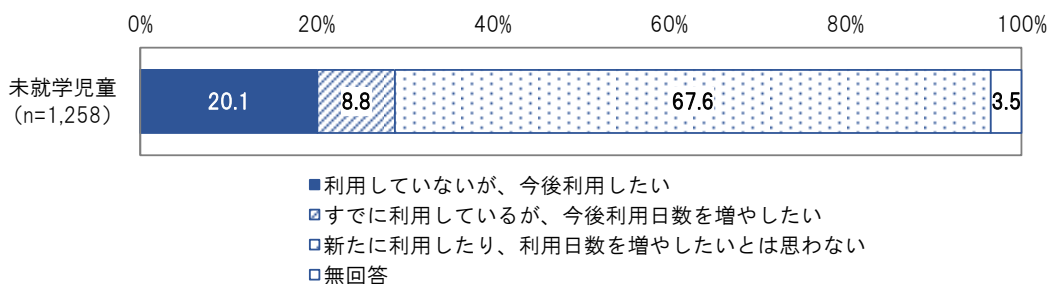
《1週あたりの利用回数・1か月あたりの利用回数》

○1週あたりの利用回数は、「1回」が21.4%と高く、1か月あたりの利用回数では「1回～2回」が54.5%と最も高くなっている。



(2) 地域子育て支援拠点事業の今後の利用意向【未就学／問 34 単数回答】

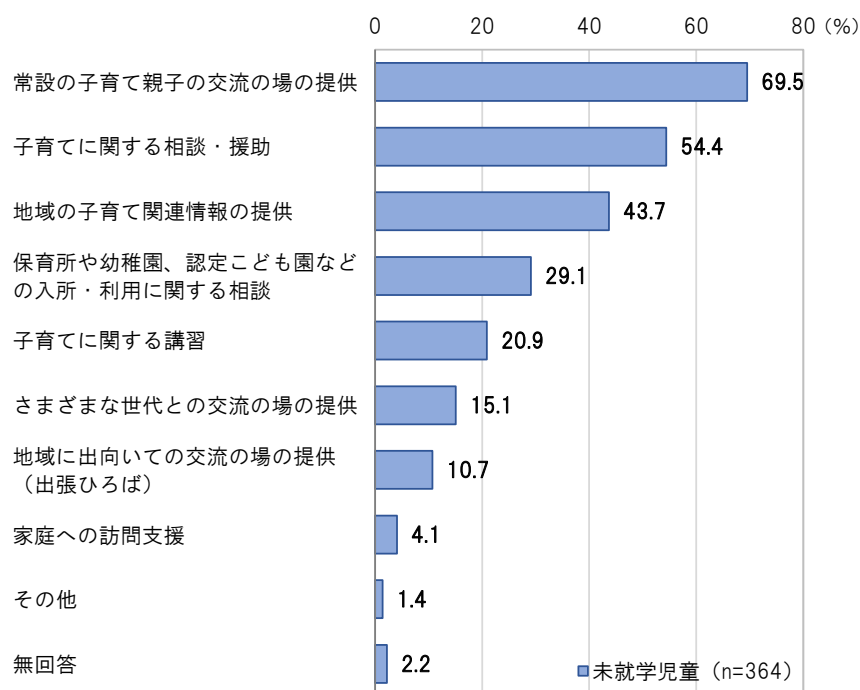
○地域子育て支援拠点事業の今後の利用意向は、「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」が67.6%と大半を占め、「利用していないが、今後利用したい」と「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」を合わせた『利用したい』が3割近くとなっている。



(2-1) 地域子育て支援拠点事業の利用にあたって利用したいサービス【未就学／問 34-1 複数回答】

※(2)で「利用していないが、今後利用したい」「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」と回答した人のみ

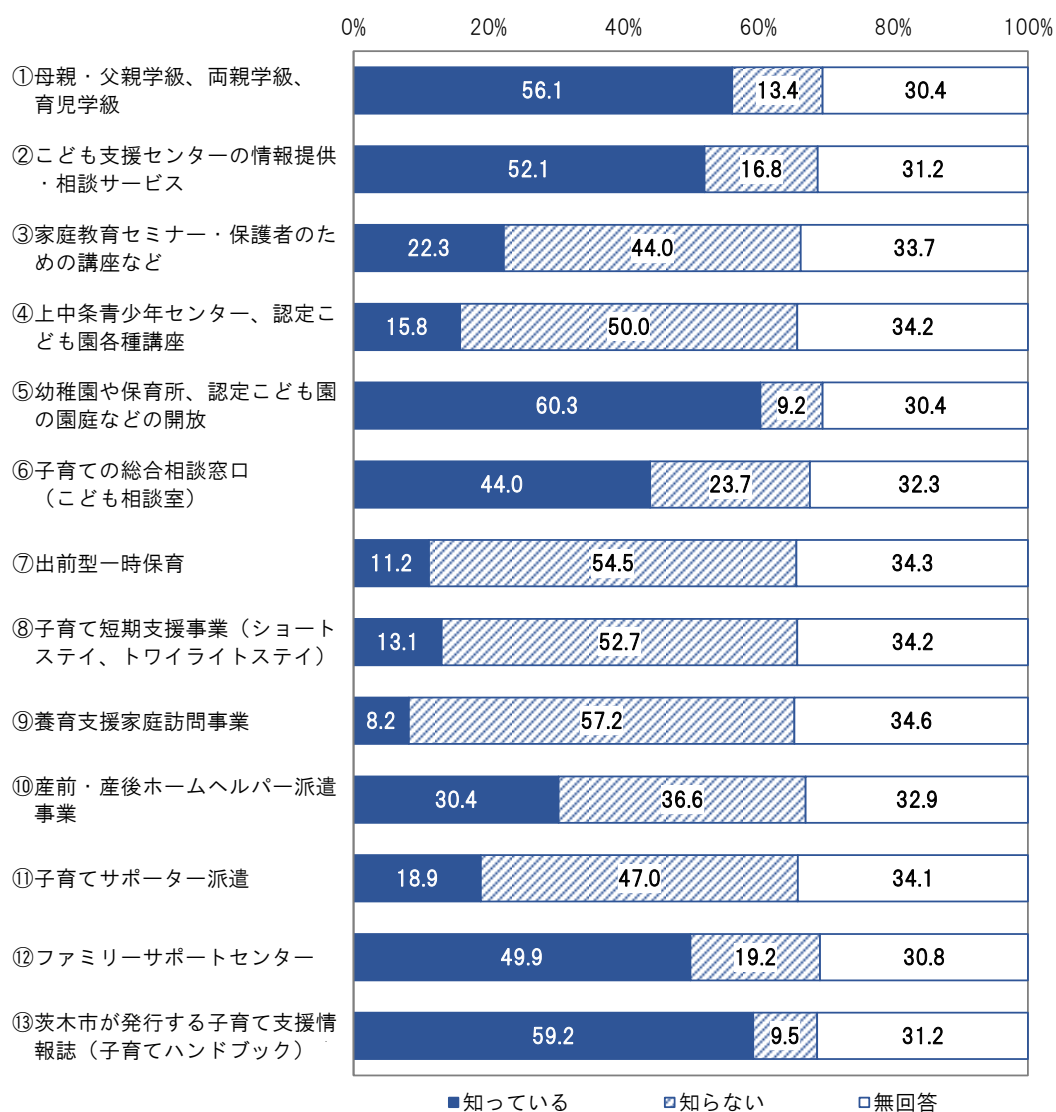
○地域子育て支援拠点事業の利用にあたって利用したいサービスは、「常設の子育て親子の交流の場の提供」が69.5%と最も高く、次いで「子育てに関する相談・援助」(54.4%)、「地域の子育て関連情報の提供」(43.7%)となっている。



(3) 子育て支援サービスの認知度【未就学／問35(1) 単数回答】

○子育て支援サービスの認知度は、「知っている」の割合をみると、“⑤幼稚園や保育所、認定こども園の園庭などの開放”で60.3%と最も高く、次いで“⑬茨木市が発行する子育て支援情報誌(子育てハンドブック)”(59.2%)、“①母親・父親学級、両親学級、育児学級”(56.1%)、“②こども支援センターの情報提供・相談サービス”(52.1%)となっている。

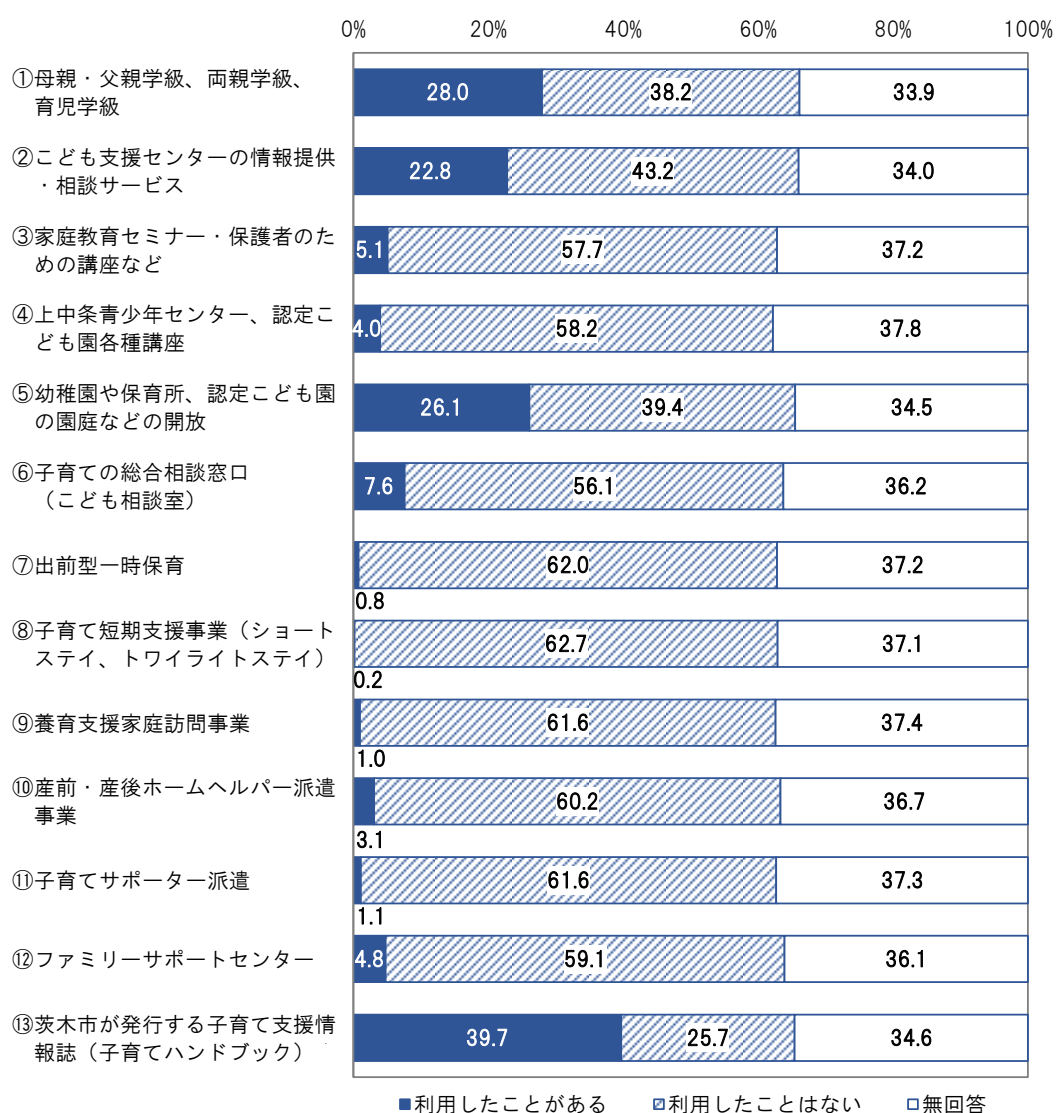
○“⑦出前型一時保育”、“⑧子育て短期支援事業(ショートステイ、トワイライトステイ)”、“⑨養育支援家庭訪問事業”では、「知っている」が1割程度と低くなっている。



(4) 子育て支援サービスの利用状況【未就学／問 35（2） 単数回答】

○子育て支援サービスの利用状況は、「利用したことがある」の割合をみると、“⑬茨木市が発行する子育て支援情報誌（子育てハンドブック）”で39.7%と最も高く、次いで“①母親・父親学級、両親学級、育児学級”（28.0%）、“⑤幼稚園や保育所、認定こども園の園庭などの開放”（26.1%）、“②こども支援センターの情報提供・相談サービス”（22.8%）となっている。

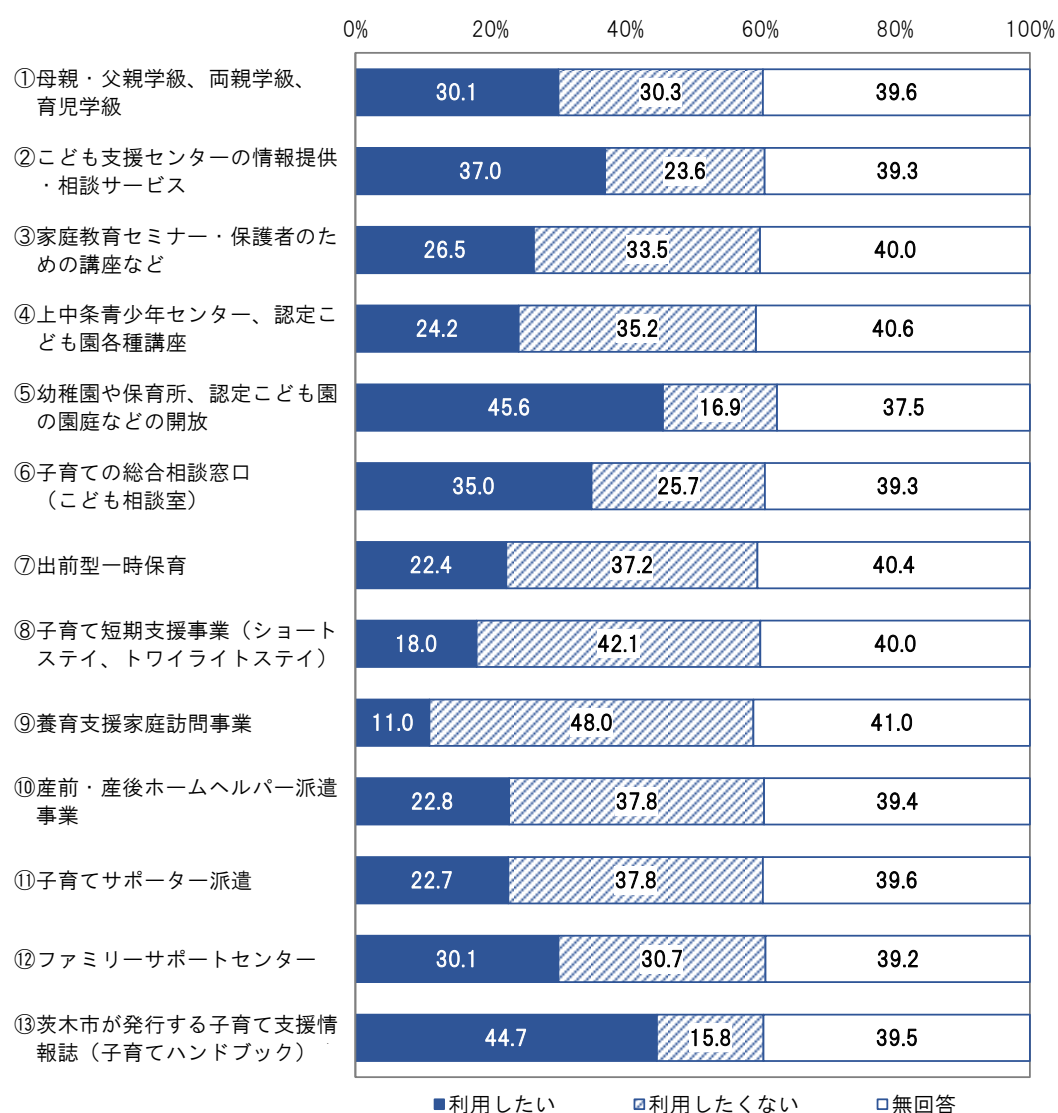
○その他のサービスでは、「利用したことがある」が1割未満と低くなっている。



(5) 子育て支援サービスの今後の利用意向【未就学／問 35（3） 単数回答】

○子育て支援サービスの今後の利用意向は、「利用したい」の割合をみると、“⑬茨木市が発行する子育て支援情報誌（子育てハンドブック）”で44.7%と最も高く、次いで“⑤幼稚園や保育所、認定こども園の園庭などの開放”（45.6%）、“②こども支援センターの情報提供・相談サービス”（37.0%）、“⑥子育ての総合相談窓口（こども相談室）”（35.0%）となっている。

○その他のサービスでは、「利用したくない」が「利用したい」を上回っている。



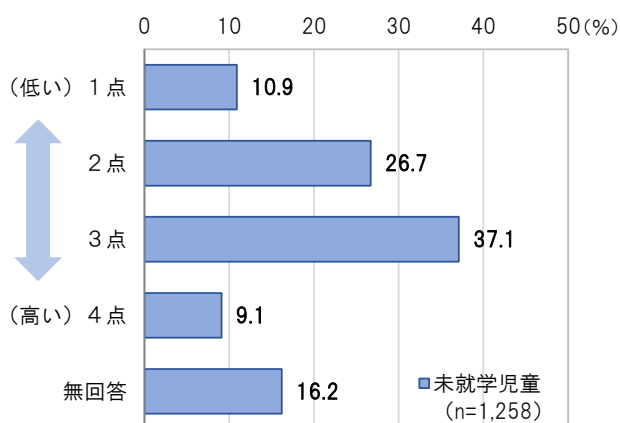
10. 市役所などへの要望について

(1) 取り組みに対する満足度【未就学／問 36 単数回答、小学生／問 23 単数回答】

① 茨木市における子育て環境や子育て支援

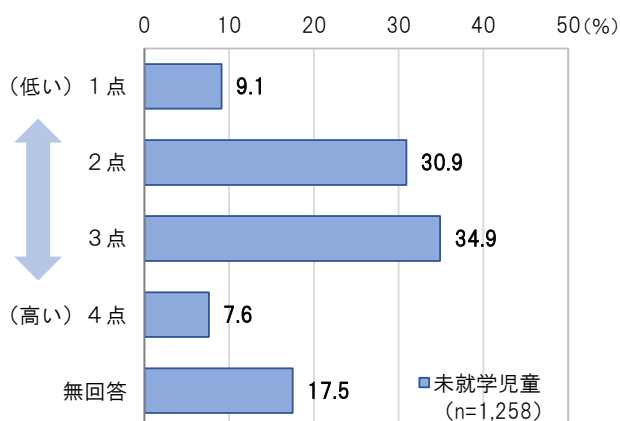
○茨木市における子育て環境や子育て支援に関する満足度は、「3点」が37.1%と最も高く、次いで「2点」(26.7%)となっており、平均点は2.53点となっている。

○①～⑥の未就学児童対象の項目の中では、最も高い点数となっている。



② 地域における子育て支援サービスの充実

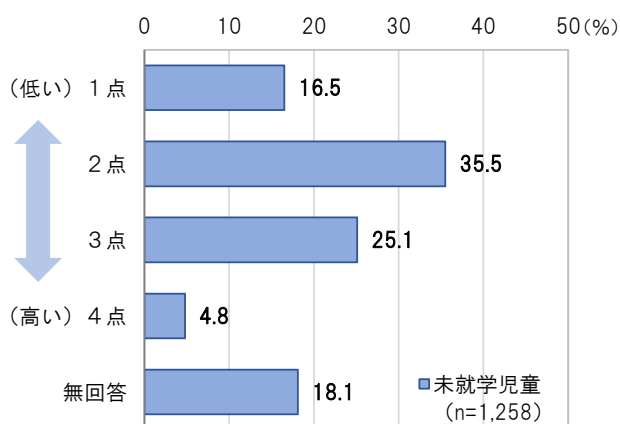
○地域における子育て支援サービスの充実に関する満足度は、「3点」が34.9%と最も高く、次いで「2点」(30.9%)となっており、平均点は2.50点となっている。



③ 仕事と子育ての両立ができる職場環境や保育サービス

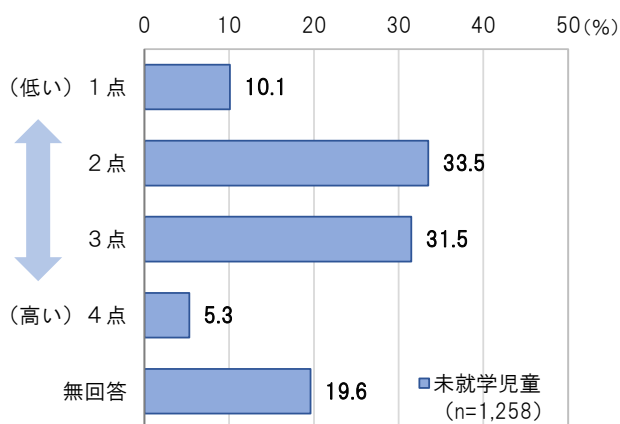
○仕事と子育ての両立ができる職場環境や保育サービスに関する満足度は、「2点」が35.5%と最も高く、次いで「3点」(25.1%)となっており、平均点は2.22点となっている。

○①～⑥の未就学児童対象の項目の中では、最も低い点数となっている。



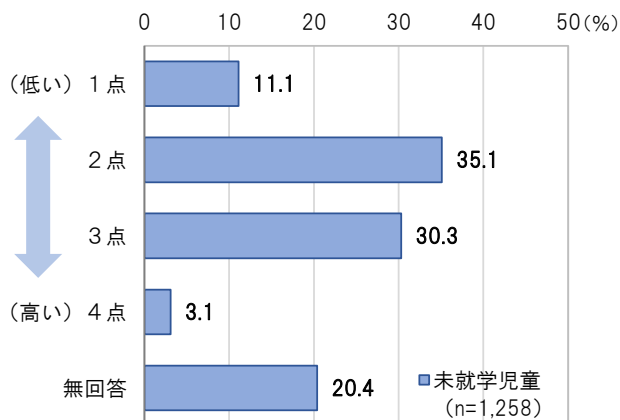
④ 学校教育などの充実、こどもの視点を取り入れた社会づくり

○学校教育などの充実、こどもの視点を取り入れた社会づくりに関する満足度は、「2点」が33.5%と最も高く、次いで「3点」(31.5%)となっており、平均点は2.40点となっている。



⑤ 保育・医療の充実や、さまざまな課題を抱える家庭への支援

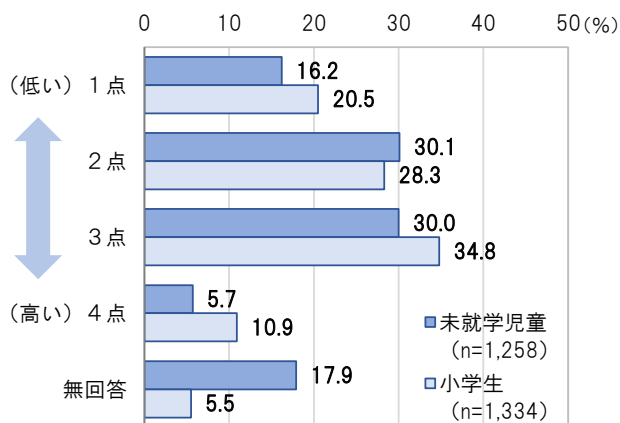
○保育・医療の充実や、さまざまな課題を抱える家庭への支援に関する満足度は、「2点」が35.1%と最も高く、次いで「3点」(30.3%)となっており、平均点2.32点となっている。



⑥ 教育・保育や医療への経済的な助成

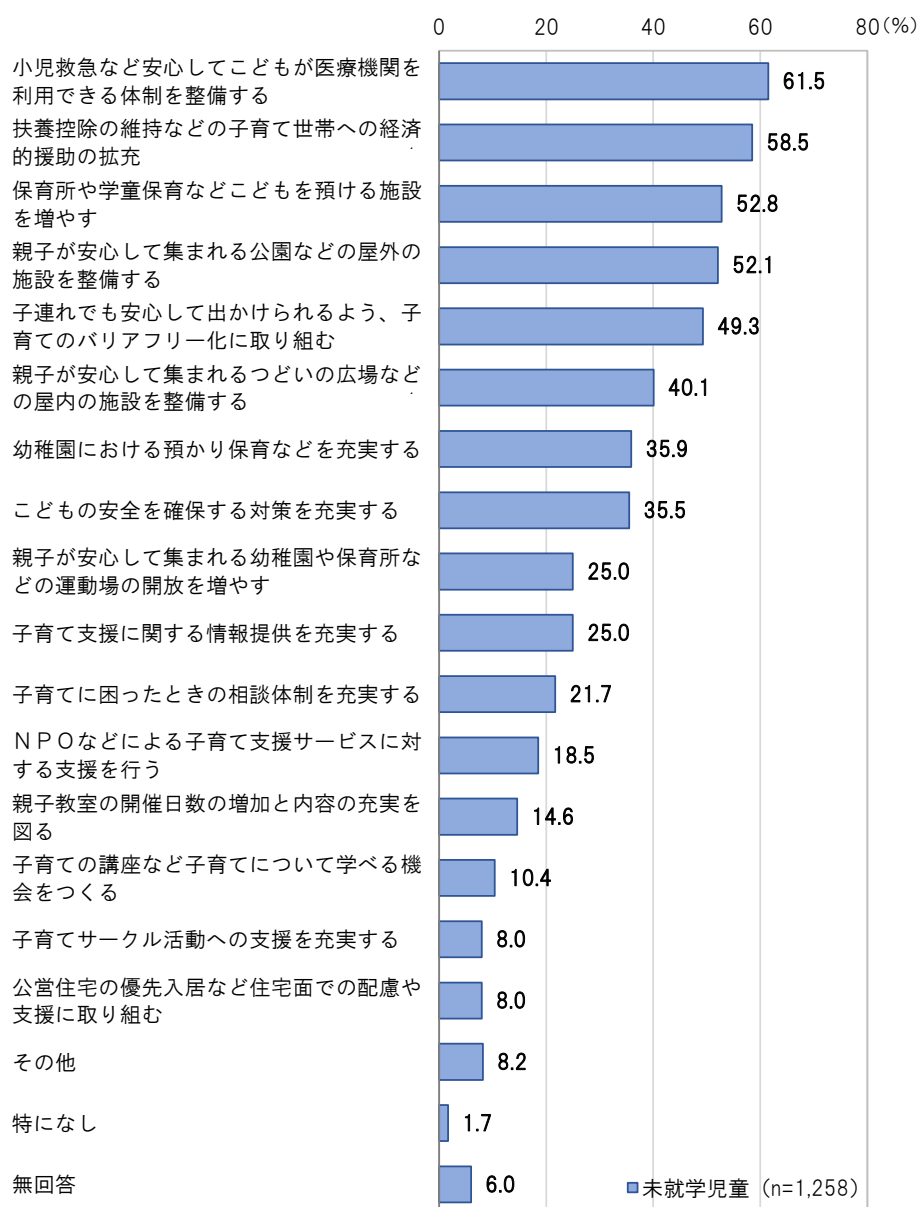
○教育・保育や医療への経済的な助成に関する満足度は、未就学児童では「2点」が30.1%と最も高く、次いで「3点」(30.0%)となっており、平均点は2.31点となっている。

○小学生では、「3点」が34.8%と最も高く、次いで「2点」(28.3%)となっており、平均点は2.38点となっている。



(2) 市に充実してほしい子育て支援サービス【未就学／問 37 複数回答】

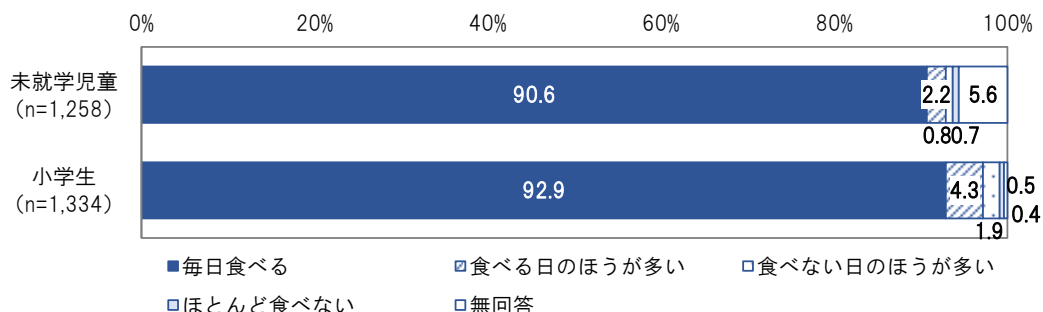
○市に充実してほしい子育て支援サービスは、「小児救急など安心してこどもが医療機関を利用できる体制を整備する」が61.5%と最も高く、次いで「扶養控除の維持などの子育て世帯への経済的援助の拡充」(58.5%)、「保育所や学童保育などこどもを預ける施設を増やす」(52.8%)、「親子が安心して集まれる公園などの屋外の施設を整備する」(52.1%)となっている。



11. こどもの生活習慣について

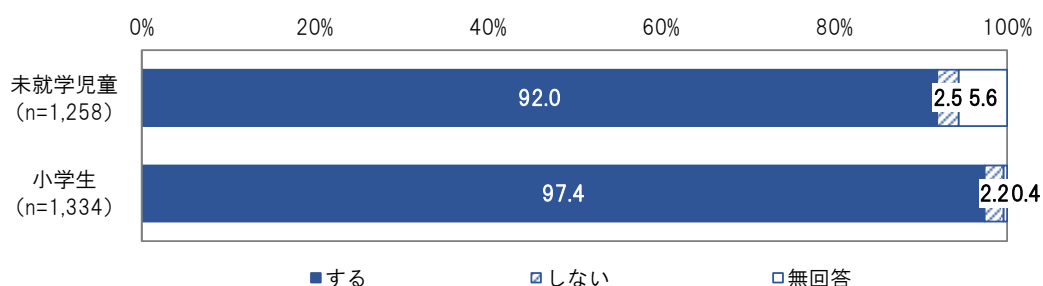
(1) 朝食の摂取状況【未就学／問 38（1） 単数回答、小学生／問 24（1） 単数回答】

○朝食の摂取状況は、「毎日食べる」が未就学児童で 90.6%、小学生で 92.9%と最も高くなっている。



(2) 1日1回以上の家族と一緒に食事【未就学／問 38（2） 単数回答、小学生／問 24（2） 単数回答】

○1日1回以上の家族と一緒に食事は、「する」が未就学児童で 92.0%、小学生で 97.4%と高くなっている。

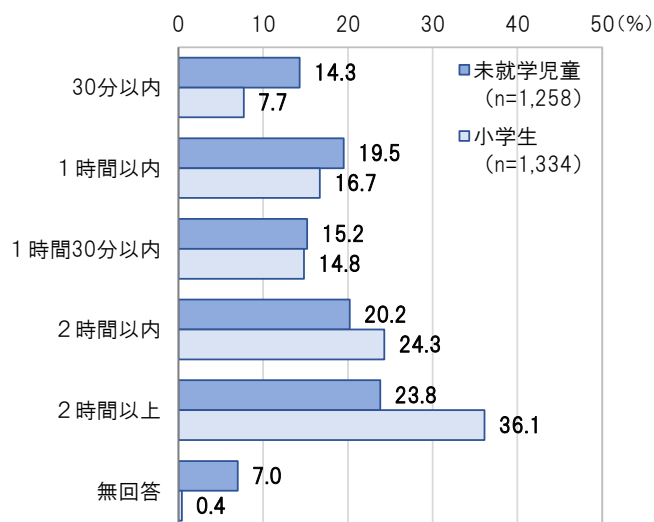


(3) 平日のテレビ・ビデオ等の1日あたりの平均視聴時間

【未就学／問 38（3） 単数回答、小学生／問 24（3） 単数回答】

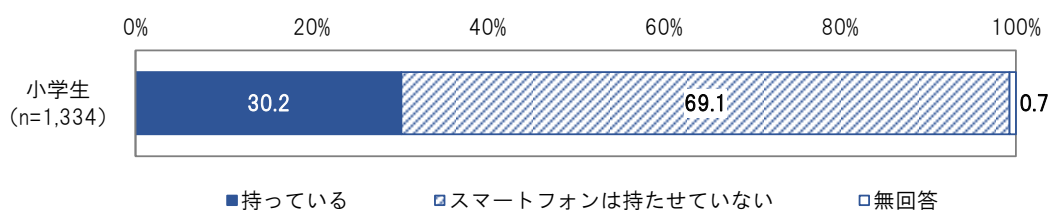
○平日のテレビ・ビデオ等の1日あたりの平均視聴時間は、「2時間以上」が未就学児童で 23.8%、小学生で 36.1%と最も高くなっている。

○また、未就学児童に比べて小学生で視聴時間が長くなっている。



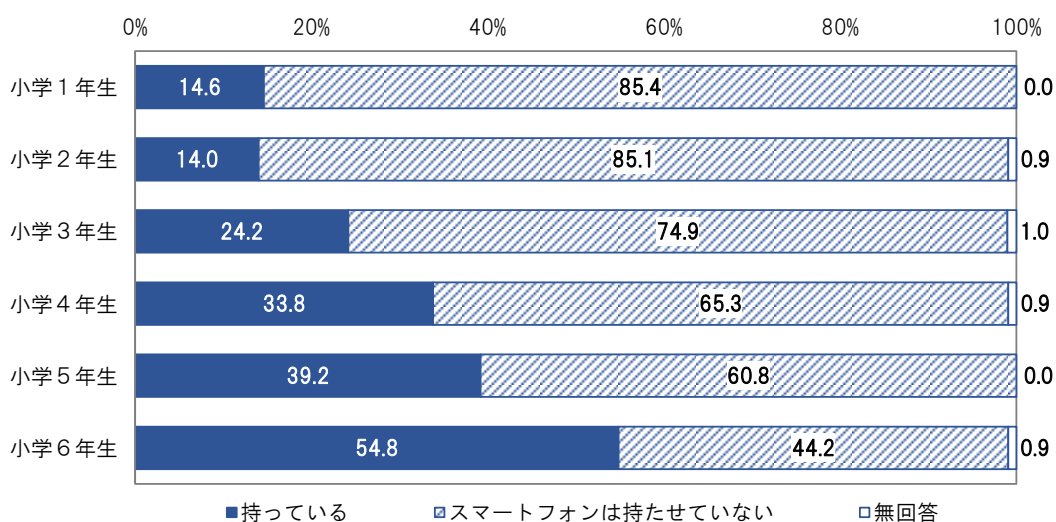
（４）こども専用のスマートフォンの所持状況【小学生／問 24（４） 単数回答】

○こども専用のスマートフォンの所持は、「スマートフォンは持たせていない」が 69.1%と約 7 割を占め、「持っている」は 30.2%となっている。



《学年別比較》

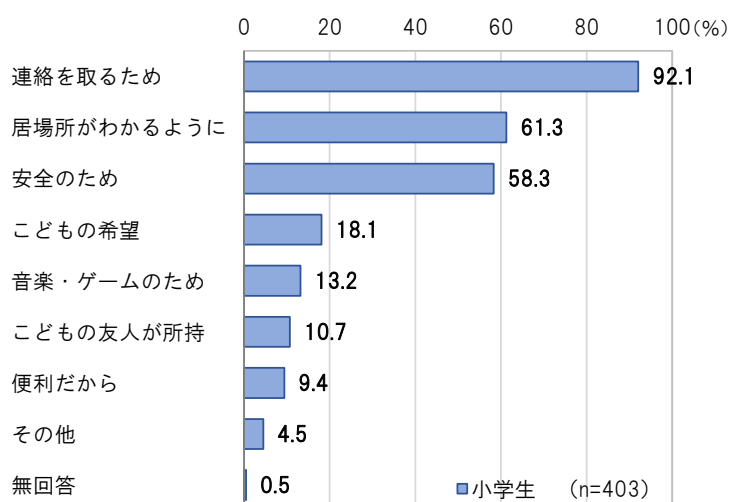
○学年別にみると、学年が上がるにつれて「持っている」が高くなる傾向がみられ、[小学 6 年生]では「持っている」が半数以上となっている。



（４-１）こども専用のスマートフォンを持たせている理由【小学生／問 24（４） 複数回答】

※（４）で「持っている」と回答した人のみ

○こども専用のスマートフォンを持たせている理由は、「連絡を取るため」が 92.1%と最も高く、次いで「居場所がわかるように」（61.3%）、「安全のため」（58.3%）となっている。

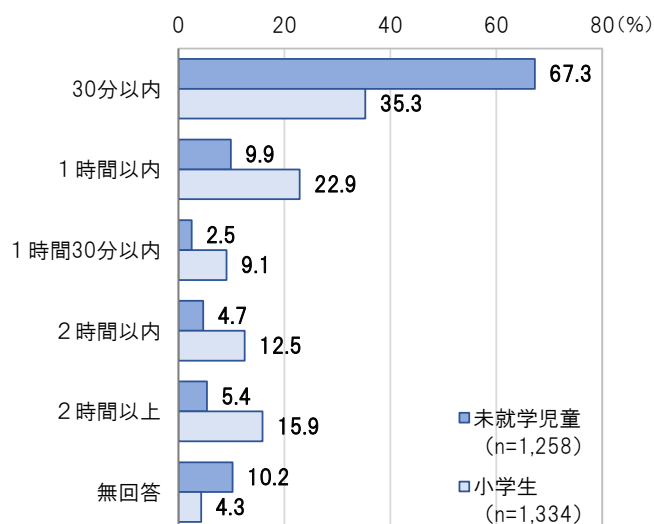


(5) 平日のインターネット・スマートフォンの1日あたりの平均利用時間

【未就学／問 38（4） 単数回答、小学生／問 24（5） 単数回答】

○平日のインターネット・スマートフォンの1日あたりの平均利用時間は、「30分以内」が未就学児童で67.3%、小学生で35.3%と最も高くなっている。

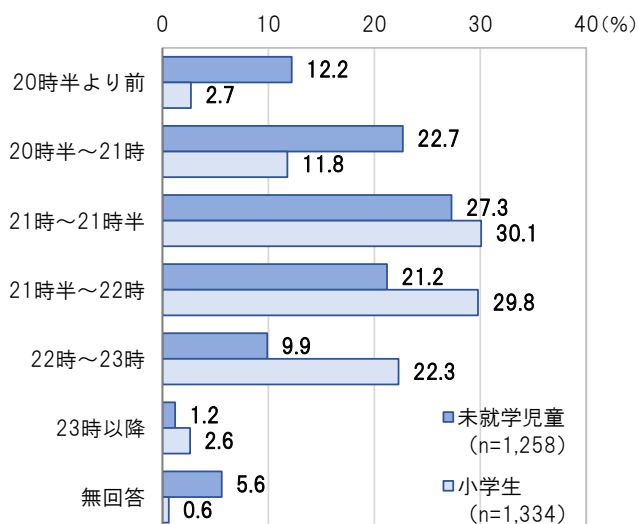
○また、未就学児童に比べて小学生で利用時間が長くなっている。



(6) 就寝時刻【未就学／問 38（5） 単数回答、小学生／問 24（6） 単数回答】

○就寝時刻は、「21時～21時半」が未就学児童で27.3%、小学生で30.1%と最も高くなっている。

○また、未就学児童に比べて小学生で就寝時刻が遅くなっている。

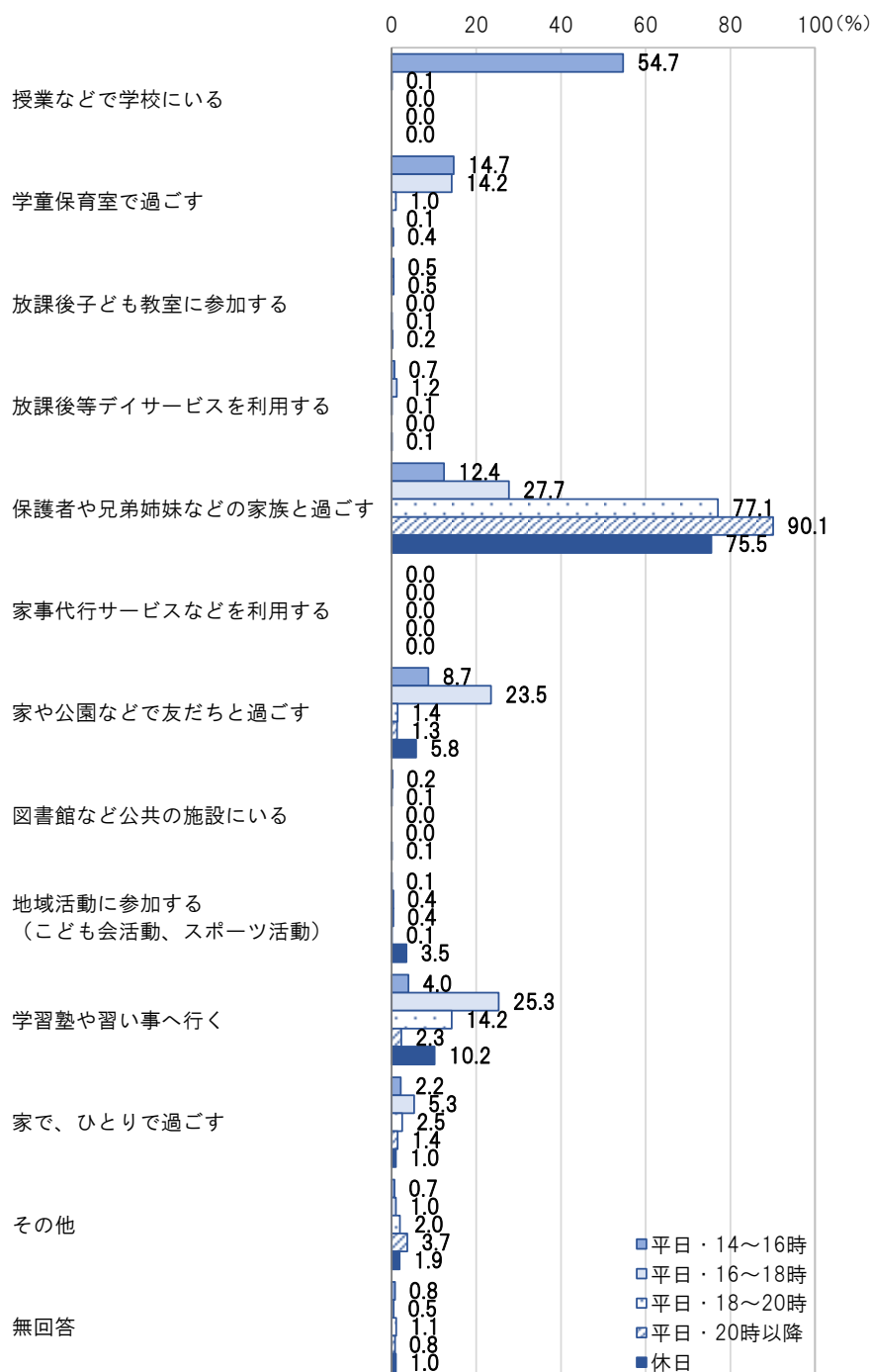


12. こどものふだんの過ごし方について

(1) こどものふだんの過ごし方【小学生／問 25 単数回答】

○こどものふだんの過ごし方は、[平日・14～16 時] では「授業などで学校にいる」が 54.7%と最も高く、[平日・16 時以降][休日] は「保護者や兄弟姉妹などの家族と過ごす」が最も高くなっている。

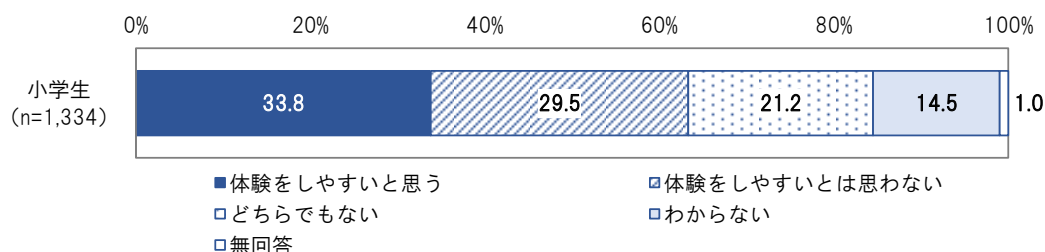
○また、[平日・16～18 時] では「家や公園などで友だちと過ごす」や「学習塾や習い事へ行く」が2割を超えて高くなっている。



13. 地域での自然体験などへの参加について

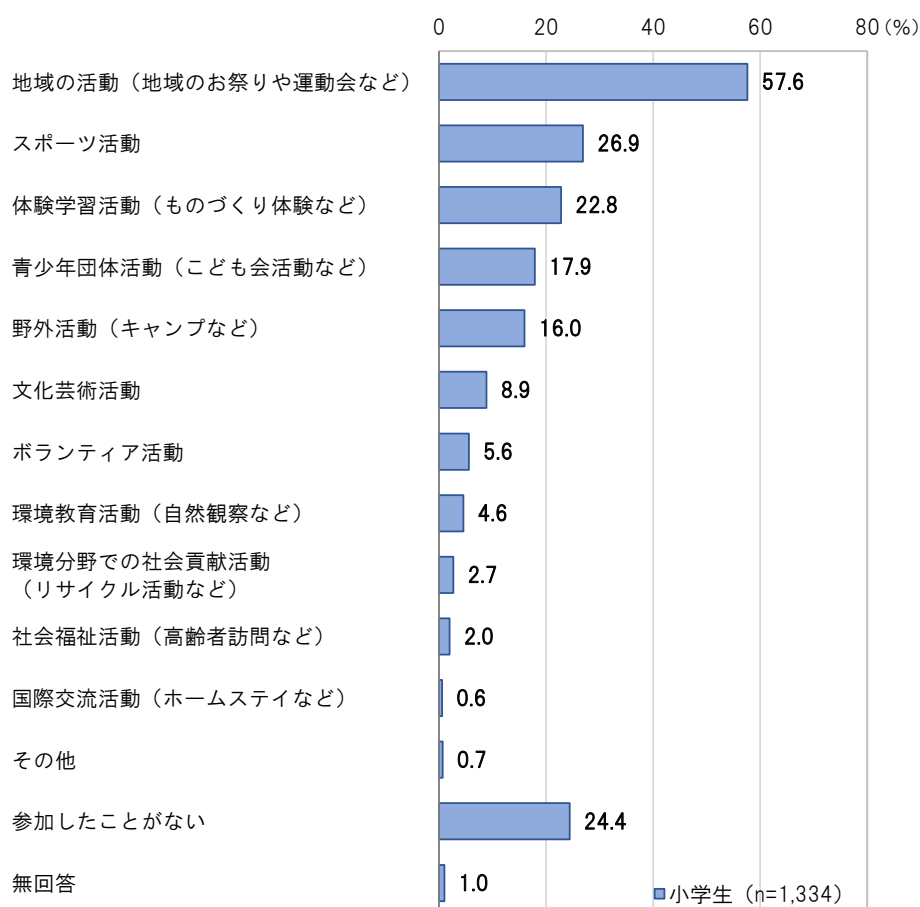
(1) こどもが自然・社会・文化などを体験しやすい環境と思うか【小学生／問 26 単数回答】

○こどもが自然・社会・文化などを体験しやすい環境と思うかは、「体験をしやすいと思う」が 33.8% と 3 割を超えて最も高くなっているものの、「体験をしやすいとは思わない」が 29.5% と約 3 割を占めている。



(2) 参加したことがある地域での自然体験・社会参加・文化活動【小学生／問 27 複数回答】

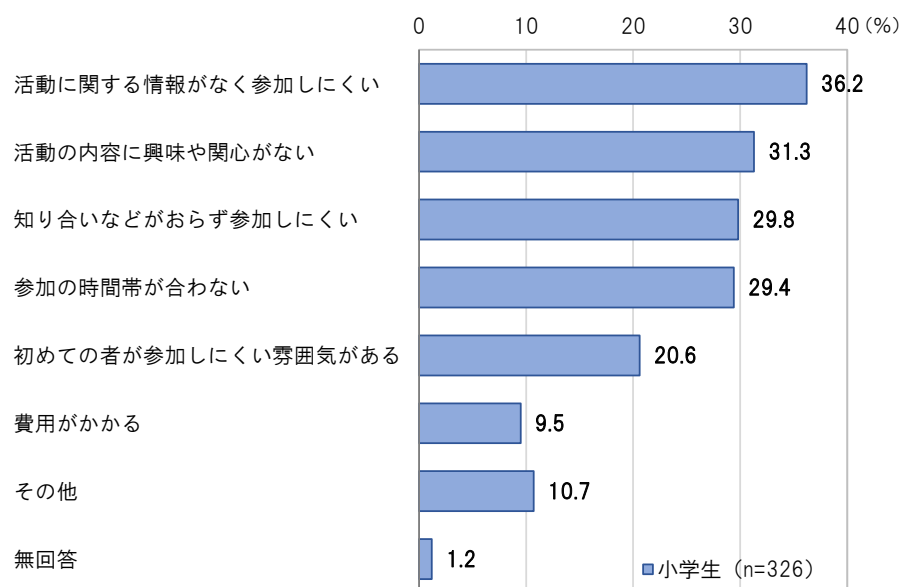
○参加したことがある地域での自然体験・社会参加・文化活動は、「地域の活動（地域のお祭りや運動会など）」が 57.6% と最も高く、次いで「スポーツ活動」（26.9%）、「体験学習活動（ものづくり体験など）」（22.8%）、「青少年団体活動（こども会活動など）」（17.9%）となっている。



(2-1) 地域での自然体験・社会参加・文化活動に参加していない理由【小学生／問 27-1 複数回答】

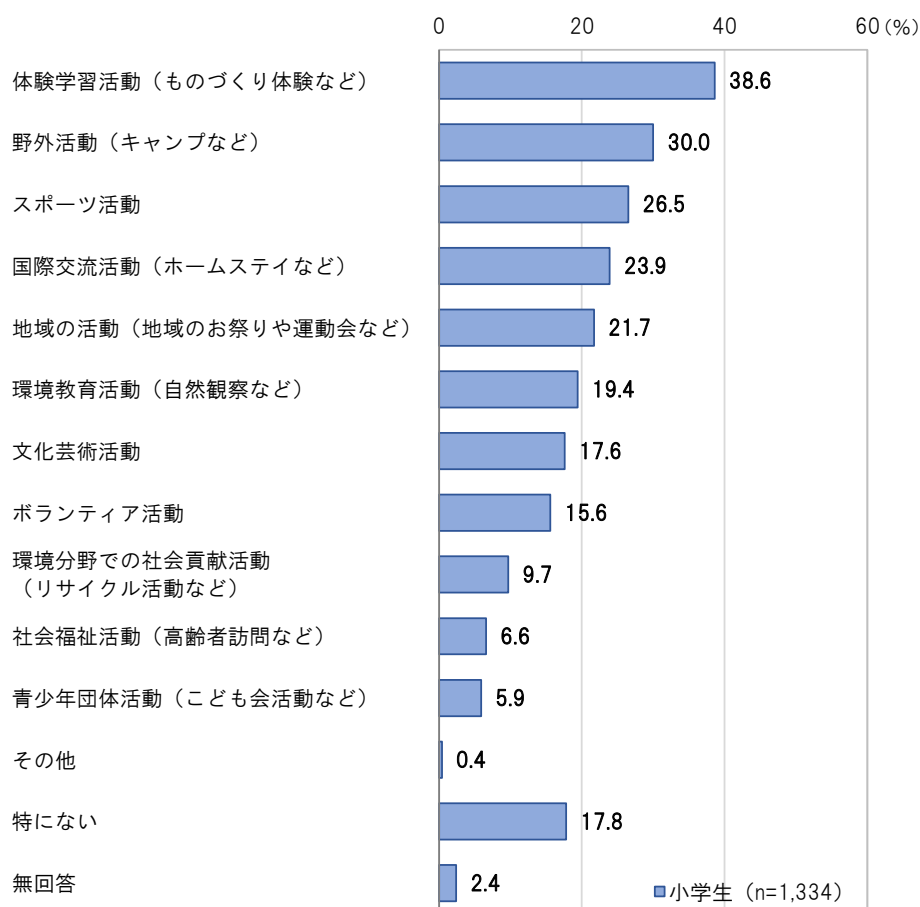
※(2)で「参加したことがない」と回答した人のみ

○地域での自然体験・社会参加・文化活動に参加していない理由は、「活動に関する情報がなく参加しにくい」が36.2%と最も高く、次いで「活動の内容に興味や関心がない」(31.3%)、「知り合いなどがおらず参加しにくい」(29.8%)、「参加の時間帯が合わない」(29.4%)となっている。



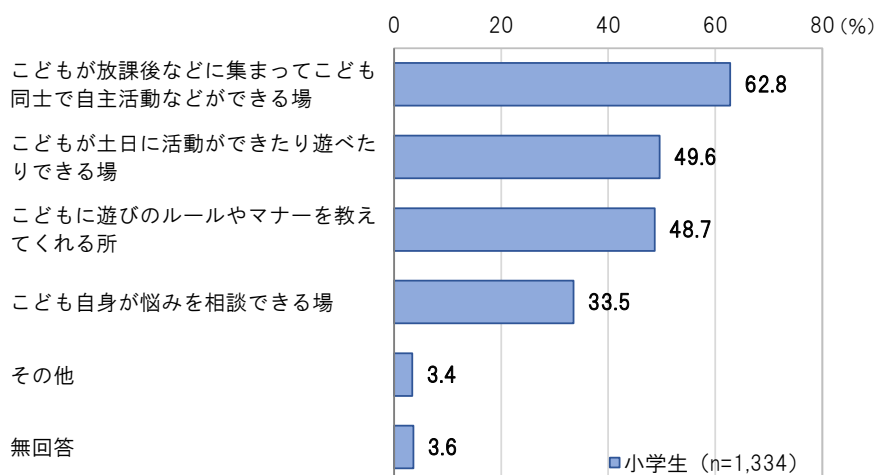
(3) 今後参加させたい地域での自然体験・社会参加・文化活動【小学生／問 28 複数回答】

- 今後参加させたい地域での自然体験・社会参加・文化活動は、「体験学習活動（ものづくり体験など）」が 38.6%と最も高く、次いで「野外活動（キャンプなど）」(30.0%)、「スポーツ活動」(26.5%)、「国際交流活動（ホームステイなど）」(23.9%)となっている。
- (2) 参加したことがある地域での自然体験・社会参加・文化活動と比較すると、「体験学習活動（ものづくり体験など）」や「野外活動（キャンプなど）」、「国際交流活動（ホームステイなど）」などへの参加意向が高くなっている。



(4) こども同士が交流等を行える身近な場として望ましいこと【小学生／問 29 複数回答】

○こども同士が交流等を行える身近な場として望ましいことは、「こどもが放課後などに集まってこども同士で自主活動などができる場」が62.8%と最も高く、次いで「こどもが土日に活動ができたり遊べたりできる場」(49.6%)、「こどもに遊びのルールやマナーを教えてくれる所」(48.7%)となっている。



《学年別比較》

○学年別にみると、すべての学年で「こどもが放課後などに集まってこども同士で自主活動などができる場」が最も高く、次いで「1年生」「2年生」では「こどもに遊びのルールやマナーを教えてくれる所」、その他の学年では「こどもが土日に活動ができたり遊べたりできる場」となっている。

○また、「こどもに遊びのルールやマナーを教えてくれる所」では、学年が下がるにつれて高くなる傾向がみられる。

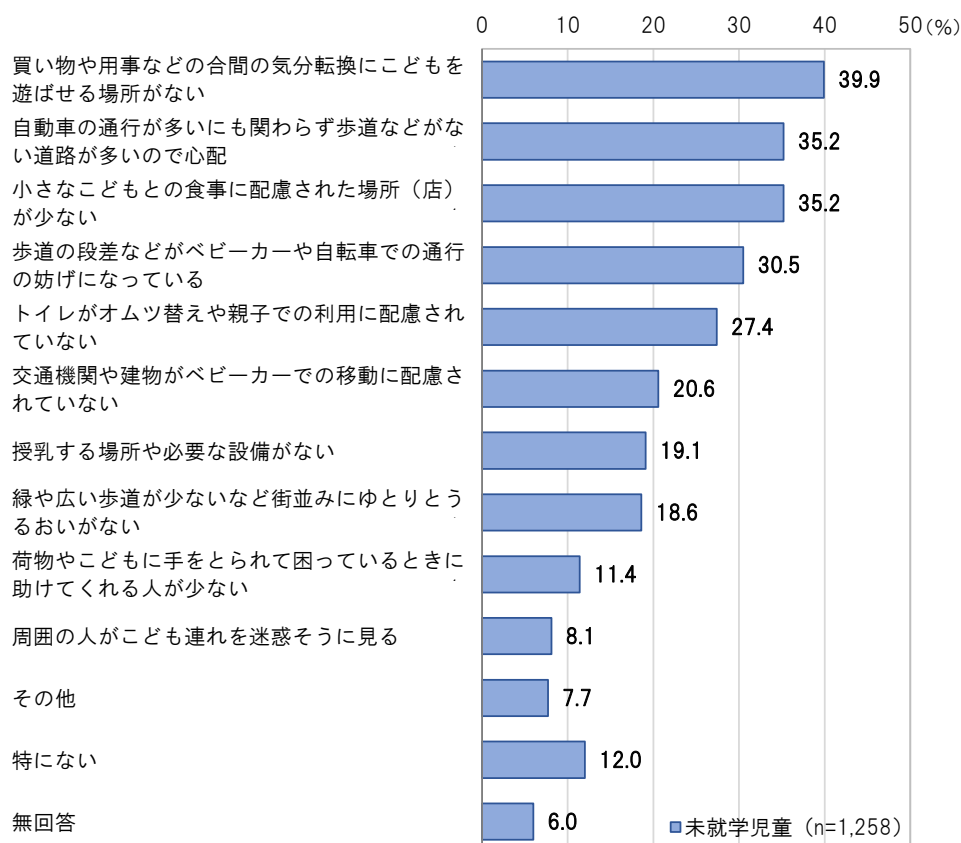
		回答者数 (人)	こどもが放課後などに集まってこども同士で自主活動などができる場	こどもが土日に活動ができたり遊べたりできる場	こどもに遊びのルールやマナーを教えてくれる所	こども自身が悩みを相談できる場	その他	無回答
学年別	1年生	213	64.3	54.9	58.7	37.1	2.3	2.8
	2年生	228	66.7	49.6	51.3	31.1	3.1	2.6
	3年生	207	66.7	49.8	46.9	31.9	4.3	3.4
	4年生	216	62.0	51.9	48.6	32.9	2.8	3.2
	5年生	227	57.7	44.1	43.6	33.0	4.4	5.7
	6年生	217	61.3	46.5	41.9	35.9	3.2	3.7

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

14. 子育てを支援する生活環境の整備やこどもの安全の確保について

(1) 外出したときに困ること・困ったこと【未就学／問 39 複数回答】

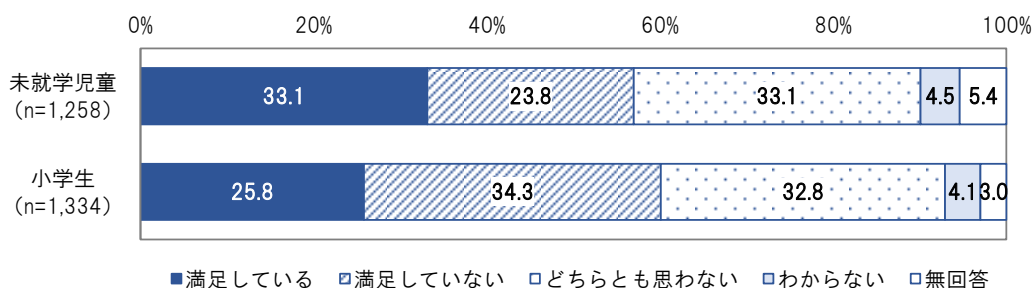
○外出したときに困ること・困ったことは、「買い物や用事などの合間の気分転換にこどもを遊ばせる場所がない」が39.9%と最も高く、次いで「自動車の通行が多いにも関わらず歩道などがない道路が多いので心配」および「小さなこどもとの食事に配慮された場所(店)が少ない」(35.2%)、「歩道の段差などがベビーカーや自転車での通行の妨げになっている」(30.5%)となっている。



(2) こどもの遊び場に関する満足度【未就学／問 40 単数回答、小学生／問 30 単数回答】

○こどもの遊び場に関する満足度は、未就学児童では「満足している」が33.1%と3割を超え、「満足していない」(23.8%)を約10ポイント上回っている。

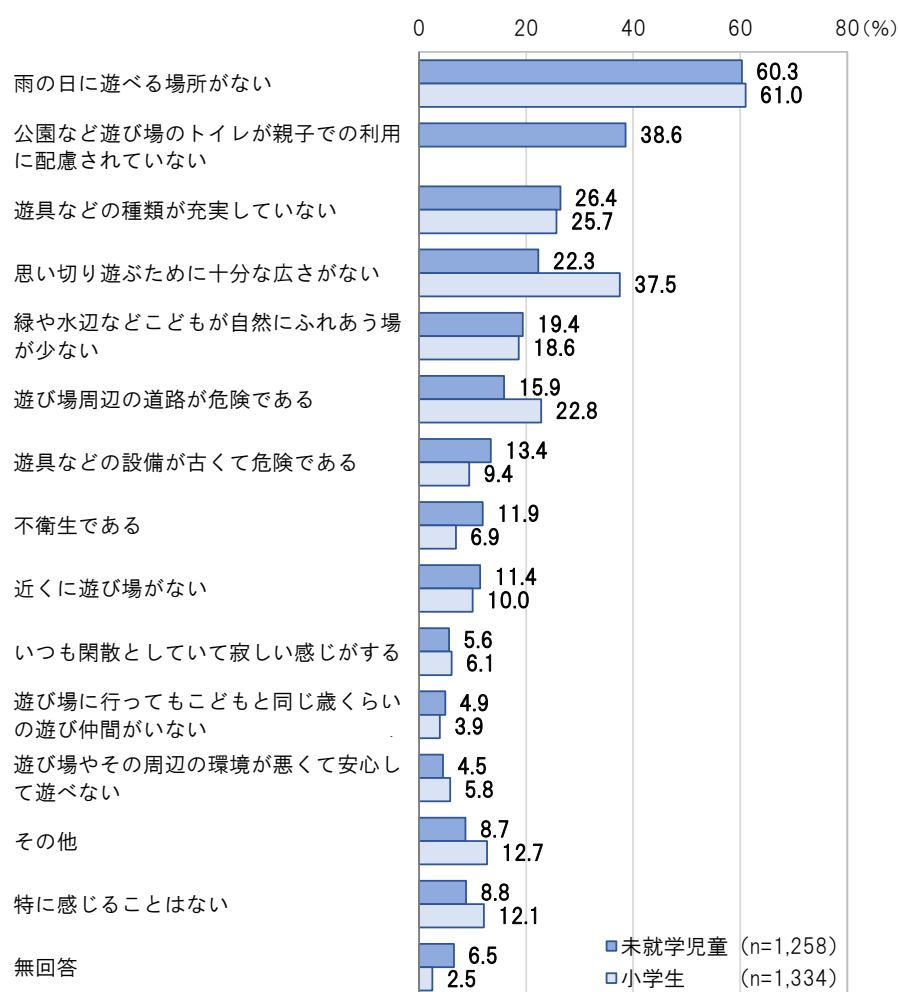
○一方、小学生では「満足していない」が34.3%と3割を超えて最も高く、「満足している」(25.8%)を10ポイント近く上回っている。



(3) こどもの遊び場について日ごろ感じること【未就学／問 41 複数回答、小学生／問 31 複数回答】

○こどもの遊び場について日ごろ感じることは、「雨の日に遊べる場所がない」が未就学児童で 60.3%、小学生で 61.0%と最も高く、次いで、未就学児童では「公園など遊び場のトイレが親子での利用に配慮されていない」が 38.6%、小学生では「思い切り遊ぶために十分な広さがない」が 37.5%となっている。

○未就学児童では「遊具などの設備が古くて危険である」や「不衛生である」などが小学生に比べて高く、小学生では「思い切り遊ぶために十分な広さがない」や「遊び場周辺の道路が危険である」が未就学児童に比べて高くなっている。

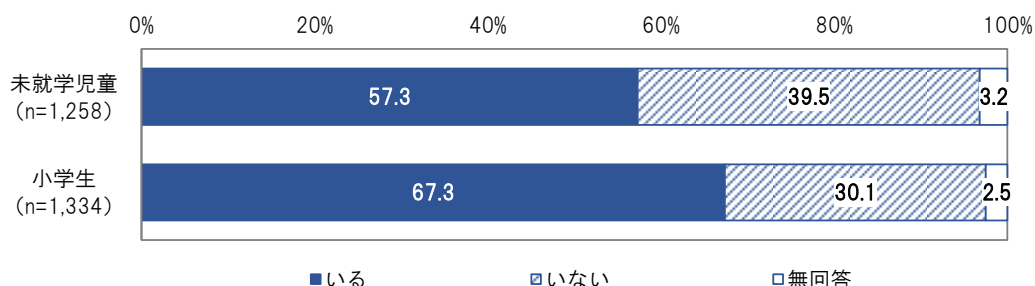


15. 子育てに関する意識について

(1) 近所で日常的にこどもの話や世間話をする人の有無

【未就学／問 42 単数回答、小学生／問 33 単数回答】

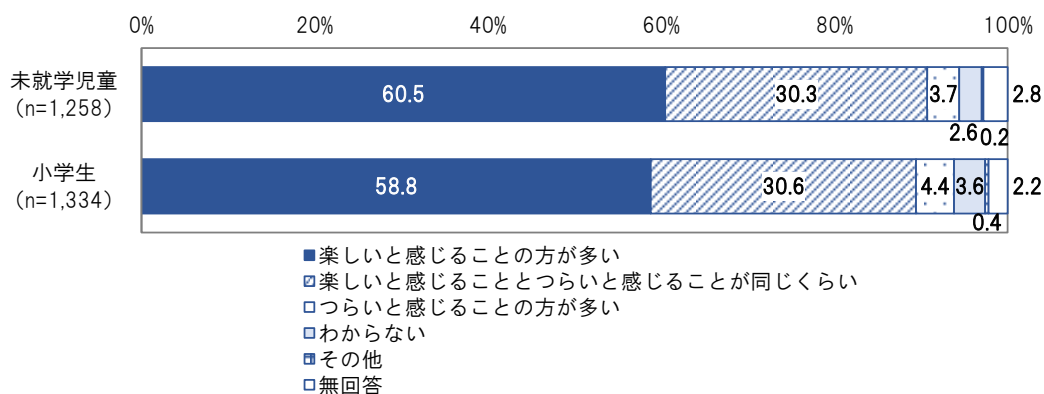
○近所で日常的にこどもの話や世間話をする人の有無は、「いる」が未就学児童で 57.3%、小学生で 67.3%と最も高くなっている。また、未就学児童では「いない」が 39.5%と約 4 割を占め、小学生に比べて高くなっている。



(2) 子育てへの楽しさ・つらさの感じ方【未就学／問 43 単数回答、小学生／問 34 単数回答】

○子育てへの楽しさ・つらさの感じ方は、「楽しいと感じることの方が多い」が未就学児童で 60.5%、小学生で 58.8%と最も高く、次いで「楽しいと感じることとつらいと感じることが同じくらい」（未就学児童：30.3%、小学生：30.6%）となっており、『楽しいと感じている』人が 9 割程度を占めている。

○一方で、「楽しいと感じることとつらいと感じることが同じくらい」と「つらいと感じることの方が多い」（未就学児童：3.7%、小学生：4.4%）を合わせた『つらいと感じている』人は 3 割以上となっている。

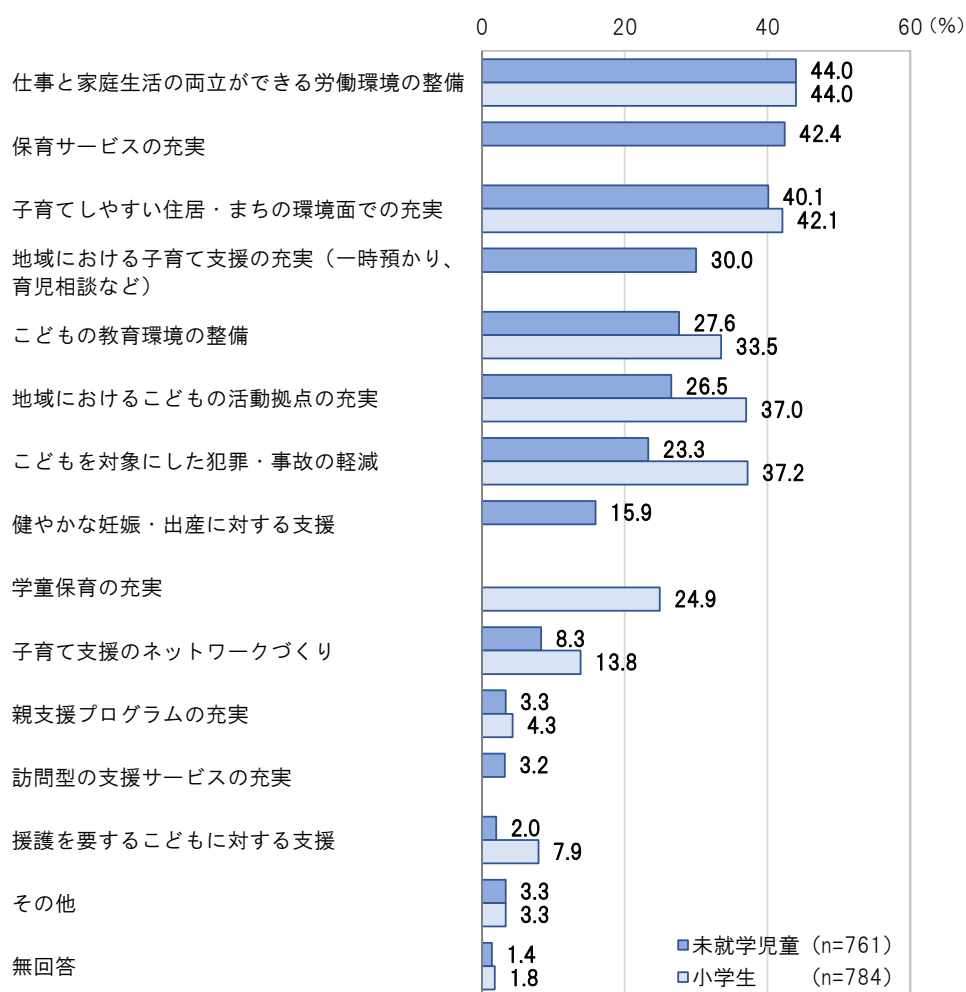


(2-1) 子育てをする中で有効と感じている支援・対策

【未就学／問 43-1 複数回答、小学生／問 34-1 複数回答】

※(2)で「楽しいと感じることの方が多い」と回答した人のみ

○子育てをする中で有効と感じている支援・対策は、「仕事と家庭生活の両立ができる労働環境の整備」が未就学児童・小学生ともに44.0%と最も高く、次いで、未就学児童では「保育サービスの充実」が42.4%、小学生では「子育てしやすい住居・まちの環境面での充実」が42.1%となっている。

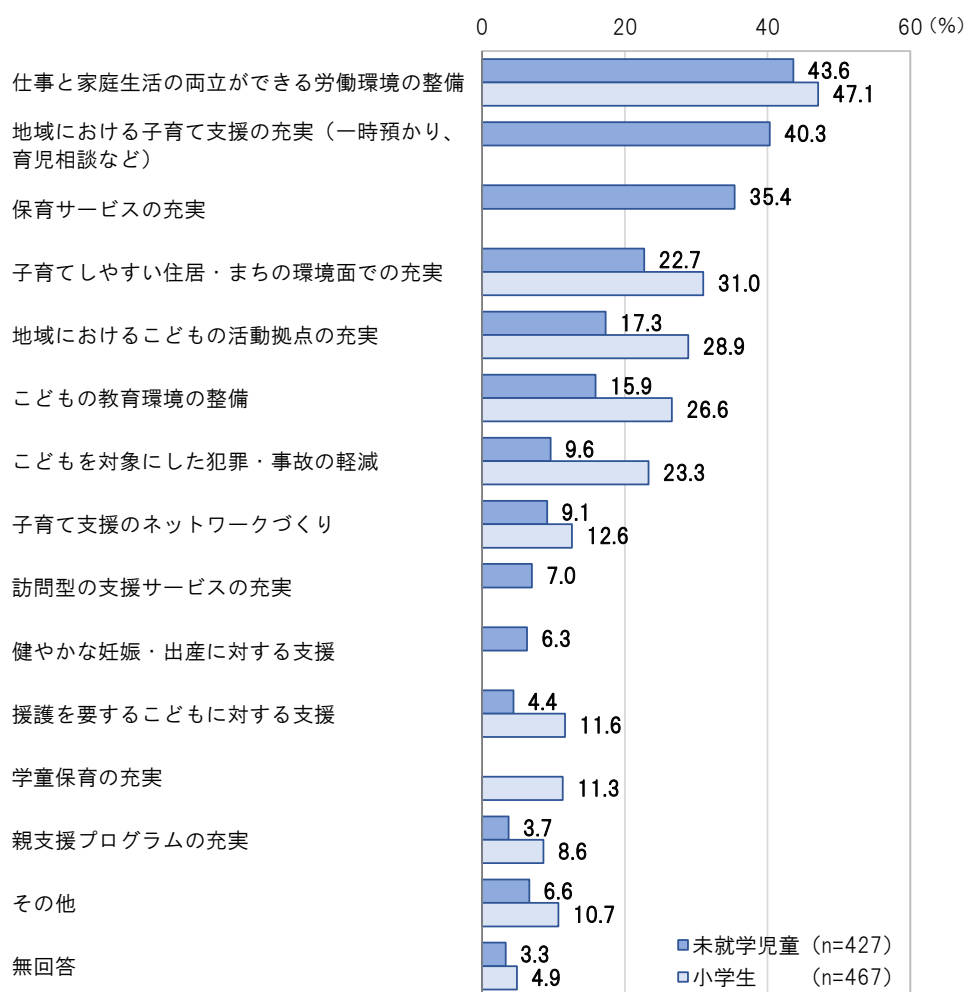


(2-2) 子育てのつらさを解消するために必要な支援・対策

【未就学／問 43-2 複数回答、小学生／問 34-2 複数回答】

※(2)で「楽しいと感じることとつらいと感じることが同じくらい」「つらいと感じることの方が多い」と回答した人のみ

○子育てのつらさを解消するために必要な支援・対策は、「仕事と家庭生活の両立ができる労働環境の整備」が未就学児童で43.6%、小学生で47.1%と最も高く、次いで、未就学児童では「地域における子育て支援の充実（一時預かり、育児相談など）」が40.3%、小学生では「子育てしやすい住居・まちの環境面での充実」が31.0%となっている。

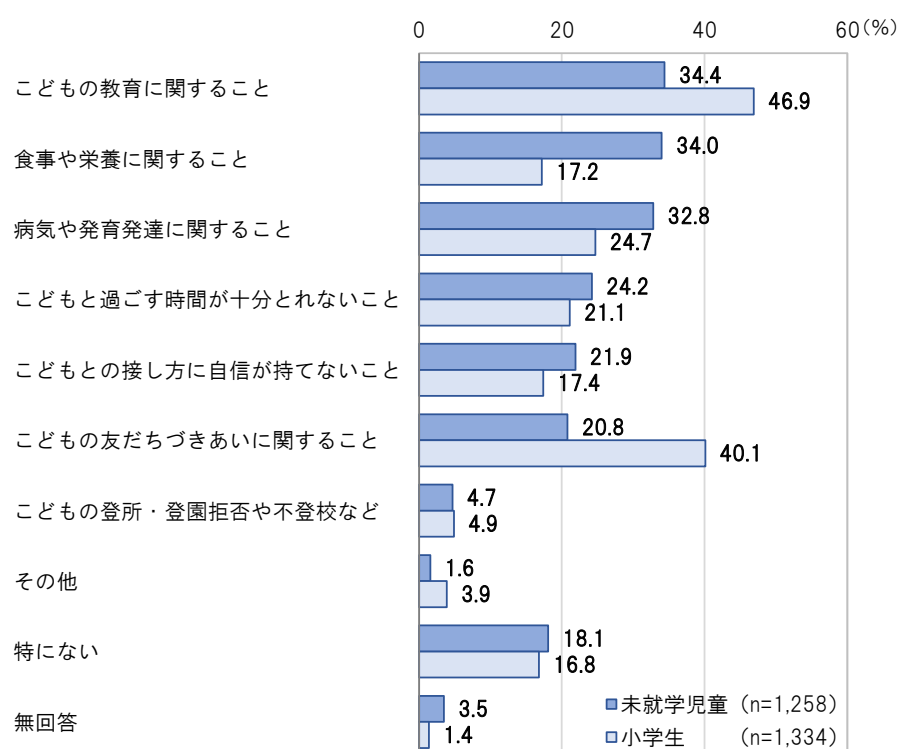


(3) 子育てに関して日常悩んでいること・気になること【未就学／問 44 複数回答、小学生／問 35 複数回答】

① こどもに関すること

○子育てに関して日常悩んでいること・気になることで、こどもに関することでは、「こどもの教育に関すること」が未就学児童で 34.4%、小学生で 46.9%と最も高く、次いで、未就学児童では「食事や栄養に関すること」が 34.0%、小学生では「こどもの友だちづきあいに関すること」が 40.1%となっている。

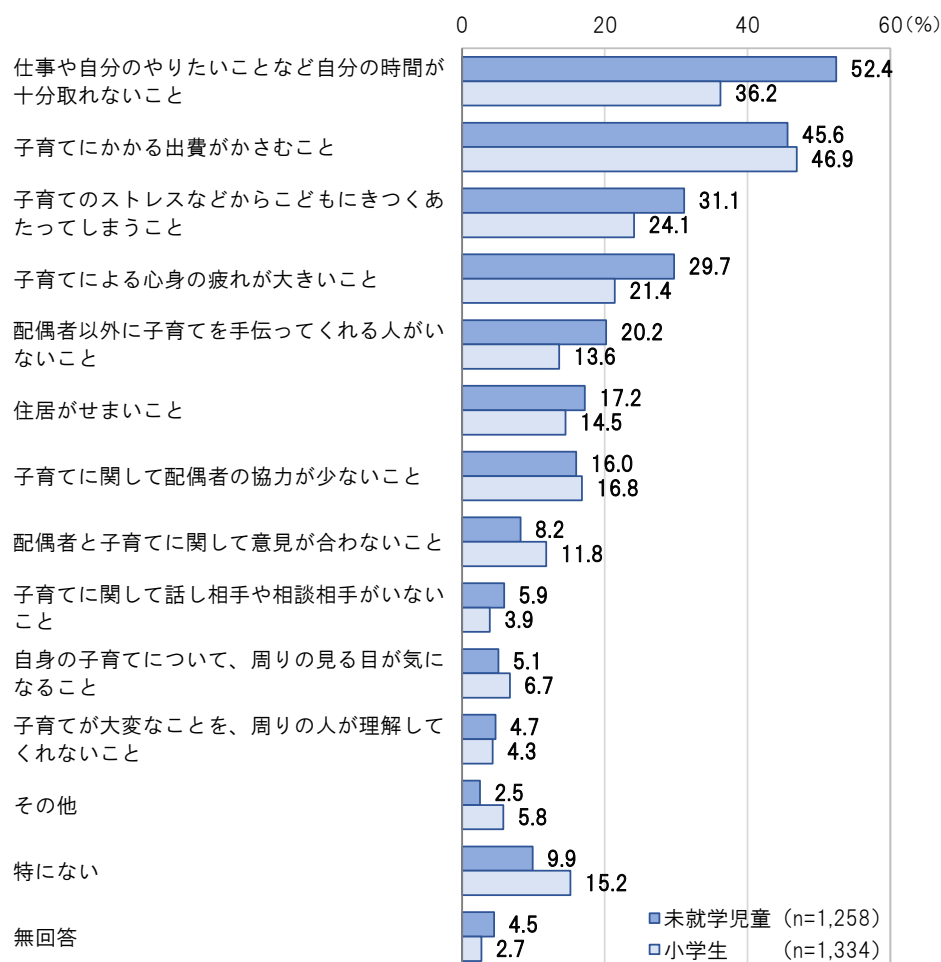
○未就学児童では「食事や栄養に関すること」や「病気や発育発達に関すること」などの発達や発育に関する項目で小学生に比べて高く、小学生では「こどもの教育に関すること」や「こどもの友だちづきあいに関すること」などの教育や社会性に関する項目で未就学児童に比べて高くなっている。



② 自身に関すること

○子育てに関して日常悩んでいること・気になることで、自身に関することでは、未就学児童では「仕事や自分のやりたいことなど自分の時間が十分取れないこと」が52.4%と最も高く、次いで「子育てにかかる出費がかさむこと」(45.6%)となっているのに対し、小学生では「子育てにかかる出費がかさむこと」が46.9%と最も高く、次いで「仕事や自分のやりたいことなど自分の時間が十分取れないこと」(36.2%)となっている。

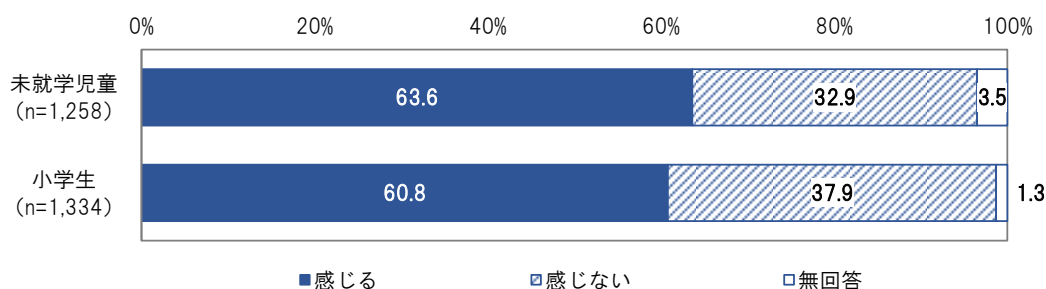
○未就学児童では「仕事や自分のやりたいことなど自分の時間が十分取れないこと」や「子育てのストレスなどからこどもにきつくあたってしまうこと」、「子育てによる心身の疲れが大きいこと」、「配偶者以外に子育てを手伝ってくれる人がいないこと」などで小学生に比べて高く、小学生では「子育てにかかる出費がかさむこと」や「配偶者と子育てに関して意見が合わないこと」などで未就学児童に比べてやや高くなっている。



(4) 子育てが地域の人や社会に支えられていると感じるか

【未就学／問 45 単数回答、小学生／問 36 単数回答】

○子育てが地域の人や社会に支えられていると感じるかは、「感じる」が未就学児童で 63.6%、小学生で 60.8%と最も高くなっている。また、小学生では「感じない」が 37.9%と4割近くを占め、未就学児童に比べて高くなっている。

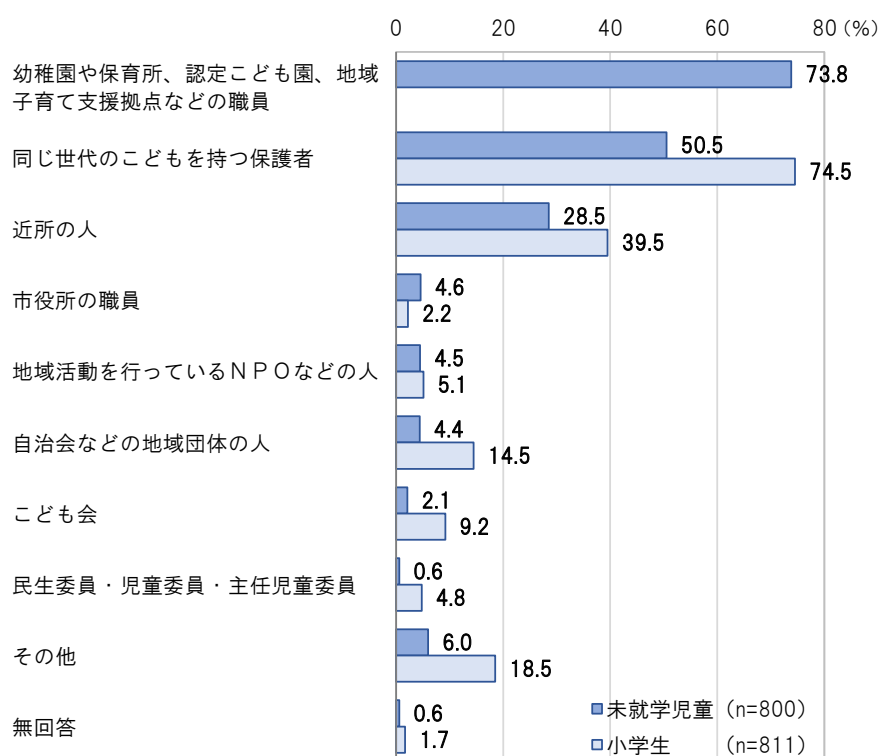


(4-1) 子育てを支えてもらっていると感じる人【未就学／問 45-1 複数回答、小学生／問 36-1 複数回答】

※(4)で「感じる」と回答した人のみ

○子育てを支えてもらっていると感じる人は、未就学児童では「幼稚園や保育所、認定こども園、地域子育て支援拠点などの職員」が73.8%と最も高く、次いで「同じ世代のこどもを持つ保護者」(50.5%)となっており、小学生では、「同じ世代のこどもを持つ保護者」が74.5%と最も高く、次いで「近所の人」(39.5%)となっている。

○小学生では「同じ世代のこどもを持つ保護者」や「近所の人」、「自治会などの地域団体の人」、「こども会」などで未就学児童に比べて高くなっている。

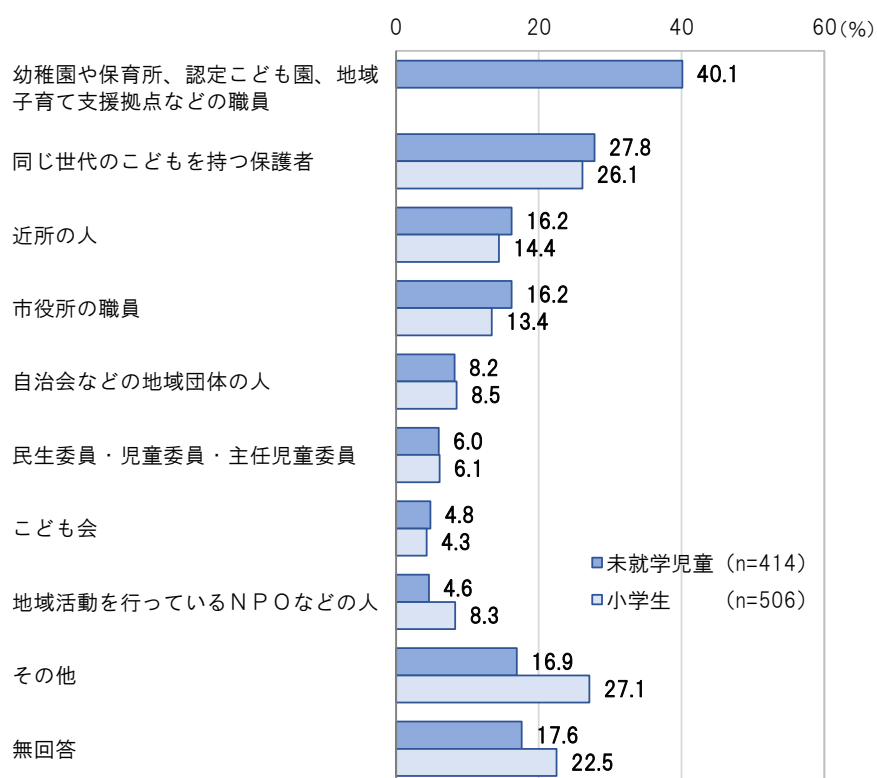


(4-2) 子育てを支えてほしいと感じる人【未就学／問 45-2 複数回答、小学生／問 36-2 複数回答】

※(4)で「感じない」と回答した人のみ

○子育てを支えてほしいと感じる人は、未就学児童では「幼稚園や保育所、認定こども園、地域子育て支援拠点などの職員」が40.1%と最も高く、次いで「同じ世代のこどもを持つ保護者」(27.8%)となっており、小学生では、「同じ世代のこどもを持つ保護者」が26.1%と最も高く、次いで「近所の人」(14.4%)となっている。

○(4-1)支えてもらっていると感じる人と比べると、「自治会などの地域団体の人」や「民生委員・児童委員・主任児童委員」、「こども会」などの地域の団体等から支えてほしいと望む人が多い結果となっている。



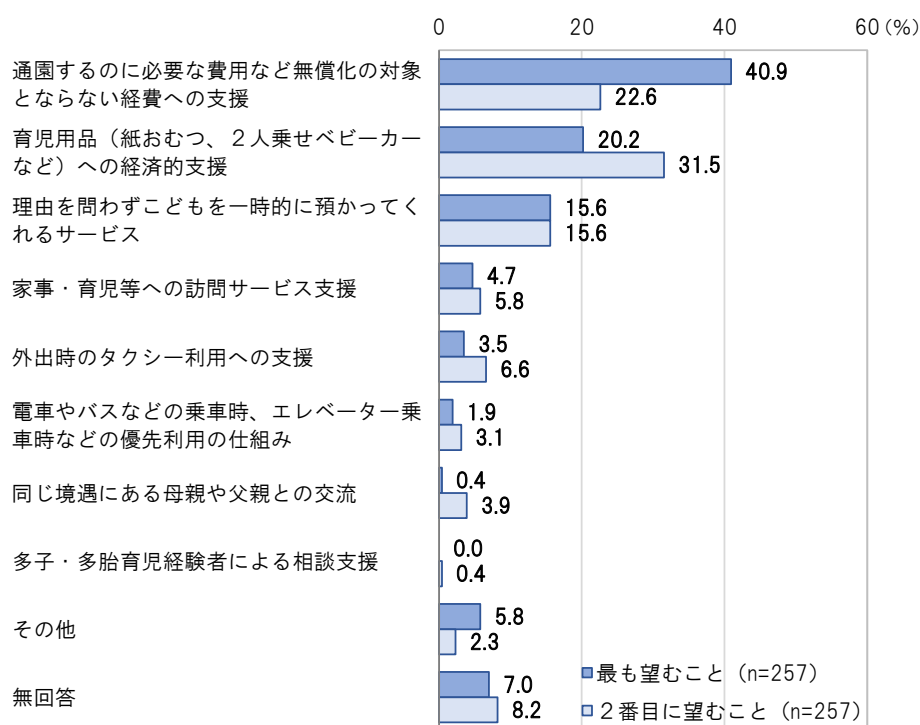
(5) 多子世帯の子育ての負担軽減のための施策

【未就学／問 46・問 46-1 複数回答、小学生／問 38・問 38-1 複数回答】

※1 (4) でこどもが3人以上いる、もしくは1 (4-1) で「はい」と回答した人のみ

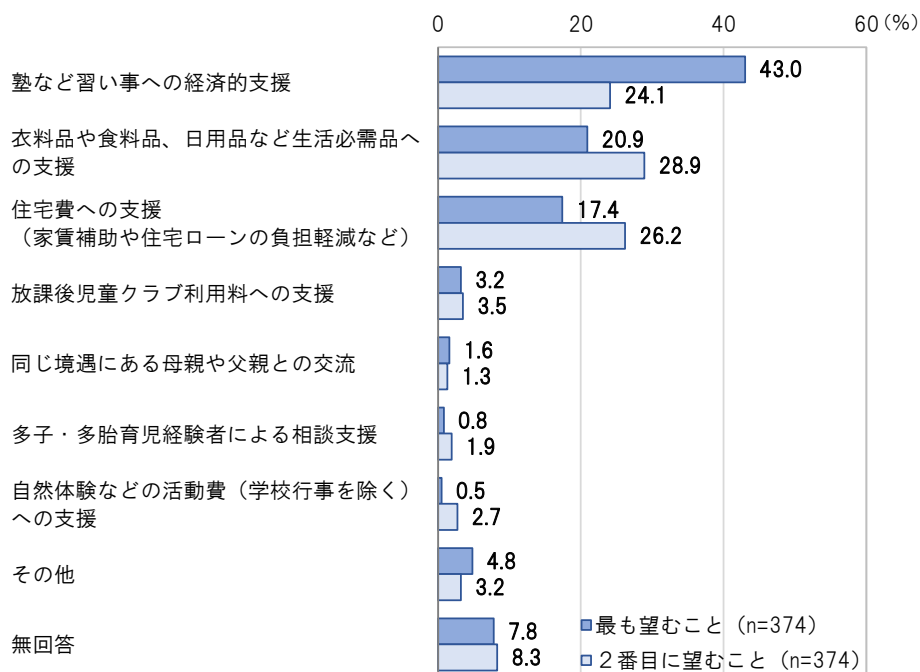
① 未就学児童

○未就学児童の多子世帯の子育ての負担軽減のための施策は、「通園するのに必要な費用など無償化の対象とならない経費への支援」が最も高く、次いで「育児用品（紙おむつ、2人乗せベビーカーなど）への経済的支援」、「理由を問わずこどもを一時的に預かってくれるサービス」となっており、経済的支援への要望が高い結果となっている。



② 小学生

○小学生の多子世帯の子育ての負担軽減のための施策は、「塾など習い事への経済的支援」が最も高く、次いで「衣料品や食料品、日用品など生活必需品への支援」、「住宅費への支援（家賃補助や住宅ローンの負担軽減など）」となっており、教育費や生活費などの経済的支援への要望が高い結果となっている。



Ⅲ 調査結果からみえてきた今後の課題

1. 仕事と子育ての両立支援

母親の就労状況をみると、フルタイムで就労している母親の割合が増加しており、就労形態での家庭類型を分類すると、「フルタイム×フルタイム」または「フルタイム×パート」の共働き家庭が7割程度を占めており、前回調査と比較しても共働き家庭が増加している傾向がみられる。また、パート就労の母親のフルタイムへの転換希望が4割程度を占め、現在就労していない母親においては、未就学児童では約4人に1人、小学生児童では3人に1人以上が「すぐにでも、もしくは1年以内に働きたい」と回答しており、今後も共働き家庭が増加していくことが推測される。

育児休業の取得率をみると、母親では「育児休業を取った、あるいは、今取っている」割合は59.6%、父親は16.0%と、前々回調査・前回調査と比較すると大きく増加しているものの、父親の取得率は低い傾向となっている。育児休業を取得しなかった理由は、父親では「職場に育児休業をとりにくい雰囲気があった」「仕事が忙しかった」「収入源となり、経済的に苦しくなる」などが高く、子育てと仕事の両立支援に対する職場の理解が必ずしも十分でないなど、育児休業を取得するための職場環境が整っていない状況がうかがえる。企業・事業所における仕事と子育ての両立支援に対する理解の一層の促進が必要である。

また、育児休業を取った後、職場に復帰した人では、希望の復帰時期より早く復帰した人が母親では約半数、父親では3割以上となっている。その理由としては、母親では「保育所の入所のタイミングに合わせるため」、父親では「経済的な理由で早く復帰する必要があるため」が高くなっている。現在、教育・保育施設やサービスを利用していない理由として「利用したいが、幼稚園や保育所、認定こども園などに空きがない」が〔ひとり親家庭〕や〔フルタイム×フルタイム〕家庭で多いことから、希望した時期に入所できるよう就学前の教育・保育施設やサービスの充実や休業・求職中における柔軟な対応に努めることが必要である。

子育てを楽しんでいる人の子育て支援策として有効と感じる支援・対策は「仕事と家庭生活の両立ができる労働環境の整備」、子育てをつらいと感じている人の子育てのつらさを解消するために必要な支援・対策においても「仕事と家庭生活の両立ができる労働環境の整備」が未就学児童・小学生ともに最も高くなっている。その他、市の取り組みに関する満足度においても、未就学児童を対象とした項目の中では、仕事と子育ての両立ができる職場環境や保育サービスでの満足度が最も低くなっており、子育てを行う保護者にとって仕事と子育ての両立支援が最も望まれている結果となっている。

仕事と子育てを両立させる上で課題だと思うことは、未就学児童では「こどもや自分が病気等をしたときにこどもをみてくれる人がいないこと」や「こどもを預かってくれる学童保育などがみつからないこと」などの、こどもの預かり先のことでの課題が高くなっている。学童保育においては、「保護者が働いている」ことを理由に利用する人が多く、特に小学校低学年での利用に対するニーズが高いことから、共働き家庭の増加の背景を踏まえると今後も一層の利用ニーズの高まりが見込まれる。就学前から就学期に至る切れ目のない保育の提供体制の充実が必要である。

2. 理想とする子どもの数が持てるための対策の充実

理想とするこどもの人数が現在のこどもの人数より多い人が約半数を占めており、そのうち子どもをもう1人以上持ちたいと「思わない」人が3割以上を占めている。持ちたいと思うために必要な環境では、「収入が増えれば持ちたい」が最も高く、経済的な負担がネックになっている人が多いことがうかがえる。

子育てに関して日常悩んでいること・気になることで、自身に関することでは、「子育てにかかる出費がかさむこと」が上位項目となっており、多子世帯において子育ての負担軽減のために必要な施策では、未就学児童では「通園するのに必要な費用など無償化の対象とならない経費への支援」や「育児用品（紙おむつ、2人乗せベビーカーなど）への経済的支援」、小学生では「塾など習い事への経済的支援」や「衣料品や食料品、日用品など生活必需品への支援」、「住宅費への支援（家賃補助や住宅ローンの負担軽減など）」が高く、子どもを生み育てるにあたっては依然として経済的な面での支援が課題となっている。

また、市に充実してほしい子育て支援サービスは、「小児救急など安心してこどもが医療機関を利用できる体制を整備する」(61.5%)、「扶養控除の維持などの子育て世帯への経済的援助の拡充」(58.5%)、「保育所や学童保育などこどもを預ける施設を増やす」(52.8%)、「親子が安心して集まれる公園などの屋外の施設を整備する」(52.1%)などが上位項目となっており、経済的援助の拡充に合わせ、仕事と子育ての両立を支援する各種サービスの拡充や医療機関・遊び場等の環境整備など、子育て支援に関してソフト面・ハード面など多岐にわたる支援や環境整備が必要である。

3. 地域での子育て支援サービスの充実

未就学児童で平日に定期的に幼稚園や保育所、認定こども園などを利用している子どもが病気やけがなどをしたことがあった家庭では、父親や母親が休んで対応する場合が多く、そのうち約3人に1人以上が病児保育施設を利用しなかったと回答している。利用しなかった理由では「病気の子どもを家族以外の人にみてもらうのは不安である」「病気の子どもは家族がみるべきである」といった意見もあるが、病児保育を利用する場合に望ましいサービスでは、「施設に併設した施設でこどもをみてるサービス」や「小児科に併設した施設でこどもをみてるサービス」等を望む人が多く、安心して子どもを預けられる施設を確保し、子育てと仕事の両立ができる支援の充実が必要である。

保護者の通院や不定期な仕事などを理由に子どもを不定期に預かるサービスは「利用していない」人が大半を占めるものの、保育所やこども支援センターの一時預かりの利用希望のある人が半数近くを占め、「買物、こどもたちや自身の習い事、リフレッシュ」を目的とした利用希望が高くなっている。短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用希望においては「利用する必要はない」が最も高くなっているものの、「保護者や家族の病気」や「保護者や家族の育児疲れ・不安」などを目的に利用を望む人も一定数みられる。核家族化や共働き家庭の増加が進む中で、家庭や地域での子育ての協力者が少ないことが推測されることから、今後の就労ニーズに対応していくためには、一時預かりに対する提供体制の充実を図ることが必要である。

一方、地域子育て支援拠点事業については、利用状況は2割未満となっているものの、今後新たに利用したい人も約2割となっていることから、利用ニーズが高いことがうかがえる。利用希望者が利用したいと思うサービスは「常設の子育て親子の交流の場の提供」、「子育てに関する相談・援助」、「地域の子育て関連情報の提供」などが上位項目となっており、交流機能や情報提供を充実させるなど、保護者の子育てに関する不安や悩みの軽減につなげる必要がある。

4. 相談・情報提供体制の充実

子育てや教育について気軽に相談できる人は未就学児童・小学生とともに9割程度が「いる／ある」と回答しており、その相談先では「配偶者（パートナー）」「自身や配偶者（パートナー）の親、親せき、（同居している）家族」「友人や知人」が上位を占め、関係機関等への相談は少ない結果となっている。また、「いない／ない」が未就学児童で7.0%、小学生で8.7%と、ともに1割近くとなっている。

本市で実施をしている各種子育て支援サービスについては、認知度が高い事業もあるものの、大半の事業で「知らない」が「知っている」を上回っている。また、利用状況では大半の事業で1割未満の利用率となっているのに対し、今後の利用意向は概ね2割以上を占め、認知度と比べても高い事業もみられることから、各種サービスについて情報が届いていない人がいることがうかがえる。相談したいとき、最初にどこに相談すればよいのか窓口の明確化を図ることのほか、各種事業の紹介や利用の仕方を含め、必要な人に必要な情報がとどくよう、より一層の広報が必要である。

5. 子育て家庭の孤立を防ぐ支援策の充実

近所（お住まいの近く）で日常的にちょっとした子どもの話や世間話をする人がいる保護者の割合は、未就学児童では6割近く、小学生では7割近くとなり、前回調査と比較すると減少している。

また、日頃子どもをみてくれる人が「いずれもいない」人は2割程度を占めており、前回調査と比較すると増加している。

子育てが地域の人や社会に支えられていると感じる割合は未就学児童・小学生ともに6割程度となっており、前回調査と比較すると減少している。地域とのつながりの希薄化や核家族化、少子化などの背景もあり、孤立している子育て家庭が一定数みられる。

子育て家庭の孤立は、育児不安や困難などの問題だけでなく、各種支援の必要性の気づきの遅れや虐待につながるおそれもあることから、子育てのつらさを軽減するためにも、地域で子育て家庭を見守り、支えることができるコミュニティづくりが必要である。